

内丸地区再整備基本計画 中間とりまとめ（案）

～ 山河に抱かれ 歩いてつながる クリスタルシティ盛岡 ～

令和5年3月

目 次

序論 再整備の背景・位置付け.....	1
第1章 中心市街地・内丸地区の現状.....	7
第2章 「盛岡らしさ」と内丸地区の特徴・課題.....	18
第3章 再整備の目標.....	25
第4章 再整備の方針.....	27
第5章 実現手段の検討.....	34
第6章 今後の検討に向けて.....	36
参考 うちまるサロンについて.....	38

盛 岡 市

序論 再整備の背景・位置付け

1. 背景

- 人口増加・高度経済成長が終わり、安定・成熟した都市型社会の実現が求められています。
- 近年、①コンパクト・プラス・ネットワーク型都市の形成、②自動車から公共交通への転換、③人中心のエリアづくりなどが必要とされています。
- 盛岡市においては、2020年3月に盛岡市立地適正化計画を作成し、持続可能な都市経営を推進しています。

○盛岡市も過去には松園や盛南等の郊外部に市街地を拡張し、人口集中地区（DID）が広がってきました。また、盛岡駅西口地区の都市開発にも取り組んできました。

○その一方で、中心市街地では商品販売額の低下とともに、多くの建物が更新時期を迎えるようになってきました。

○結果、2040年の人口増減率で大通・菜園地区や内丸地区等の中心市街地では人口が減少する一方、盛南地区や盛岡駅西口地区では人口が増加すると予測されています。

○コンパクト・プラス・ネットワーク型の都市を形成するため、中心市街地の再生を図ることとしています。

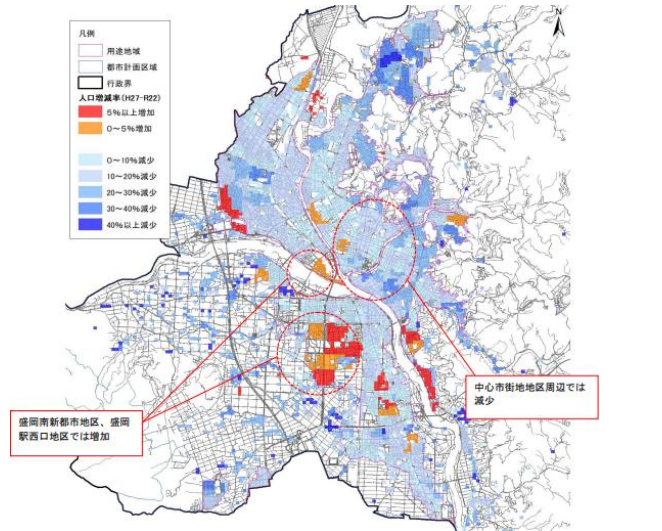


図 将来人口推計（出典：盛岡市都市計画マスタープラン）

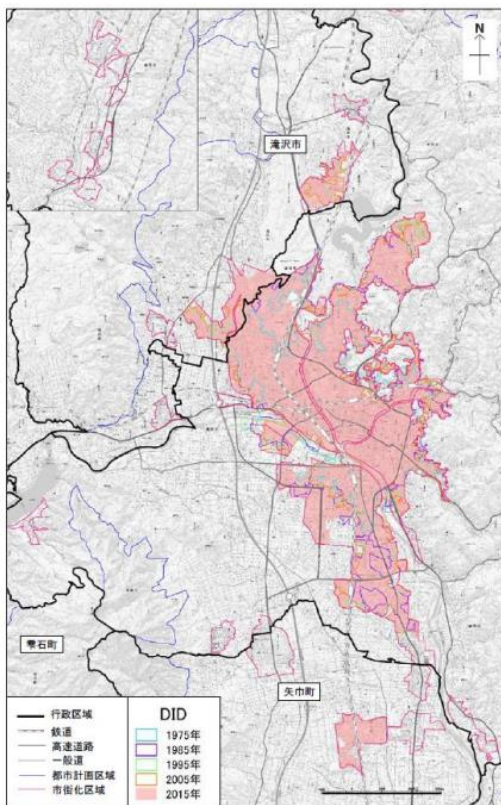


図 DIDの変遷
（出典：盛岡市都市計画マスタープラン）

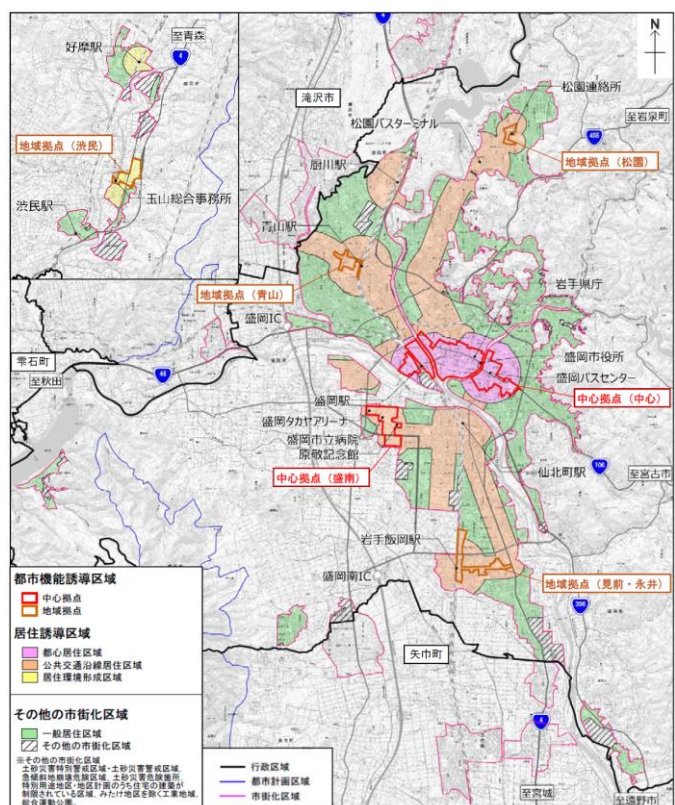


図 立地適正化計画での誘導区域等
（出典：盛岡市立地適正化計画）

2. 再整備の必要性

○内丸地区の建物群も更新時期を迎えています。そのような中で 2019 年に岩手医科大学附属病院が矢巾町に移転、同時に内丸地区には旧病院施設を利用した内丸メディカルセンターが開院し診療機能は維持されていますが、内丸地区への来街者に変化が生じています。

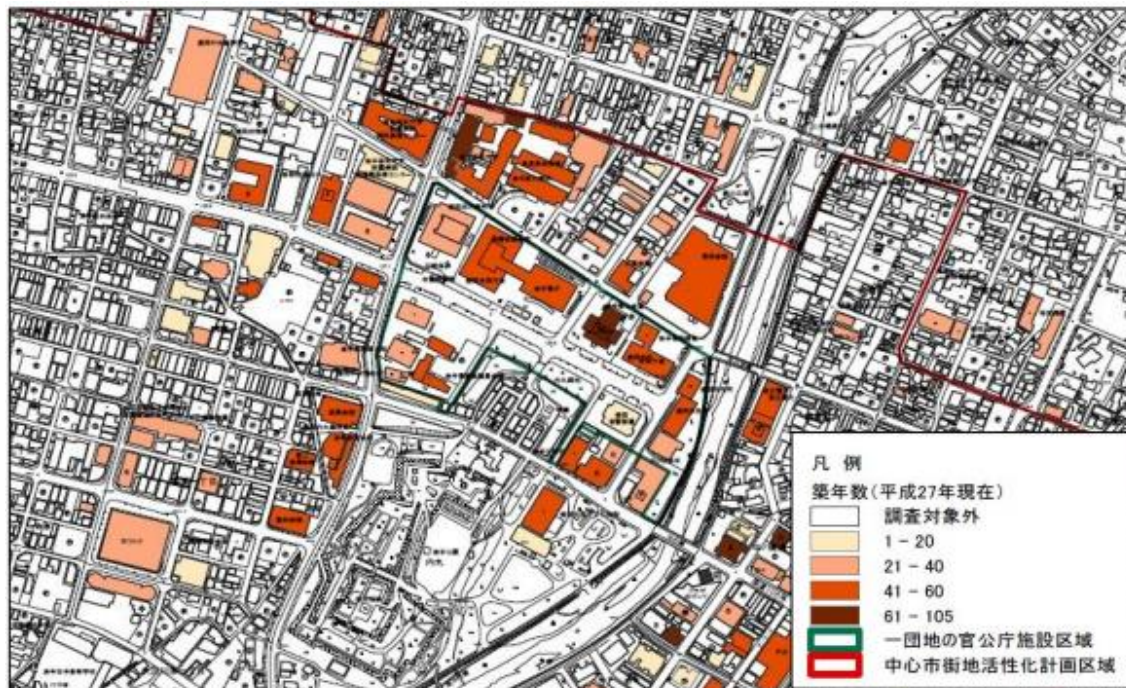


図 内丸地区周辺の建築物の状況(築年数)(出典:内丸地区将来ビジョン)

- 再整備の目的はこのような状況を順次転換し、内丸地区を盛岡市の「顔」と言える地区として活力を維持し、まちの魅力や盛岡らしさを次世代に継承することにあります。しかし、内丸地区の再整備の目的は地区レベルに留まるものではありません。
- 都市の縮小・成熟期を迎える中、地方都市である盛岡市が将来に渡って魅力的なまちであり続けるための第一歩が、内丸地区の再整備と考えられます。
- これからの時代において魅力的な都市であり続けるためには、これまでのまちづくりの良さを活かし、これからの時代にも通用する一貫したポリシーを持ったまちづくりが不可欠です。そのポリシーにつながる大方針が内丸地区再整備基本計画(以下「内丸プラン^{*1}」)という。)であり、そのような大方針を掲げ、再整備を通じてそれを体現していくことによって中心市街地の更新、ひいては市域全体の魅力向上に繋げることが再整備の目的となります。

*1 内丸プランは仮称

3. 目標年次

○時代の変化や中心市街地全体を捉えつつ、内丸プランでは内丸地区の再整備が完了すると想定される約30年後の2050年という未来を見据え、その時代において望ましいと考えられる内丸地区の具体的なありべき姿を目指します。

4. 内丸プランの位置付け

- 内丸プランは、内丸地区将来ビジョン(2022年3月策定) (以下「内丸ビジョン」という。)を具体化するものです。
- 市の各種計画における位置付けとしては、盛岡市総合計画及び盛岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の下、土地利用計画や景観デザインに関しては盛岡市都市計画マスタープラン、盛岡市立地適正化計画、盛岡市景観計画等を踏まえ、交通計画に関しては盛岡市総合交通計画、もりおか交通戦略 (以下「交通戦略」という。)等を踏まえます。また、中心市街地のあり方を検討する上では、中心市街地活性化つながるまちづくりプランとも関わります。
- なお、2050年を見据えた内丸地区のあるべき姿を示し、交通体系や中心市街地全体のあり方にも触れることから、今後の盛岡市都市計画マスタープランや盛岡市総合交通計画、交通戦略等の見直しに当たっては、内丸プランの内容を踏まえた検討が必要になります。

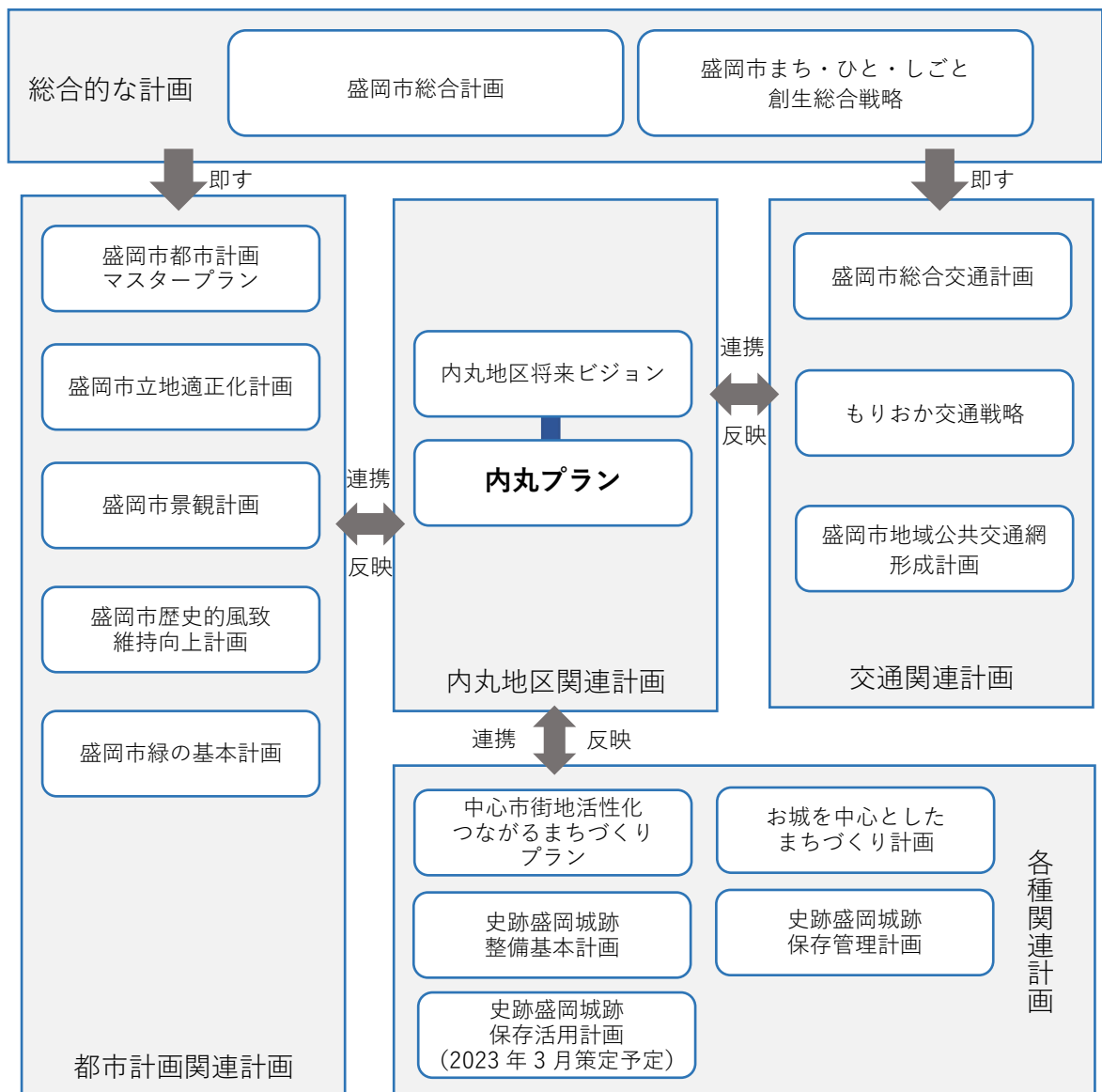


図 計画の体系図

5. 内丸プランの対象区域

○内丸プランの対象区域は、内丸ビジョンと同様に内丸行政区域と、内丸の官公庁エリアから連担する中央通り沿いのオフィスビルが立地する業務エリア及びその周辺を概ねの対象とします。

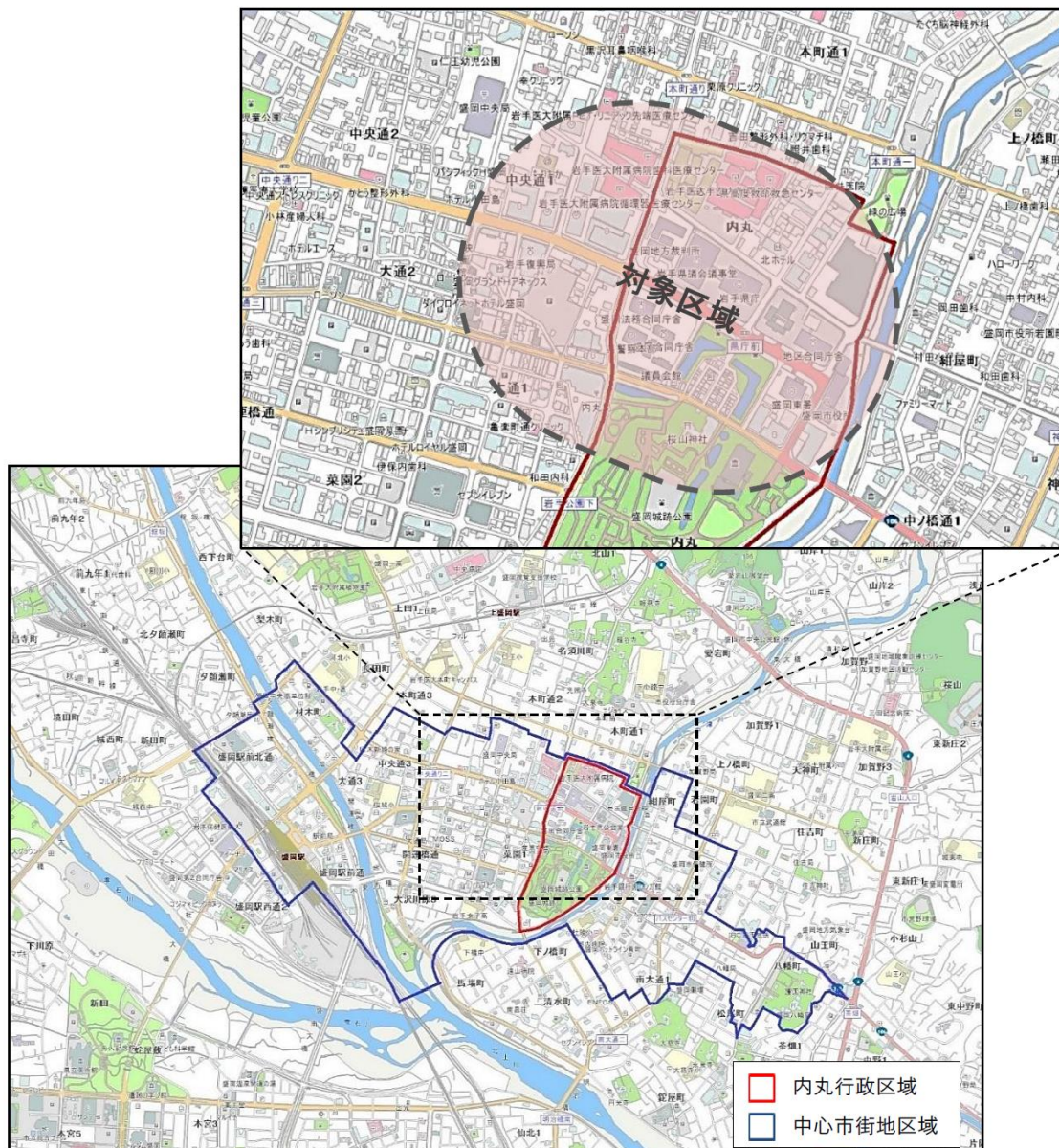


図 内丸地区再整備基本計画対象区域概略図（出典：内丸地区将来ビジョン）

6. 内丸プランの検討体制

- 内丸プランは、2022年度から2023年度の2か年にわたり検討し、策定します。
- 内丸プランの検討に当たっては、盛岡市が総合調整役となり、内丸地区再整備検討懇話会（以下「懇話会」という。）、内丸地区再整備検討会議（実務者会議）（以下「実務者会議」という。）、内丸地区学識検討会議（以下「学識会議」という。）を組織しています。
- 内丸地区再整備検討懇話会は、内丸地区将来ビジョン懇話会の委員16人で構成しています。
- 実務者会議は、一団地の官公庁施設及び周辺の更新が見込まれる各施設の実務担当者で構成しています。
- 学識会議は、有識者会議として、都市計画、都市交通、都市景観及び都市経済の各観点から専門的に検討するために、委員4名で構成しています。
- このほか、全国各地の都市再生の実務経験を持つ独立行政法人都市再生機構の協力を得ています。
- 内丸地区の再整備の機運を醸成するため、2022年度は市民ミニサロンとして「うちまるサロン」を開催しました。2023年度は、より広く市民への周知を図ることのほか、引き続き市議会からの意見を聴き検討を進めます。

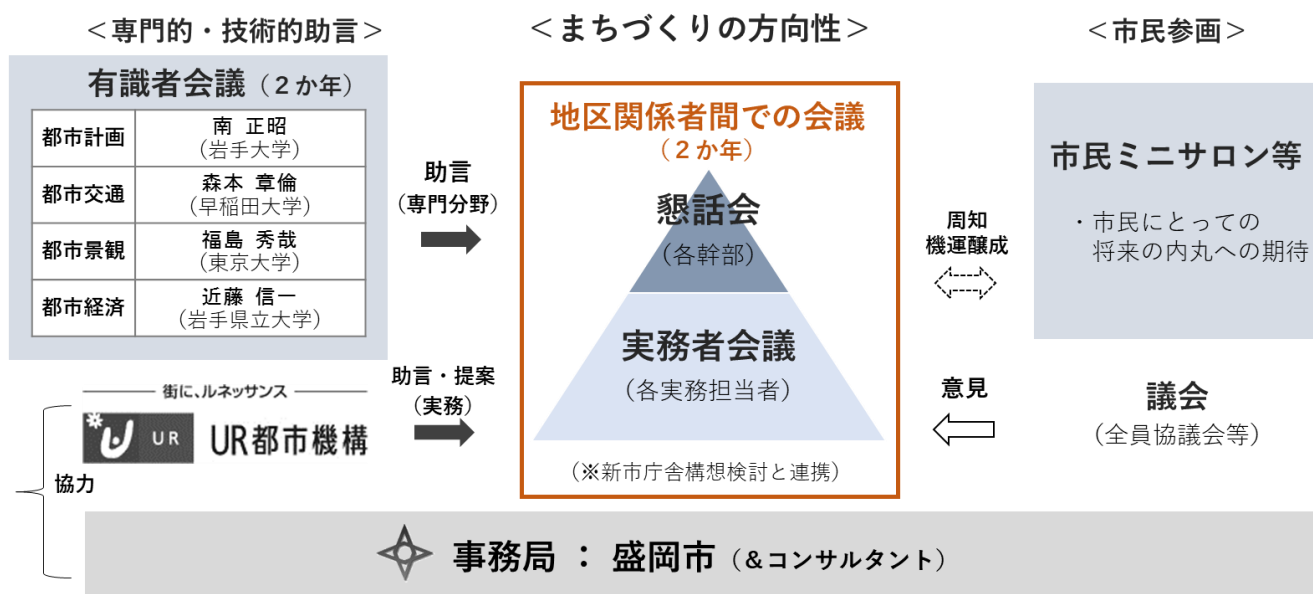


図 検討体制図

7. 内丸プランの検討フローと現在の位置

- 内丸プランは、内丸地区だけで考えるのではなく、都市全体における位置付けを踏まえて考えます。(①)
- 内丸プランでは、再整備においても盛岡の個性（盛岡らしさ）を継承し、その先の理想を未来に向けて追求する必要があります。そのためには創造性等が必要であり、専門家に意見を伺いながら検討します。(②)
- また、事業期間を考慮した実現性の高いものにする必要もあり、エリアの関係者の意見（課題や意向）、事業手法等から検討します。(③)
- 理想形と実現性を何回も行き来し、案を練っていくことで現実的かつ独創的な盛岡らしいプランを目指します。(④)
- 内丸プランが作成されると、それに沿って道路や広場等の公共空間など、具体的なインフラの整備を計画します。また、都市空間を構成する建築物についても、良好な景観が形成されるよう、きめ細かなルールを作成します。(⑤)
- このように、内丸プランは、創造的な検討を行うため、既定の計画を超える部分も出てきます。そのようなところについては、当該関連計画を見直すときに、内丸プランで検討したことを反映することを念頭に置きます。(⑥)
- 以上の検討を経て、関係機関との調整のもとに、事業化へと進めていきます。(⑦)
- この中間とりまとめの時点では、④の関係者との議論のたたき台を作成した段階であり、今後、関係者との協議を積み重ねながら、また、市民に意見をお聞きしながら土地利用や都市空間デザイン等の具体化を図っていきます。

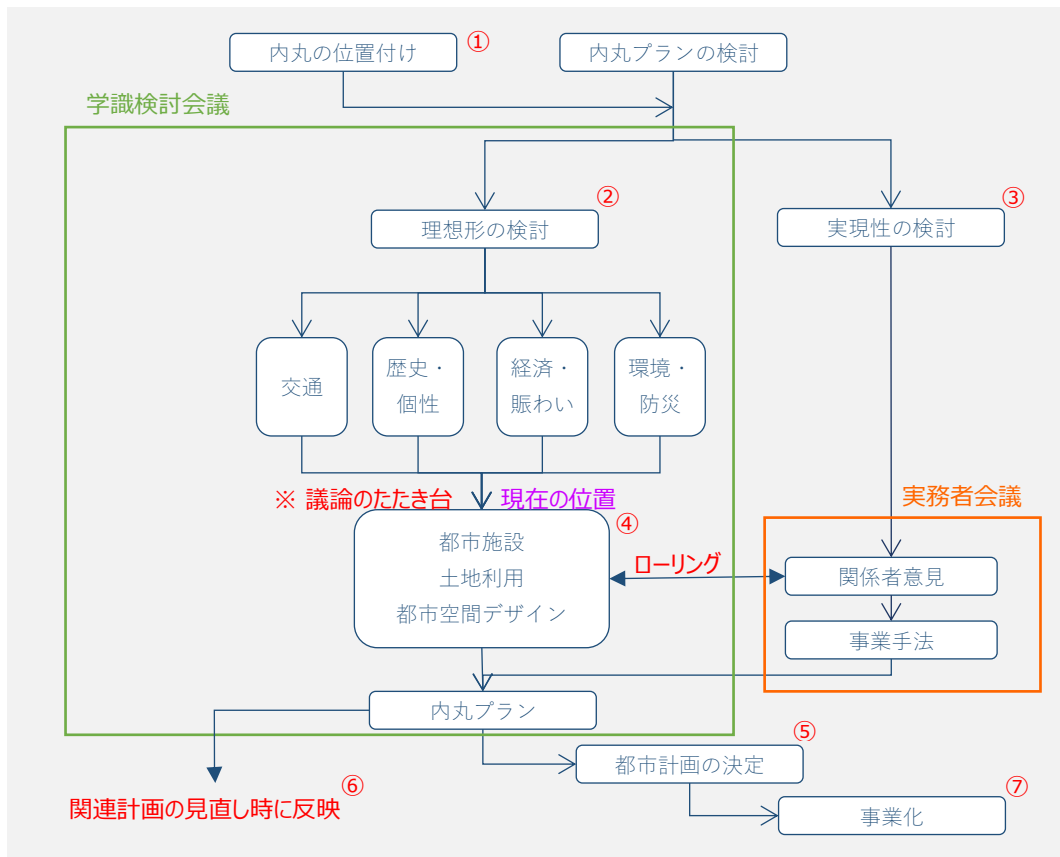


図 検討フロー図

第1章 中心市街地・内丸地区の現状

1. 都市の成り立ち

- 内丸地区は江戸時代、盛岡城の内堀と外堀に囲まれていました。かつて盛岡城の正面であった大手先から櫻山神社参道は、奥州街道を経て大名行列が入城するルートでした。
- 当時は河南地区・本町通り周辺が賑わいの中心でしたが、近代化に伴い盛岡駅が開業し、大通りや菜園通り、映画館通りが整備されたことで、賑わいは内丸地区の西側へと広がり、現在の中心市街地が形成されていきます。
- このような中で内丸地区は県庁や学校が設置され、現在の一団地の官公庁施設の素地が形成されていきました。

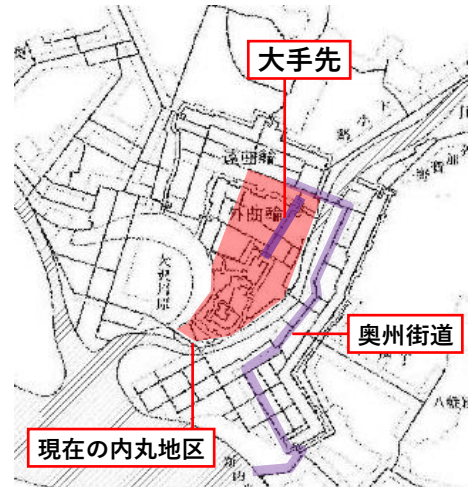


図 江戸時代の中心市街地
(出典：「よくわかる盛岡の歴史」)

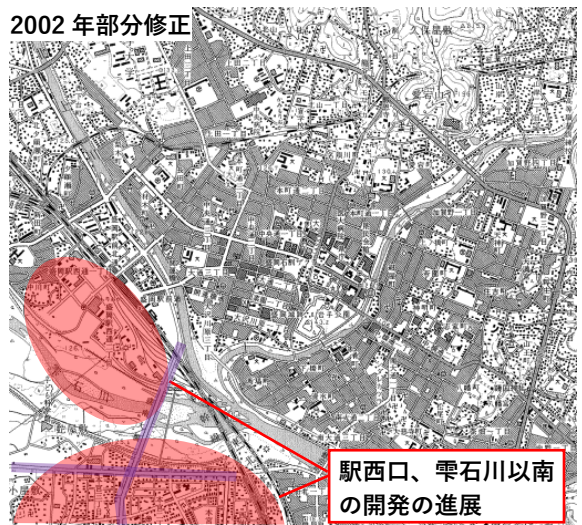
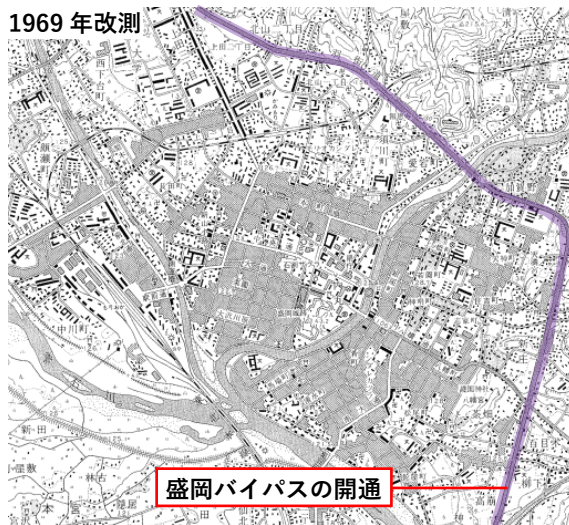
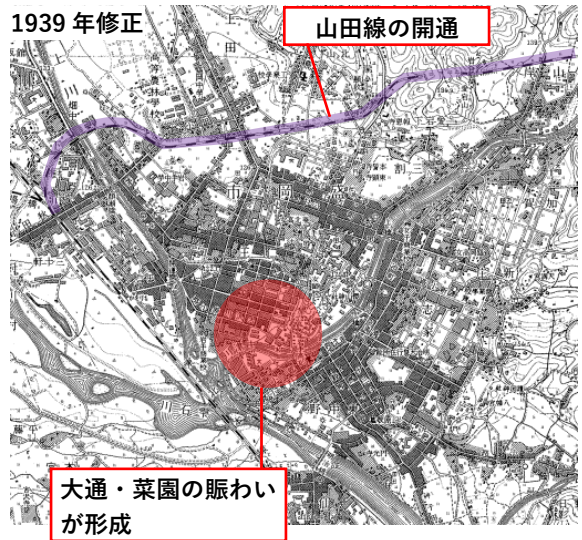
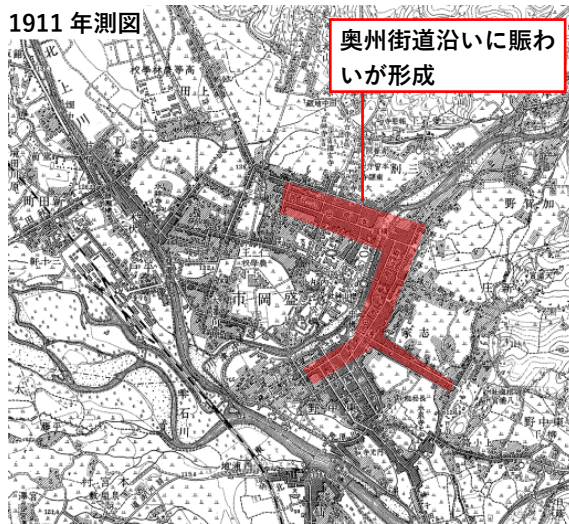
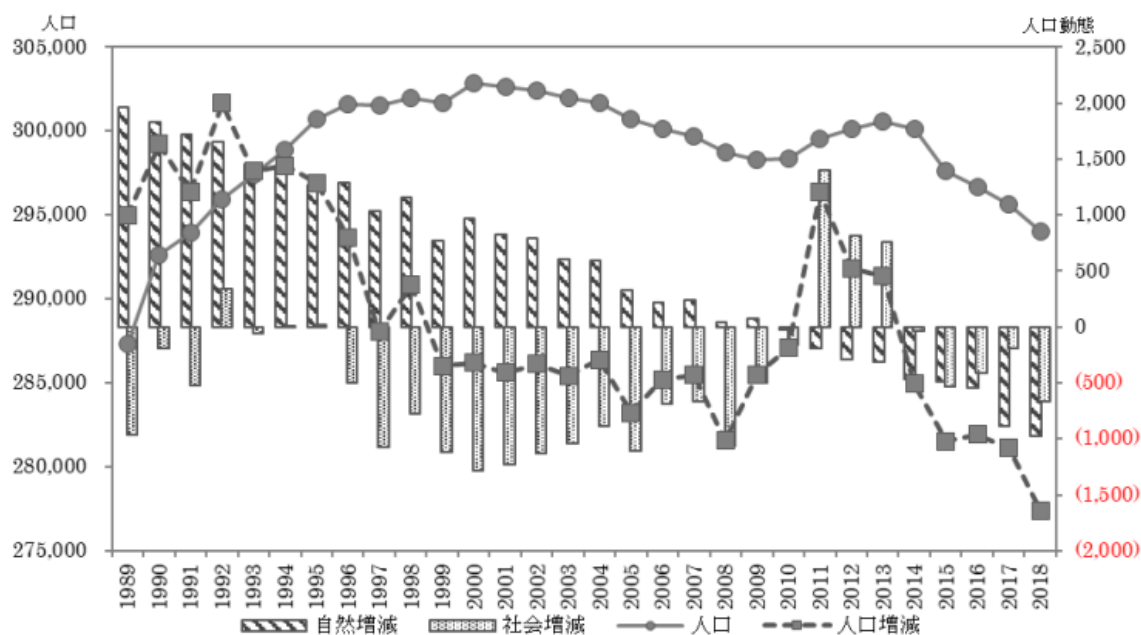


図 中心市街地の変遷 (出典：今昔マップ on the web)

2. 人口

○盛岡市の人口は東日本大震災後に一時的に増加しましたが、2014年以降、再び減少に転じました。



※人口は平成2(1990)年、平成7(1995)年、平成12(2000)年、平成17(2005)年、平成22(2010)年は国勢調査結果。その他の年は、岩手県人口移動報告年報による推計人口(盛岡市の推計値と相違する。)

図 盛岡市の人口の推移(各年10月1日現在)(出典：盛岡市人口ビジョン(2020年3月改定版))

○2014年度に総合計画の策定に際して行った人口推計では、2040年には247,898人に減少すると予想しています。

○市全体の人口が減少する予測のなかにあっても近年の現況では、中心地域の人口が一定で推移している一方、新市街地として整備した盛南地区の人口は増加しています。

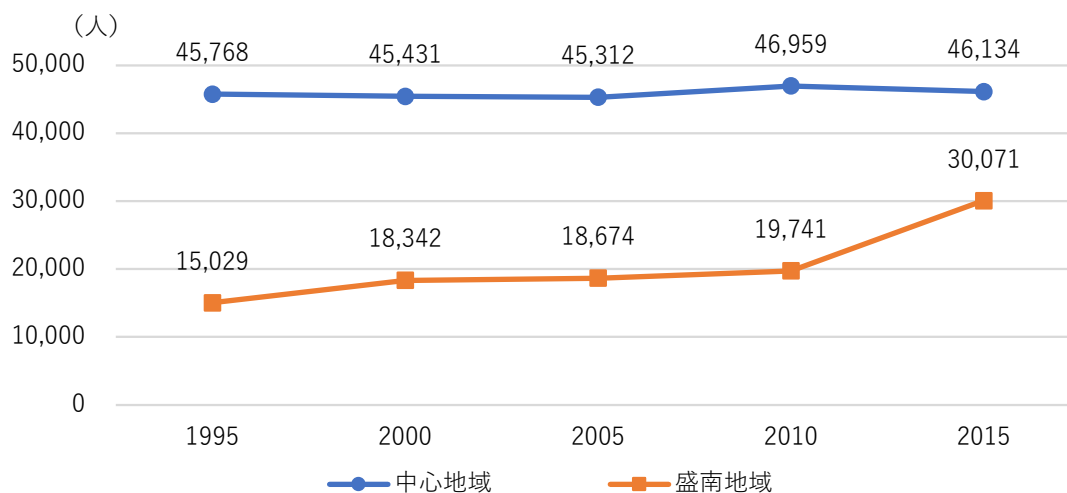


図 人口の推移(出典：盛岡市都市計画マスタープラン地域別構想)

3. 土地利用

○中心市街地及び盛南地区における土地利用特性は、以下のとおりです。

内丸地区	公益施設用地（約 39%）、公共空地（約 27%）の面積割合が地区全体の約 66%を占めており、官公庁及び盛岡城跡公園が立地している特徴が現れている。
大通・菜園地区	商業用地（約 29%）が6地区で最も高い割合を示すとともに、住宅用地（約 26%）も高く、まちなか居住が進んでいる傾向もうかがえる。他方で、商業系施設を支える駐車場需要も高く、駐車場面積が地区全体の1割を占める。
河南地区	住宅用地（約 34%）が6地区で最も高い割合を示しており、建物利用でみると併用住宅（約 20%）の占める割合が多い特徴がある。
盛岡駅東口地区	交通施設が地区全体の約4割を占める一方、建物利用でみると業務施設（約 19%）や商業施設（約 22%）の立地が多いことがうかがえる。
盛岡駅西口地区	交通施設や道路用地が地区全体の約4割を占めており、また、盛岡西口地区土地区画整理事業の完了から間もないことから、低未利用地が6%ほど分布している。
盛南地区	土地区画整理事業の進捗による戸建住宅と大型商業施設の立地が反映された土地利用、建物利用現況となっている。

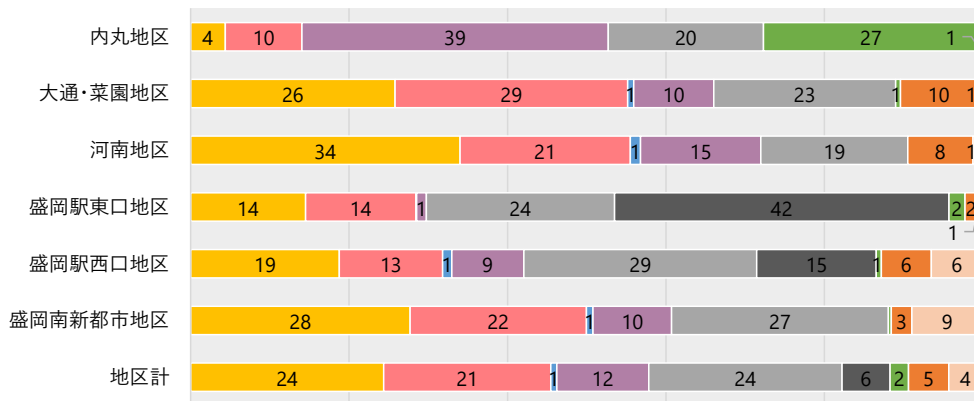


図 土地利用面積割合 (出典: 2016(平成 28)年土地利用現況調査)

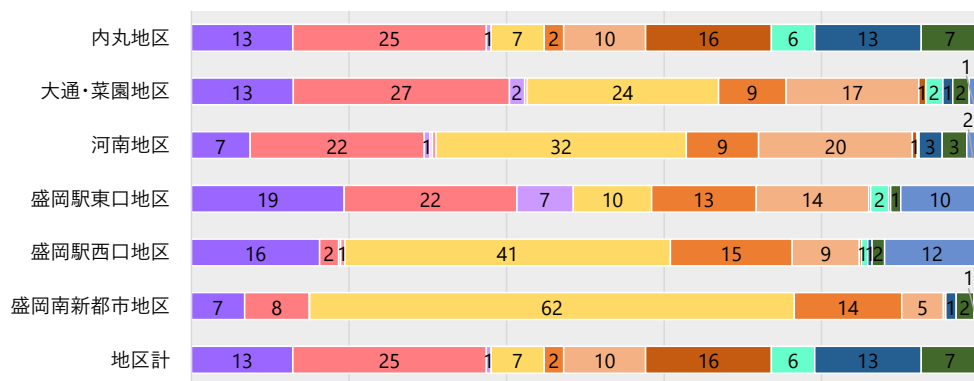


図 建物利用棟数割合 (出典: 2015(平成 27)年建物利用現況調査)

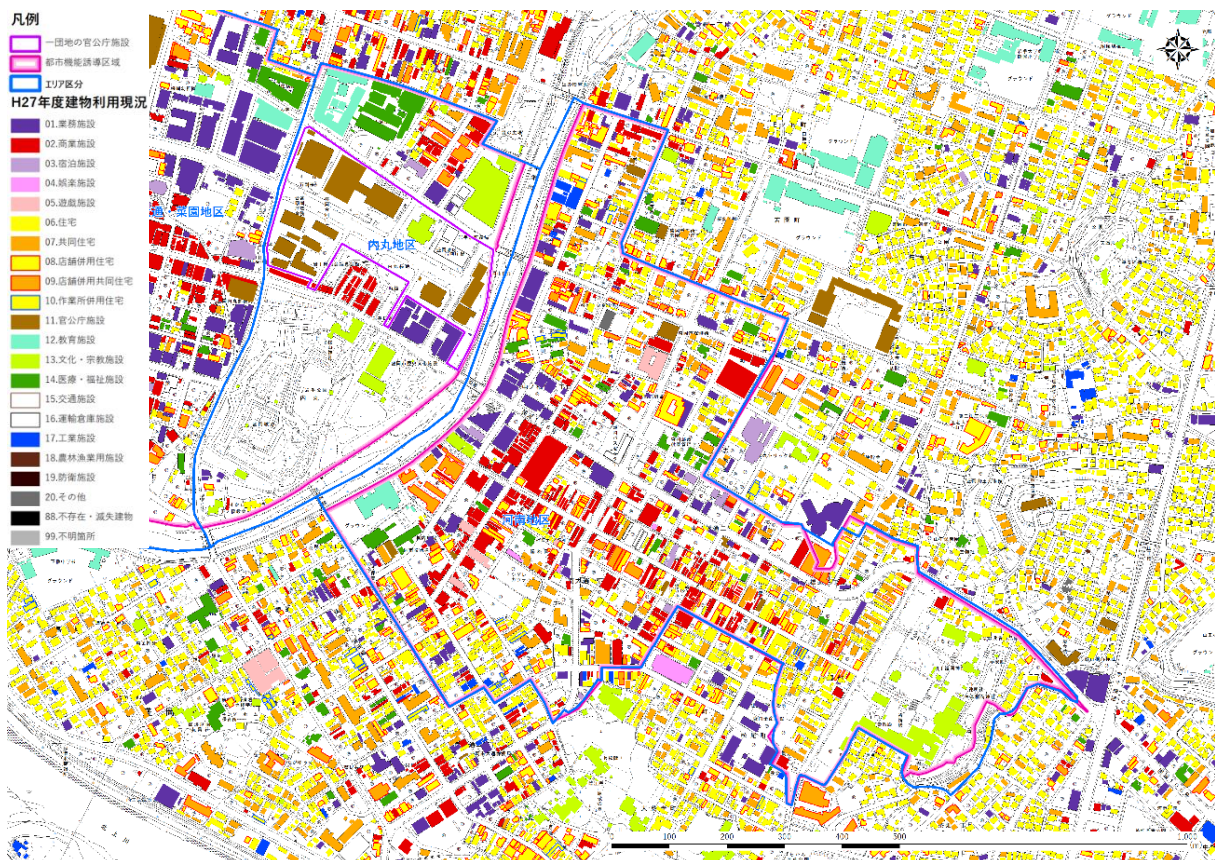
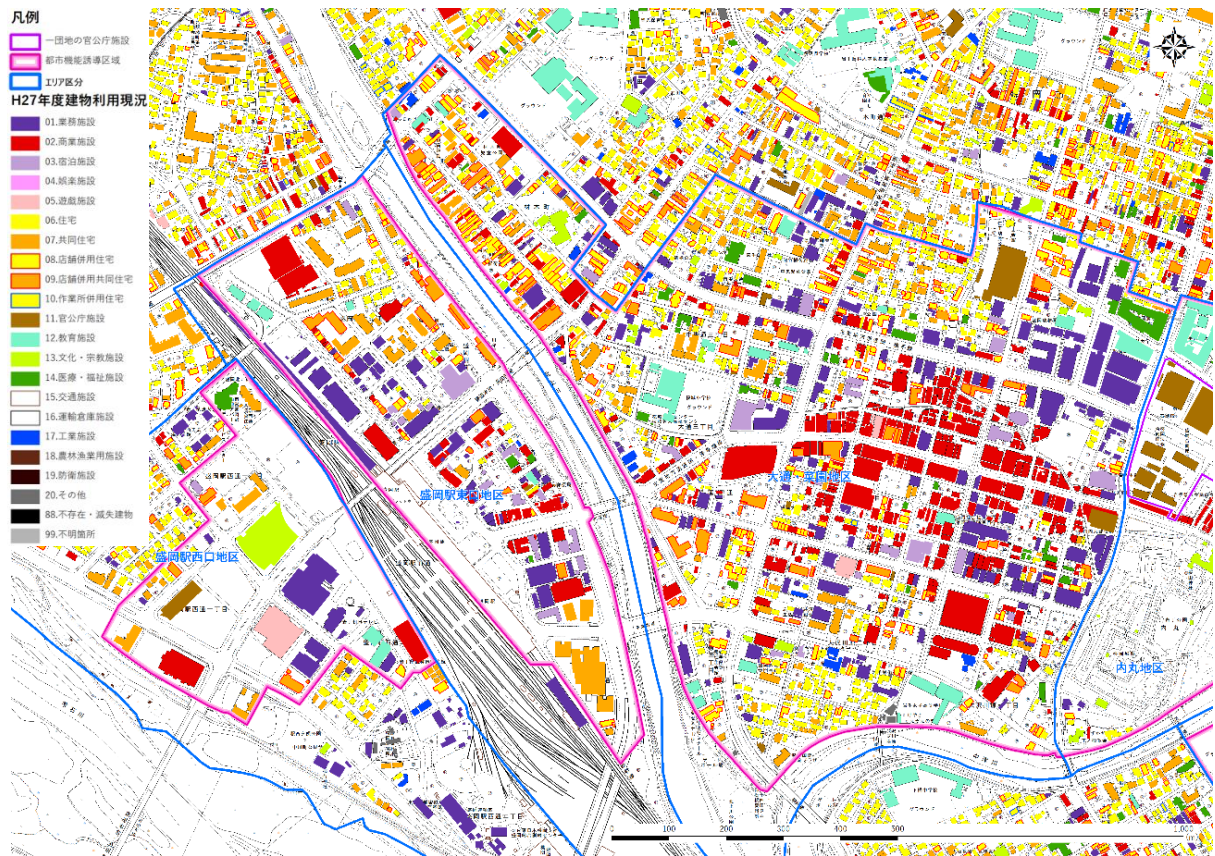


図 建物利用現況図 上：中心市街地西側、下：中心市街地東側（出典：2015(平成27)年建物利用現況調査）

4. 産業

- 中心市街地に事業所が集中するものの、近年、事業所数は減少傾向にあります。
- 商業地としても商品販売額は多いものの減少傾向にあり、大通・東大通・映画館通では空き店舗が他地区より多く見られます。
- 一方、盛南地区は事業所数・商品販売額ともに増加傾向にあります。
- 2022 年度に実施した市民アンケートでは、「中心市街地には行かない」という人は 18.8% であり、約 5 人に 1 人は中心市街地に訪れないという状況です。

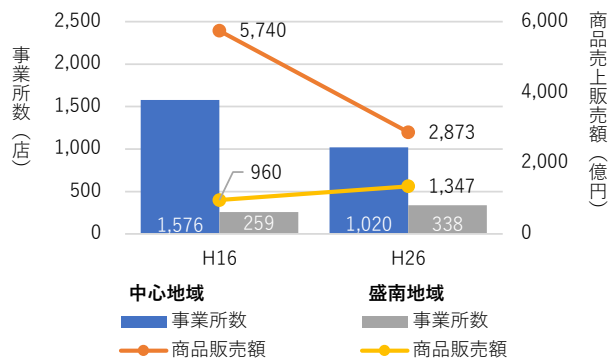


図 事業所数・商品販売額の推移
(出典：盛岡市都市計画マスタープラン地域別構想)

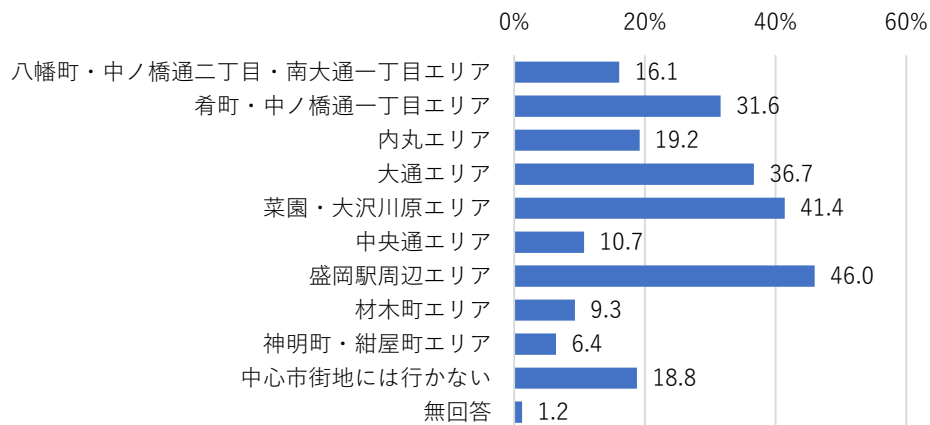


図 よく訪れる中心市街地のエリア (出典：2022 年度市民アンケート)

調査地区	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
盛岡駅前通・盛岡駅前北通	13	15	12	10	11	7	6	4	6	7
開運橋通	3	3	3	3	3	3	3	2	2	2
材木町	7	7	9	6	6	5	6	5	3	4
中央通	14	16	11	12	13	4	4	4	3	8
菜園通	3	1	0	3	2	1	4	5	5	6
大通・東大通・映画館通	5	6	9	14	12	12	11	12	14	15
内丸大手先	3	8	4	3	6	7	5	2	3	3
肴町・中ノ橋通	6	1	3	3	7	6	8	2	2	5
紺屋町	7	7	6	6	5	6	4	3	5	4
南大通一丁目	0	1	1	2	1	1	2	1	1	0
合計	61	65	58	62	66	52	53	40	44	54

※ 調査地区における主要な道路の 1 階部分に対して調査を実施した結果をまとめたもの

図 中心市街地の空き店舗数 (出典：中心市街地活性化つながるまちづくりプラン)

○中心市街地の中で内丸地区は、中央通り沿いやその北側街区に国、岩手県、盛岡市などの行政機関のほか、医療機関、金融機関、報道機関、岩手県民会館や岩手県公会堂などの文教施設が立ち並んでいます。

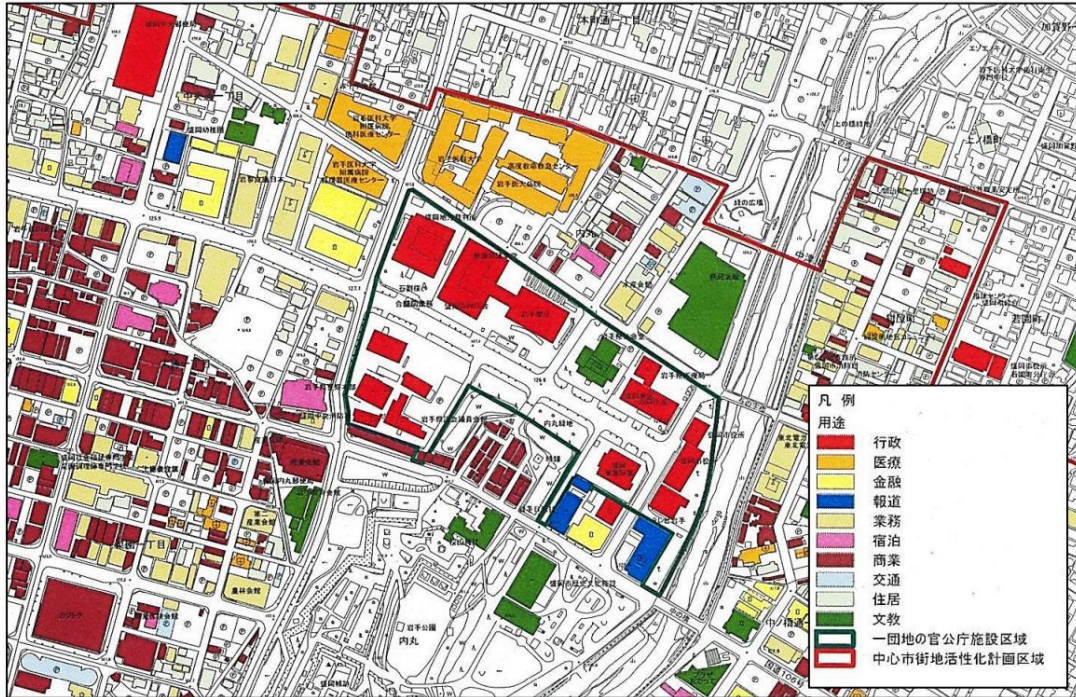


図 内丸地区に立地する建築物の状況（用途）（出典：内丸地区将来ビジョン）

○内丸地区は一団地の官公庁施設の都市計画を礎とした、シビックコアと言える業務集積地であり、地区別の昼間人口からも見て取れるように就業者が集中しています。

○内丸地区で働く人やビジネス目的等での来街者、また医療機関や文教施設を訪れる人々も含め、内丸地区を訪れる人が周辺の地域への副次的な経済効果を生んでいるとみられます。

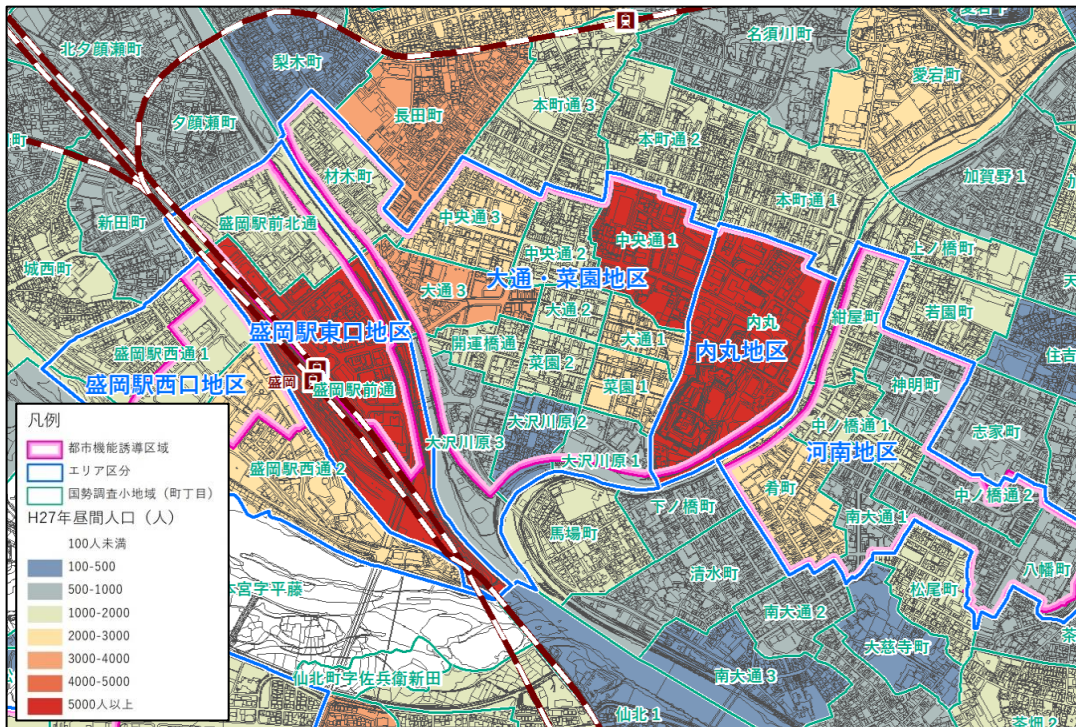


図 昼間人口分布（出典：2015（平成27）年国勢調査小地域集計）

5. 交通

○市内に通勤・通学する市民の主な交通手段をみると、57.4%が自家用車です。中心市街地への通勤代表交通手段も自家用車は34.3%と多くなっています。

○これらにより、自家用車による移動が中心であることが分かります。

○一方で、中心市街地やその周辺の居住者は徒歩又は自転車を利用する人が多く、中心市街地においては歩いて暮らすことができていると言えます。

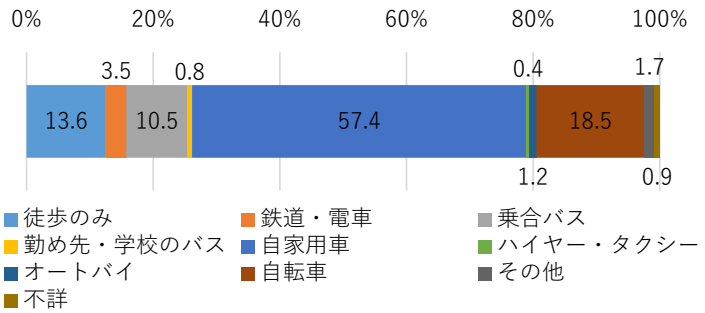


図 市内に在住する在勤・在学者の通勤・通学手段
(出典：2020年国勢調査)

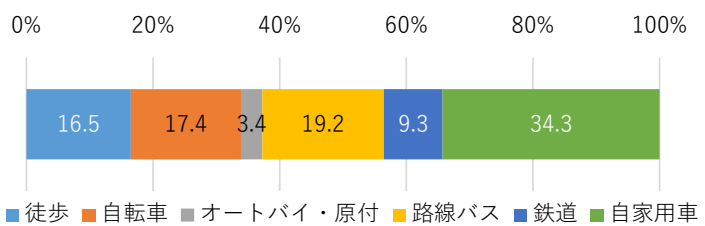


図 中心市街地への通勤代表交通手段
(出典：2018年中心市街地への通勤実態調査)

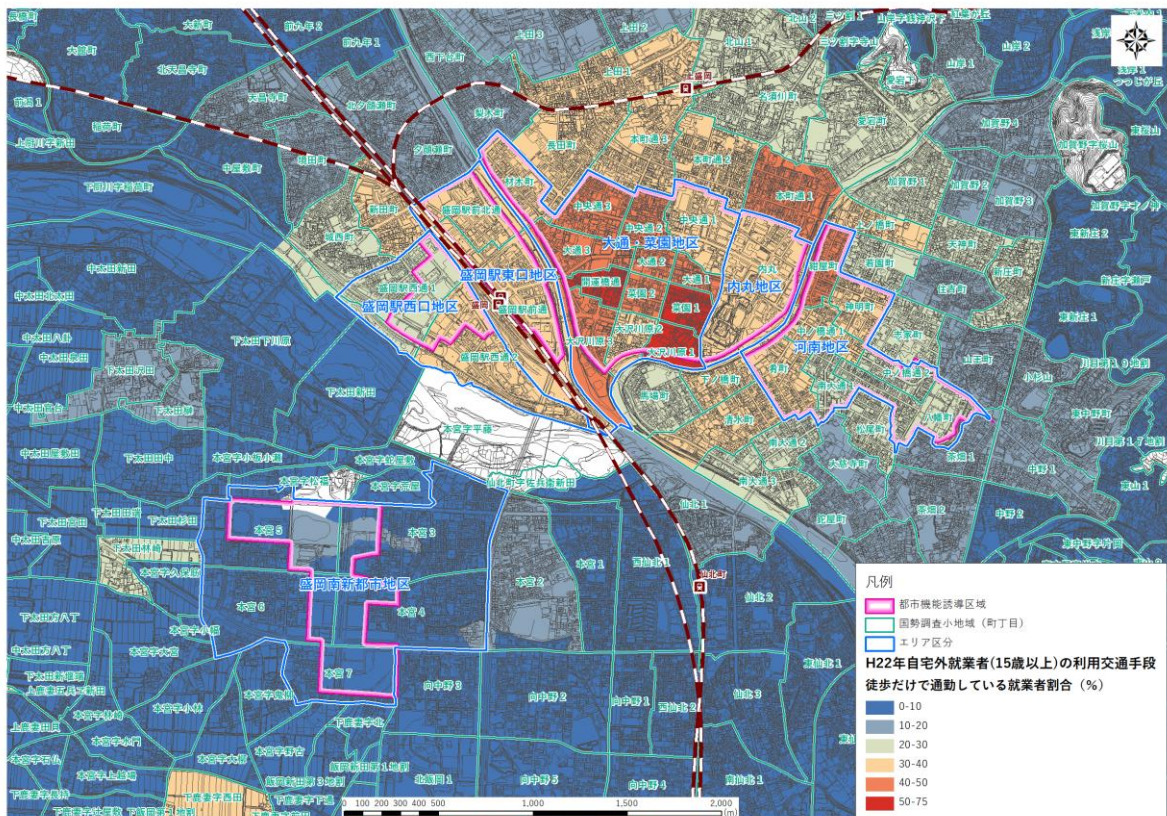


図 「徒歩だけ」で通勤している就業者割合 (15歳以上自宅外就業者) (出典：2010年国勢調査)

- 盛岡市では、自家用車中心の現状に対して、盛岡市総合交通計画の基本方針において「自家用車利用を抑制し、公共交通や自転車への転換を図る」こととしています。
- その基本方針の実現に向け、交通戦略（第二期）では道路網の整備を進めながら、「快適で安全に歩いて楽しむ中心市街地形成戦略」「公共交通軸の充実・強化を図る戦略」という2つの戦略に取り組むことを位置付けています。
- 「快適で安全に歩いて楽しむ中心市街地形成戦略」に関しては、大通り、菜園通り、映画館通り周辺を「歩行者・自動車優先エリア」とし、不要な通過交通の抑制や歩行者・自転車空間の確保を図ることとしています。
- さらに、将来的にはまちなかウォーカブル区域指定に向けた検討を行うこととしており、内丸地区を含む盛岡城跡公園周辺エリアもウォーカブル空間として期待されます。

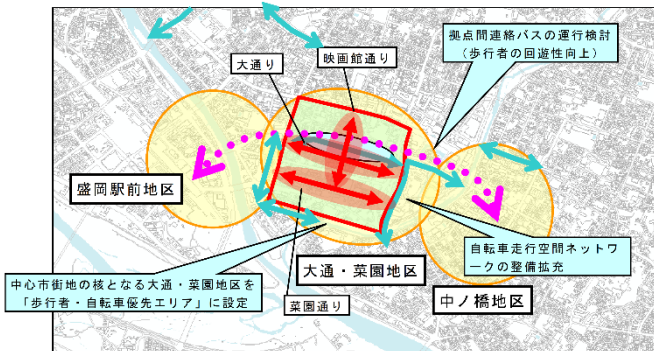


図 歩いて楽しむ中心市街地形成戦略
(出典：もりおか交通戦略（第二期）)

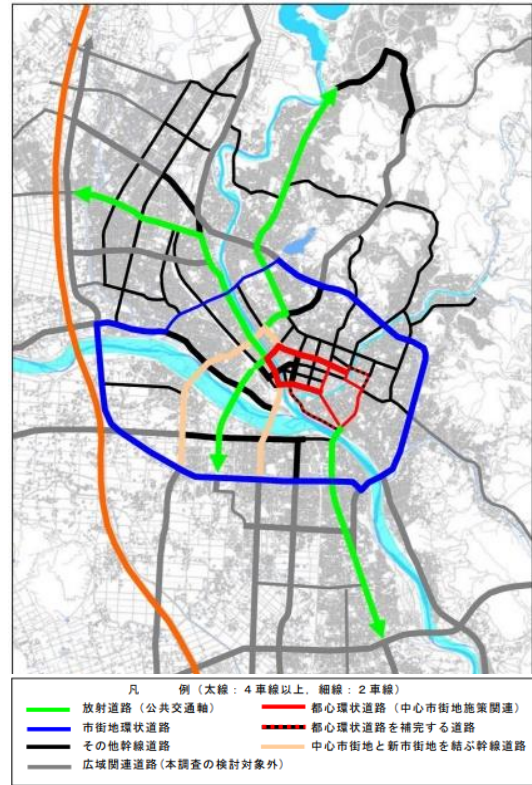


図 将来道路網計画
(出典：もりおか交通戦略（第二期）)

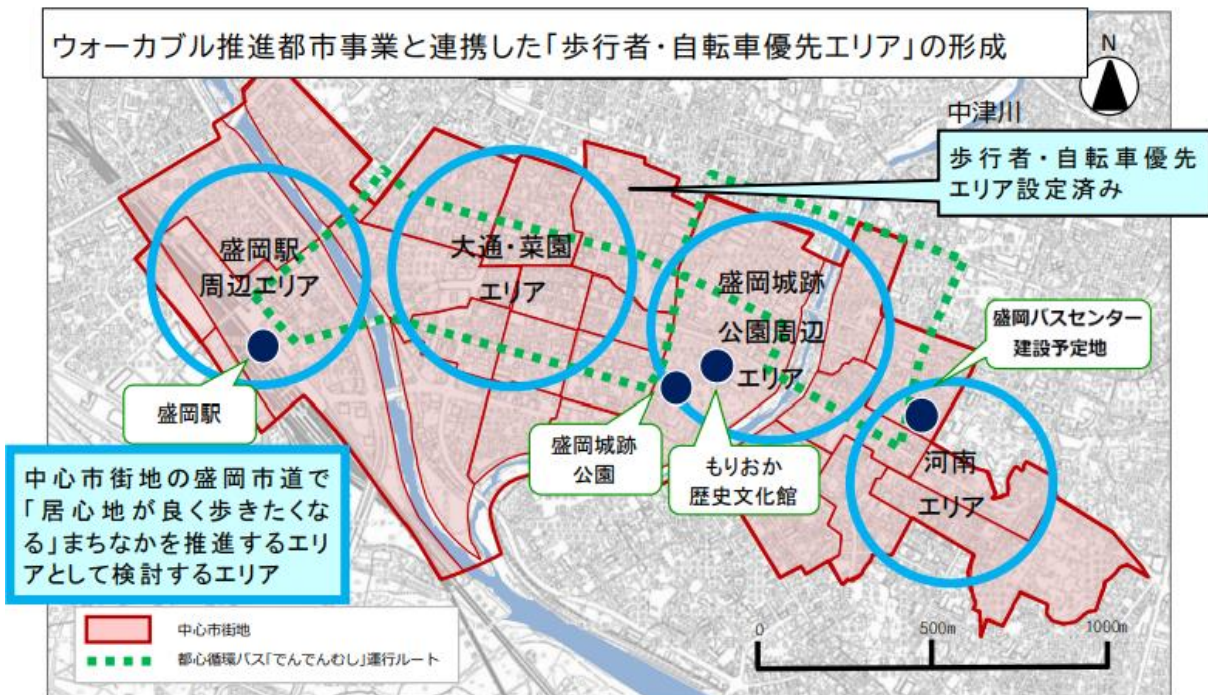


図 ウォーカブル空間として期待されるエリア（出典：もりおか交通戦略（第二期）)

6. 自然・環境

- 岩手山、姫神山、南昌山等の山々の眺望、中津川や北上川等の河川との繋がりが盛岡らしさの一つを形成しています。
- 盛岡城跡は歴史的な遺産として継承されています。また、都市公園として市民の憩いの場として親しまれています。
- 市内各所で景観重要樹木が指定されるとともに、身近な自然が大切にされています。



雄大な岩手山眺望



まちとの距離が近い中津川



豊かに流れる北上川



歴史的風格漂う盛岡城跡



伝統的佇まいの商家



まちなかの象徴的な樹木

図 特徴ある景観（出典：盛岡市景観計画）

7. 歴史・文化

- 河南地区では城下の町割りが残り、岩手銀行赤レンガ館（1911年築）や紺屋町番屋（1913年築）等を始めとした明治期以降の歴史的建造物や景観が継承されています。さらに城下町の玄関口であった鉾屋町には盛岡町屋が多く残り、江戸時代の雰囲気を伝えています。
- 内丸地区においても、盛岡城跡公園（岩手公園）のほか、岩手県公会堂（1927年築）や岩手医科大学1号館（1926年築）が現在も活用されており、盛岡市の歴史を身近に感じることができます。



岩手銀行赤レンガ館
（岩手銀行（旧盛岡銀行）旧本店本館）



盛岡城跡公園（岩手公園）

- 宮沢賢治や石川啄木（本来の「啄」はキバ付き）をはじめする文化人、原敬や新渡戸稲造をはじめとする政治家や偉人を数多く輩出する文化的風土を有しており、現在もデザインや芸術にかかわる活動が活発に行われています。



もりおか啄木・賢治青春館（旧第九十銀行本店本館）



盛岡という星で Base Station

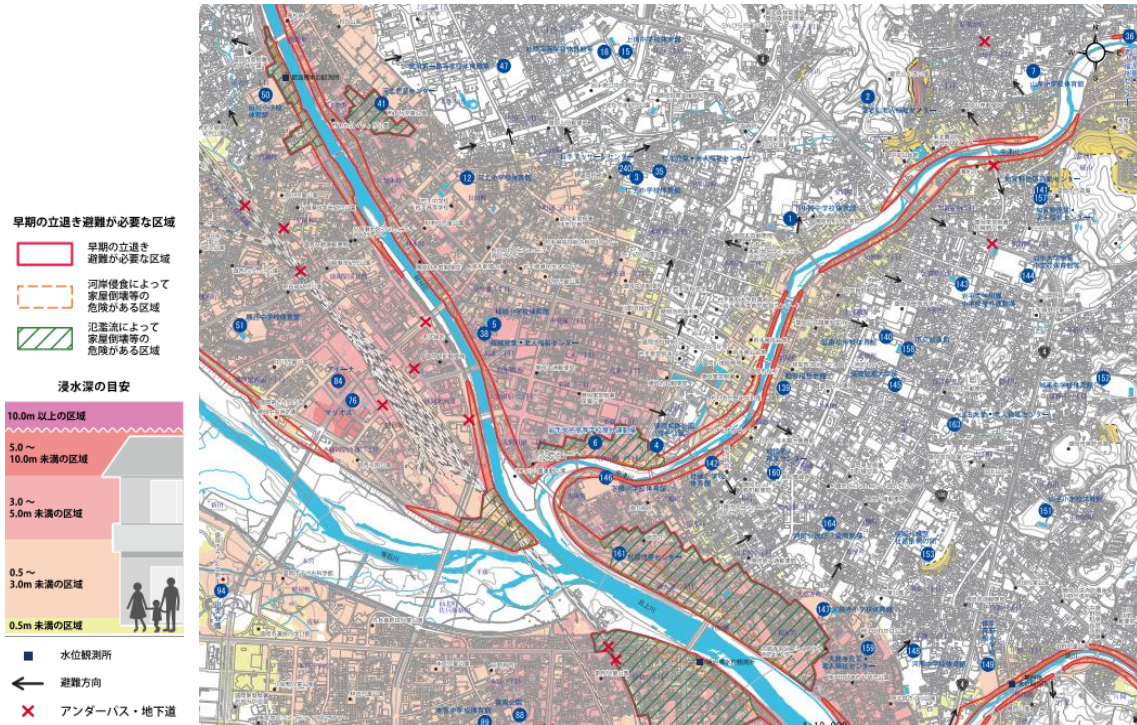
- また、盛岡市の夏の風物詩である盛岡さんさ踊りは、都心環状道路として位置付けられている盛岡市のメインストリートの中央通りを通行止めにして行われます。このほか、長年、材木町商店街で続けられている「材木町よ市」や盛岡大通商店街の歩行者天国など、街路を使うカルチャーが土地に根ざしています。



盛岡さんさ踊り

8. 防災

○中心市街地の広範囲が洪水浸水想定区域であり、中津川や北上川の河岸沿いが家屋倒壊等氾濫想定区域（氾濫流、河岸侵食）に該当しています。内丸地区の一部地域においては、洪水浸水想定区域外になっている地域もあります。



出典：盛岡市防災マップ

9. 一団地の官公庁施設（都市施設）

○官公庁の集約化、建物の不燃化、土地の高度利用を図るため、昭和 32 年に全国第 1 号の一団地の官公庁施設である内丸団地として都市計画決定（面積 6.97ha）されています。

○建蔽率 40%以下、容積率 100%以上のほか、壁面の位置の制限、建築物の高さ制限 10m以上、街路・通路、緑地・広場の付帯施設が定められています。



出典：盛岡市都市整備部都市計画課

第2章 「盛岡らしさ」と内丸地区の特徴・課題

1. 中心市街地の各地区の特性

それぞれに特徴あるエリアを歩いて回ることができる

- 中心市街地活性化つながるまちづくりプランでは、JR 盛岡駅西口から盛岡八幡宮に至る東西約 2.5 km、南北約 1.5 kmのエリアを中心市街地として設定しています。

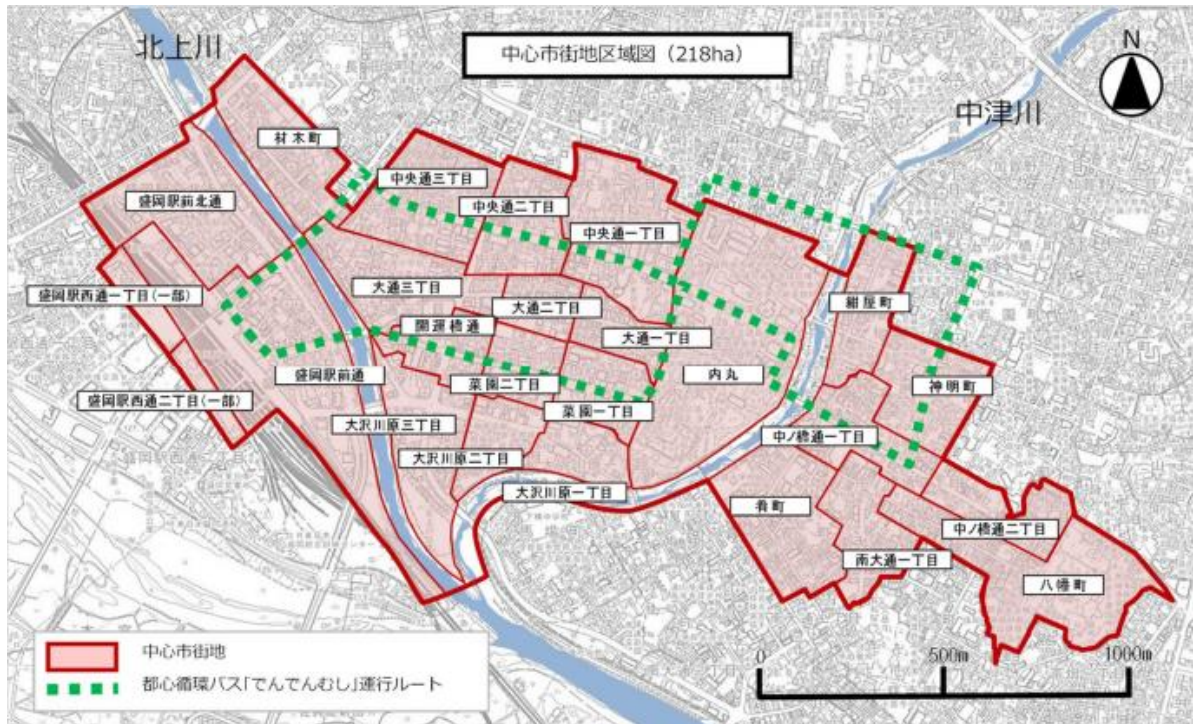
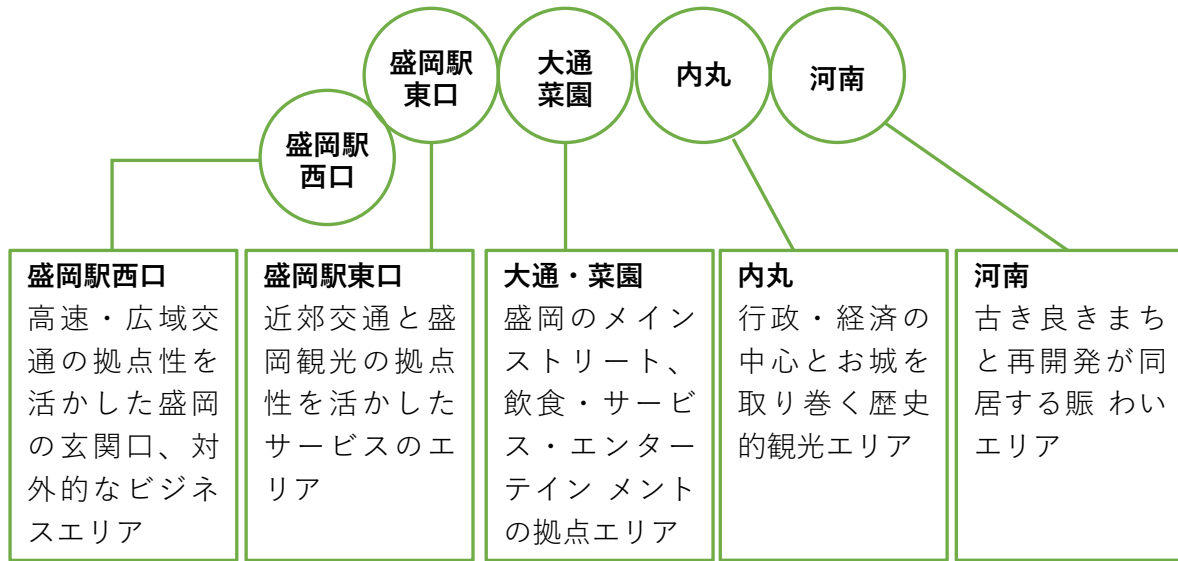


図 中心市街地活性化つながるまちづくりプランにおける中心市街地の範囲

- 都心循環バスが運行しており、JR 盛岡駅と盛岡バスセンターという交通拠点を核として、公共交通を使って移動できるとともに、歩いて回ることもできるコンパクトなエリアです。
- 第1章で整理したとおり、現在、商業に関しては、盛南地区の開発等によりロードサイド型店舗等へ分散しているものの、都市のコンパクト化が推進される以前から、徒歩圏域の賑わい形成・業務地形成が実現されています。
- 現在、交通戦略に基づくウォークブルなまちづくりが進められていますが、中心市街地を形成する商店街では、それ以前から路上を活用した様々な取組が行われてきています。また、近年では新型コロナウイルス感染症の影響を受け、路上でのテラス営業も暫定的に行われました。
- コンパクトであり、歩きやすく、また様々な街路活用が可能な中心市街地は、安定・成熟した都市型社会において重要さを増していますので、暮らす場所の選択に大きな影響を与えるものと考えられます。

○中心市街地を形成する内丸地区、大通・菜園地区、河南地区、盛岡駅東口地区、盛岡駅西口地区においては、現状、次のような特性を有しており、地区ごと及び通りごとに特徴を持っていると言えます（詳細は次ページ表を参照）。



各地区の特性（内丸地区将来ビジョンの記述を基に作成）

○各地区をさらにエリアごとに細分化して特性を整理すると、下図のように整理できます。

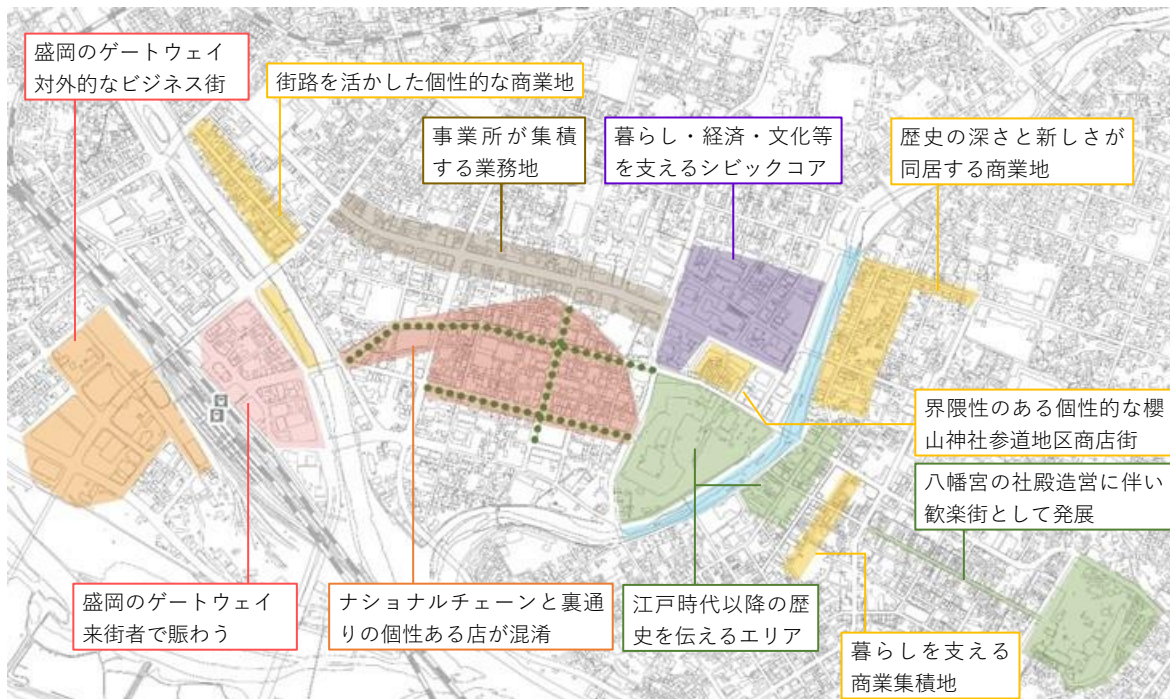


図 各エリアの特徴

○材木町や河南地区等の中心市街地縁辺部において、個性的な商業が点在し、大通りと映画館通りを賑わいの核としながら、中心市街地全体に魅力が点在していると考えられます。

○内丸地区には数多くの就業者が集い、多様な目的で市内外から訪れる人も相当数いますので、周辺商業地へ消費が波及していると考えられます。

○一方、歴史的に賑わいの核が西側へ移っていくとともに、歩道がないことを要因の一つとして、かつての賑わいの軸であった本町通りの店舗等が少なくなりつつあり、内丸地区の南北方向の街路（大手先）への影響が懸念されます。

■各地区の特性

【各地区の統計データ整理】

※カラースケールは縦方向の比較（地区間の比較）による大小を示す。

地区	地区面積 (ha)	人口特性										土地利用割合 (%)						建物利用 (棟数)										飲食店	娯楽系施設	新築動向 (延床面積)				利用交通手段割合 (15歳以上就業者)					
		夜間人口					昼間人口		従業者			住宅	商業業務	公共公益	公共空地	駐車場	低未利用地	道路交通施設	住宅			商業業務			公共公益					H22~26年度計 (ha)									
		H27人口 (人)	H27密度 (人/ha)	R2老年人口割合	H22/H17	H27/H22	H27人口 (人)	H27密度 (人/ha)	H26人口 (人)	H26密度 (人/ha)	用時								回共	用併	業務	商業	宿泊	娯楽遊戯	官公庁	教育	文化宗教			医療福祉	住宅	商業施設	公益施設	総計	徒歩のみ	車	自転車	車	鉄道
内丸地区	25.7	264	10	23%	0.94	0.76	9,280	361	8,609	335	4	9	38	27	0	1	19	11	13	9	21	40	1	0	26	9	22	12	86	2	0.0	0.0	0.1	0.2	35%	14%	35%	4%	
大通・菜園地区	97.1	6,610	68	22%	1.04	0.98	25,889	267	22,371	230	26	30	10	1	10	1	22	466	243	82	248	526	37	6	17	42	24	40	599	27	2.3	1.2	1.1	0.0	44%	20%	26%	4%	
河南地区	58.4	4,942	85	31%	1.07	1.05	8,248	141	6,152	105	34	22	15		8	1	18	529	192	60	124	368	12	13	10	4	49	52	189	4	2.5	0.5	0.1	0.0	34%	21%	31%	2%	
盛岡駅東口地区	42.2	2,396	57	15%	1.24	1.03	10,434	247	9,586	227	22	21	2	3	3	1	46	39	77	25	76	86	28	0	1	9	1	5	199	3	1.6	0.3	0.1	0.0	38%	12%	35%	7%	
盛岡駅西口地区	39.6	1,964	50	24%	2.64	1.10	3,806	96	3,175	80	11	21	14		10	7	36	155	75	17	61	9	1	2	1	3	2	6	12	3	0.2	0.3	2.3	0.0	29%	13%	40%	7%	
盛岡南新都市地区	140.9	5,491	39	21%	※	※	7,333	52	5,351	38	4	32	24	0	1	13	25	975	227	17	107	130		1	4	1	21	35	73	0	0.8	2.6	0.9	0.0	7%	16%	68%	2%	

データ出典 国勢調査、経済センサス H26商業統計 H28都市計画基礎調査 H27都市計画基礎調査 食パログ等 H27都市計画基礎調査 H22国勢調査
 ※区画整理事業による住居表示変更により正確な経年変化の把握が困難 ※自然的土地利用、工業は上表に含まない ※工業系建物は上表に含まない ※地区内に居住する従業者

【各地区の特性整理】

地区	代表的な施設等 赤：商業 青：公共公益 緑：公共空地 黒：交通	歴史的特徴 市街地の形成過程	地区の特性	【参考】 内丸地区将来ビジョン (P7)
内丸地区	○県庁、合同庁舎、市役所 ○県民会館、公会堂 ○メディカルセンター ○櫻山 ○岩手公園、櫻山神社	○盛岡城の内堀と中堀の間に囲まれた「内丸」が由来 ○明治期から官公庁が位置し、昭和32年に一団の官公庁施設「内丸団地」が都市計画決定	○官公庁、文教施設や医療施設等の県内及び市内の中核施設の集積により、市内随一の昼間人口密度、従業者密度を誇る。 ○公共空地（盛岡城跡公園（岩手公園）等）や公共公益施設用地（官公庁、文教、医療施設等）が地区面積の約6割を占め、更には、櫻山の飲食店街などの特徴あるエリアも混交し、盛岡市のアイデンティティとなる都市景観を形成している。 ○夜間人口は各地区の中で最も少なく、多くの従業者が地区外からアクセスしていることから、隣接の大通・菜園地区や河南地区に消費や飲食、公共交通利用などの副次的な波及効果を創出している。	行政・経済の中心とお城を取り巻く歴史的観光エリア
大通・菜園地区	○岩手復興局、中央郵便局 ○川徳、クロスステラス盛岡、MOSS ○大通商店街	○昭和初期から映画館が立ち並び、地区中央部を南北に貫く軸は映画館通りと呼ばれる ○S55に菜園の青果市場跡地に川徳が肴町から移転したのを契機に商業地として発展	○メインストリートである大通沿道や川徳周辺で商業集積が高く、商業・業務施設や飲食・娯楽に関する店舗の密度は市内最多を誇る。 ○共同住宅、教育施設、医療福祉施設などの多様な施設も立地していることから、昼夜間人口ともに高く、職住近接の居住環境が整っている。それ故、地区内居住者の6割以上が徒歩又は自転車通勤しており、6地区で最大の割合を占めている。他方で、商業・業務施設を支える駐車場需要が高く、駐車場面積が地区全体の1割を占めているという側面もある。 ○宿泊施設の集積も市内随一で、観光・出張目的の来街者の多くが滞在する地区となっている。	盛岡のメインストリート、飲食・サービス・エンターテインメントの拠点エリア
河南地区	○盛岡バスセンター ○プラザおでって、保健所、栃内病院 ○岩手銀行赤レンガ館 ○マルチ中ノ橋店 ○肴町商店街	○盛岡城下の商業の中心地として繁栄 ○明治期には盛岡の金融街が形成 ○肴町商店街は江戸時代から続く市内で最も歴史ある商店街	○商業の中心が大通・菜園地区に移り、住宅への土地利用転換が徐々に進展していることを背景に、夜間人口密度が最も高い地区となっている。その根拠として、直近10年間は人口増加傾向であり、H22~26年度で2.5haの住宅床が供給されている。 ○一方で、6地区で最も高齢化が進展している地区であり、その影響から医療・福祉施設の立地も最多となっている。 ○肴町商店街など地域に根差した商業機能があることから、商業施設や飲食店の集積もあり、生活利便性が高い地区といえる。 ○地区内居住者の通勤手段として自転車割合が高く、内丸や菜園・大通地区を通勤圏としている居住者が多いことが推察される。	古き良きまちと再開発が同居する賑わいエリア
盛岡駅東口地区	○JR盛岡駅 ○盛岡駅ビルフェザン ○イオンタウン盛岡駅前 ○木伏緑地	○M23駅開業、S56フェザン・S57東北新幹線開業、昭和~平成初期に区画整理（盛岡駅前北地区・南口地区）による基盤整備が進捗し、平成初期から駅の拠点性が向上 ○R1に木伏緑地が開業	○駅利用者を対象とした商業・業務、宿泊機能が集積しており、飲食店も多い。 ○交通利便性を背景とした開発ポテンシャルはあるものの、駅周辺開発は平成初期に終えていることから、直近での新築件数は少ない。 ○他方、木伏緑地のような形で既存ストックを活用した地域の魅力づくりや店舗立地が進められている。 ○立地上、地区内居住者の通勤手段として鉄道利用者が他の地区より多く、居住地としては日常的に駅を利用する市民からの居住ニーズが高いものと推察される。駅前の立地上、住宅は共同住宅の立地が主体となっている。	近郊交通と盛岡観光の拠点性を活かしたサービスのエリア
盛岡駅西口地区	○JR盛岡駅 ○アイーナ（県立図書館等） ○マリオス（市民文化ホール等） ○盛岡第二合同庁舎 ○岩手保健医療大学	○平成以降国鉄車両工場跡地を開発（H5-31土地区画整理事業[35.6ha]） ○盛岡西口地区地区計画を定め、まちづくりを推進中	○スーパーブロックを中心とした市街地が形成されており、東口の3地区（大通・菜園、河南、盛岡駅東口地区）と比較して機能の混交が少ないため、代表的な施設に挙げているような施設利用の目的で訪れる来街者が多い地区と推察され、昼間人口は東口の地区と比較して低い。 ○他方、夜間人口は増加傾向にあり、特にH17⇒H22で約2.6倍に増加しており、居住地としても選ばれている傾向も伺える。	高速・広域交通の拠点性を活かした盛岡の玄関口、対外的なビジネスエリア
盛岡南新都市地区	○市立病院 ○子ども科学館、県立美術館 ○盛岡タカヤアリーナ ○イオンモール盛岡南	○中心市街地や盛岡駅西口地区に連担する職住近接の新しい市街地を、H6-25年まで区画整理事業[138.3ha]により開発	○内丸将来ビジョンに記載のとおり、ロードサイド型の商業店舗が立地しており、広域エリアに対応した営業活動や車社会に対応した消費、飲食等の需要を満たす地区となっている。それ故、他の5地区と比較して、地区居住者の通勤手段の約7割が自動車と圧倒的に高く、車利用を前提とした居住地として選択されている。	自動車交通のアクセス優位性を活かした生活やビジネスのエリア

2. 「盛岡らしさ」とは

暮らしの中で結晶し、受け継がれていく「盛岡らしさ」

- 盛岡市では内丸プランの検討に先立ち、「盛岡らしさ」という観点から都市の魅力・ポテンシャルを分析しています。そこで得られた結論は、小さいながらも個性的で多様な魅力にあふれ、それらを日常生活の中で目にし、体験することができることが「盛岡らしさ」というものです。
- アメリカのニューヨーク・タイムズ紙（電子版）が2023年1月12日に発表した「2023年に行くべき52か所」において、ロンドンに次ぐ2番目に盛岡市が選出されています。その記事では「ウォークブル・ジェム（walkable gem）」という言葉で盛岡市の魅力が表現されており、中心市街地に歴史的な建物と川や公園等の自然があり、まちを歩いて楽しめることや、コーヒー店、わんこそばのほか、書店、ジャズ喫茶などの文化が根付くまちであることが評価されています。
- 厳しくも豊かな自然環境とともに受け継がれてきた歴史の中で大切にされてきた文化、都市生活の蓄積の中で形成された様々な場所や出来事、そして、何よりこのような歴史、文化、自然、場所、出来事を通じて盛岡への愛着を抱き、思いやりのあるやさしい人柄の市民の存在 — そのような魅力を身近に感じられることが「盛岡らしさ」であると考えられ、2022年度に開催した市民ミニサロン（うちまるサロン）の参加者からも同様の意見が出されました。このことは、日々の生活の中で魅力に触れていくことで、市民の心の中にその価値が形成され、周りの人々に認められていくことにより、「盛岡らしさ」が引き継がれていくものと考えられます。
- このように、多様なエリアや街路が繋がり、そのエリア内にもたくさんの小さな魅力が点在するという「盛岡らしさ」が体現され、住み・訪れる人々が体験する都市のあり方を、内丸地区の再整備、さらには中心市街地の活性化においても大事にする必要があります。

うちまるサロンにおける「盛岡らしさ」の主なコメント

- ・内丸プランの検討と並行し、市民が集い、内丸地区や中心市街地について語り合う「うちまるサロン」を開催してきました。その第1回では次のような「盛岡らしさ」が語られました。
 - 小さなエリアにいろいろな魅力が詰まっている。盛岡という小さな宇宙に暮らしている感覚。
 - まち全体が落ち着いた空気感があり、そのなかで人が自然に流れ、繋がっている印象。
 - 道々に興味を惹かれる店が見付かる。まちを訪れるたびに発見があり、歩くのが楽しい。
 - 現代的なものもあり、歴史的なものもある、良い意味で「混沌」としたまち。
 - 中津川や城跡公園など、自然を感じるスポットが市街地から近くにある。
 - 岩手山はシンボル。だれもが自分だけのベストビューを持っている。
 - 見どころがあちこちにある、ほどよく都市的な要素と田舎が混じり合う。
 - 「盛岡らしさ」が1人1人によって変化する多様性にあふれたまち。
 - 自然や歴史、市民の活動が根付いているまち。

3. 内丸地区の特徴と課題

- 内丸地区は江戸時代に盛岡城の城郭として形成されたエリアであり、盛岡市のシンボルの一つである中津川にも面しています。
- 「盛岡らしさ」を形成する様々な魅力が小さなエリアに詰まっており、行政・業務機能の集積という面だけでなく、盛岡を代表する風格が漂う街並みである点でも「盛岡の顔」と言えます。
- 一団地の官公庁施設として行政、司法、警察機能が集積するほか、メディア、金融、医療など、地域の社会・経済・文化を支える機能が集まっています。その一方で、江戸時代からの名残もあり、官公庁施設集積エリアは街区規模が大きく、中心市街地全体での回遊性のためにはグラントレベルにおける空間的な工夫が必要です。
- このような内丸地区の特徴と課題をまとめると、次のようになります。

内丸地区の特徴

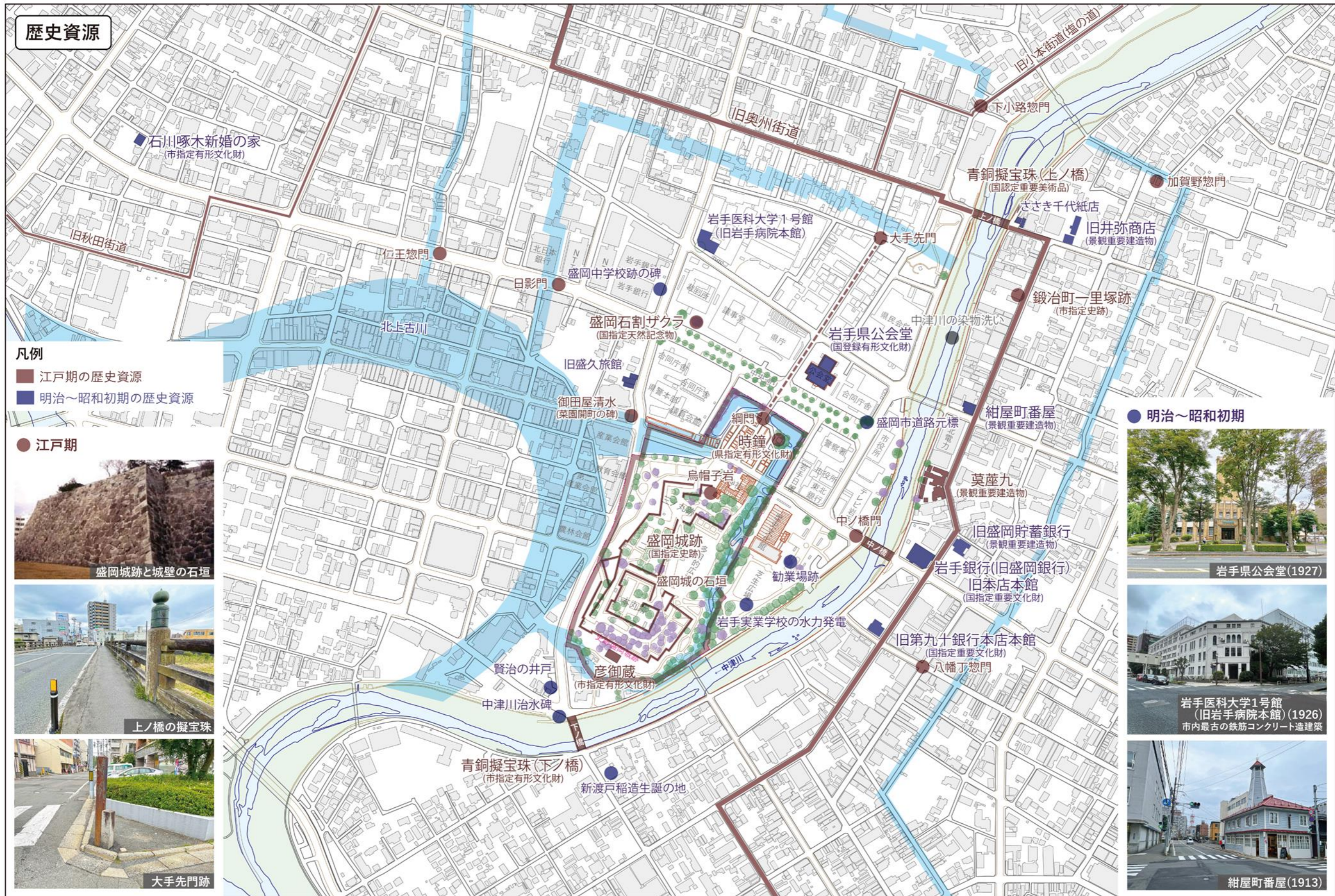
- 平日は官公庁施設集積エリアに多くの就業者が集積し、休日は官公庁施設集積エリア外に買い物、飲食、イベント等に市民や観光客が集う（周辺地域への経済波及）
- 行政、司法、メディア、金融、医療など、地域の社会・経済・文化を支える機能が集積
- 盛岡のアイデンティティをなす歴史資源・自然資源が多数
- 街区・土地が広く、建蔽率・容積率が盛岡市内では最も高く設定
- 街区の一部に、洪水浸水被害が想定される

内丸地区の課題

- 築50年を超える建物群
- 官公庁施設等の老朽化と建替用地の選定・確保
- 中心市街地の吸引力の低下に伴う内丸地区の流動人口の減少
- 岩手医科大学附属病院の移転による人流の変化及び将来的な跡地活用
- 官公庁集積エリアは休日の人通りが少ない
- 周辺地区の街区・施設とは異なる大規模街区・大規模施設の立地によるスケール感の変化
- 用途地域上の建蔽率・容積率と一団地の官公庁施設の決定内容の取扱い

- 再整備では、これら課題を解消するとともに、特徴を活かし、磨き上げることで次世代の「盛岡の顔」となる内丸地区をつくっていくことを目指します。

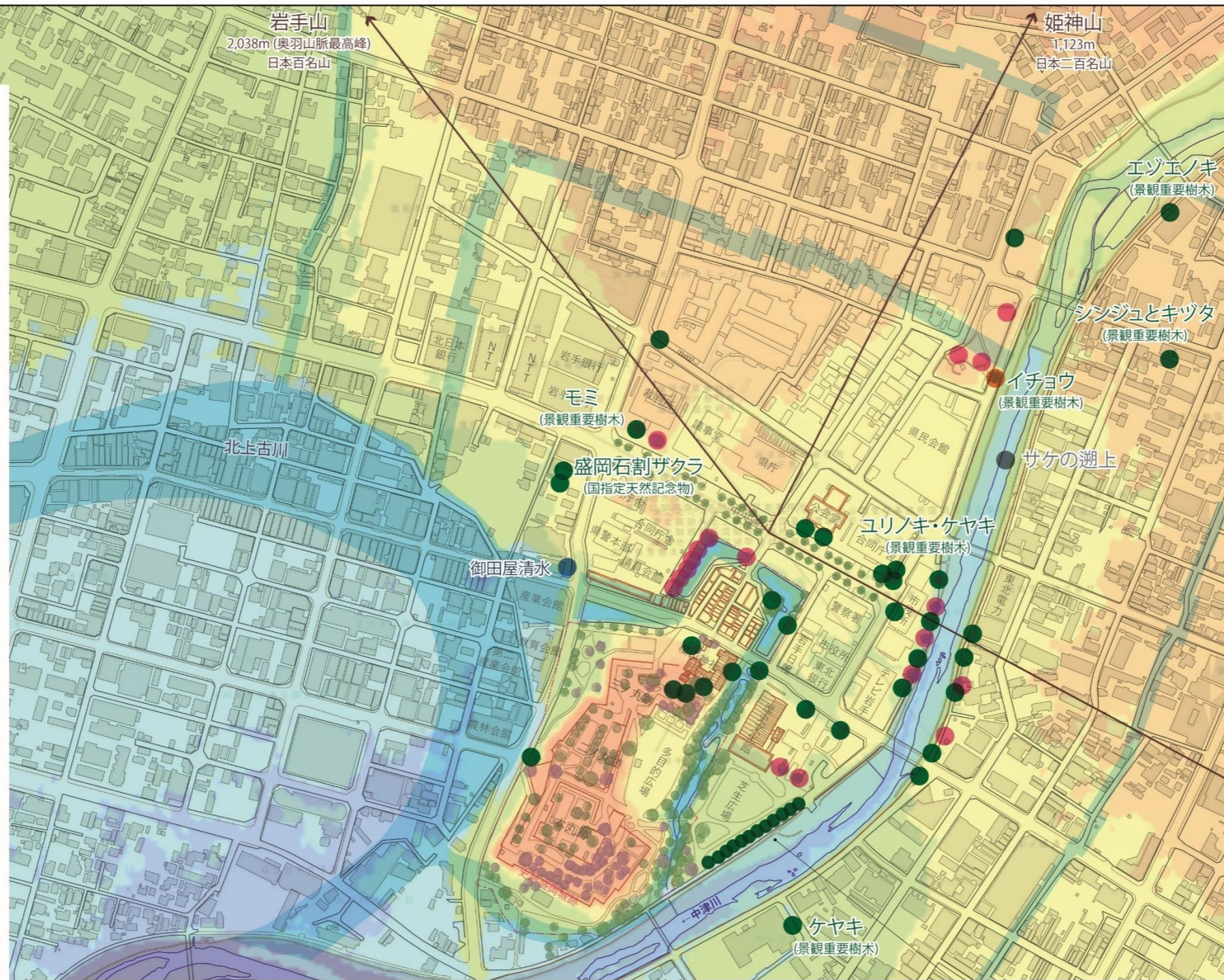
■内丸地区周辺現況分析 (1/2)



自然資源

官公庁街や城跡内の巨木

- ・樹高15m以上の巨木が点在
- ・歴史ある県都としての風格を感じる

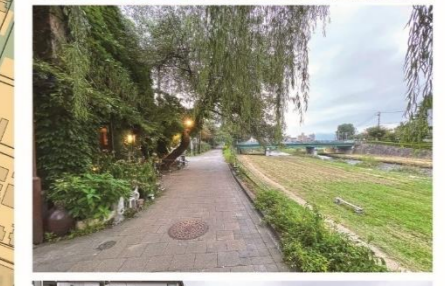


凡例

桜	120m以下
イチョウ	120m ~ 122m以下
その他樹木	122m ~ 124m以下
湧水	124m ~ 126m以下
	126m ~ 128m以下
	128m ~ 130m以下
	130m ~ 132m以下
	132m以下

中津川との距離感・一体感

- ・まちとの距離が近く、水質がきれい
- ・水勢があり、中流域らしい風情を感じる
- ・個性的な店舗が点在している
- ・日常的な散歩路になっている



山の眺望



堀(鶴ヶ池・亀ヶ池)



中津川沿いの巨木



第3章 再整備の目標

1. 望まれる内丸地区の姿

これまでの良さを活かし、人々が集い、これからの「盛岡らしさ」を生み出す

- 暮らし・経済・文化を支える機能が引き続き集積するとともに、歴史資源と自然資源を身近に感じることができる内丸地区の良さを活かす。
- 「盛岡らしさ」が多様な人々を惹き付け、市内外、さらには国外のあらゆる地域から多くの人々が訪れるまち。
- 人々の関係性が深まり、地区内で働く人達との繋がりにより、新しい魅力が創出・発信され、さらに人々を惹き付けるまち。

○内丸ビジョンでは次のとおり、将来の内丸地区のあるべき姿が示されています。

- ・ 県都の核として社会経済を牽引するまち内丸
- ・ 城下の風格と都心空間が調和するまち内丸
- ・ 英知が集い未来を創造するまち内丸

- 盛岡市が持続可能な都市であるため、内丸地区の再整備に当たっては行政・文化・司法・メディア・金融・医療等の機能をこれまでと同様に集積するとともに、歴史資源と自然資源を身近に感じることができる内丸地区の特徴を活かす必要があります。
- 内丸地区の再整備は、内丸地区が「盛岡の顔」であり続けるよう、新しい技術を取り入れるとともに社会の要請に応えながら盛岡市が将来において目指す都市のあり方を指し示す先駆的役割を担っていく必要があります。
- 内丸地区の歴史性・自然環境を活かした土地利用、統一感のある都市空間をつくっていき、多くの人々が訪れ、回遊し、滞在・交流できる場を充実させ、中心市街地そして盛岡全体に波及効果をもたらしていく必要があります。
- 多様な都市機能が集積している内丸地区において、個々の機能が複合的に発揮できるよう、機能の高度化を進め、多様な機関との連携をさらに深め一体的なまちづくりを進めていく必要があります。
- 行政機能等が集積している強みを活かし、災害対応の広域拠点・中枢拠点として行政の連携機能を高度化していく必要があります。
- 都市空間デザインでは、「盛岡らしさ」の特徴である城下の歴史のほか、豊かな四季折々の自然、やさしい人柄が感じられるものとし、同時に地域資源を活かした風格を合わせ持つ必要があります。
- 一団地の官公庁施設の都市計画を尊重するとともに、機能強化や官民連携の観点を踏まえ、柔軟な思考で多様な機能が融合した新たなまちづくりのルールをつくる必要があります。
- これらのことを踏まえ、本計画の理念（案）を次のとおりとします。

『山河に抱かれ 歩いてつながる クリスタルシティ盛岡』

2. 再整備の目標

内丸ビジョンの3つのあるべき姿を踏まえた4つの目標

○これまでの良さを活かし、これからの「盛岡らしさ」を生み出す内丸を実現するためには、内丸ビジョンの3つのあるべき姿を踏まえ、以下のとおり内丸プランの目標（案）を設定します。

内丸ビジョンのあるべき姿

県都の核として社会経済を牽引する
まち内丸

城下の風格と都心空間が調和する
まち内丸

英知が集い未来を創造するまち内丸

内丸プランの目標（案）

①社会経済を牽引する業務集積地とするとともに、技術進展と社会の要請を踏まえ、各種インフラ、土地利用の空間・機能を高度化、一体連携する。災害時など、非常時にも広域・中枢拠点として機能する。

②一団地の官公庁施設のあり方を見直し機能強化を図るとともに、官民連携により多様な機能が融合した包括的かつ創造性を育める空間構成とする。

③「盛岡らしさ」の特徴である城下の歴史、四季の自然、人のやさしさが感じられるよう、既存の地域資源を活かした風格のある都市空間デザインとする。

④盛岡全体に波及効果をもたらし、また、歴史資源・自然資源等にもっと触れてもらうため、平日も休日もより多くの人々が訪れ、回遊し、滞在・交流する場を充実する

第4章 再整備の方針

1. 前提となる考え方

再整備の背景を踏まえた交通体系と人中心の空間の意義

- 再整備後には多様な人々が内丸地区に訪れやすくなり、誰もが気軽に憩い、過ごすことのできる空間の創出が望まれます。
- 中心市街地のアクセスは、これまで自家用車によって担保されてきましたが、公共交通でのアクセスに切り替える時期を迎えています。
- 超高齢化に伴った免許返納の促進や環境負荷軽減のみならず、中心市街地がこれからも魅力的であり、都市やその周辺に住み続けてもらう上で、公共交通により生活利便施設にアクセスできる都市構造が求められています。
- 一つの例として、近年、買い物はインターネットで済ますことができるようになり、中心市街地はもとより、郊外大型店舗にも訪れることなく、買い物のニーズは満たすことができるようになっていきます。
- そのような中、「このまちにこそ住もう」と思ってもらうためには、インターネットショッピング等にはない体験を都市において提供することが必要であり、商品や店舗との偶発的な出会いをもたらすことのほか、歴史資源や自然資源に気付き、発見する面白さも中心市街地の役割であると考えられます。
- このように、誰もが安心してゆっくりと歩き、店舗や商品、地域資源を目にできるような良好な歩行環境を構築していくことが必要であり、そのためには、自動車の速度抑制や段階的な進入抑制等による「人中心の空間」である街並みにしていくことが大切になります。
- さらに、子どもに優しいまちとして、子ども連れや子ども達が楽しむことのできる空間形成、子どもの頃から内丸をはじめとする中心市街地を訪れたいくなる動機づくりによって「盛岡らしさ」の体験・経験を受け継いでいくことも大切になります。
- 内丸プランでは、これからの中心市街地に求められる環境である「人中心の空間」を都市空間デザイン、土地利用、公共交通、機能によって具現化し、環境対策と災害対策によって強靱性の高い地区へとステップアップするような都市づくりを目指していこうとするものです。

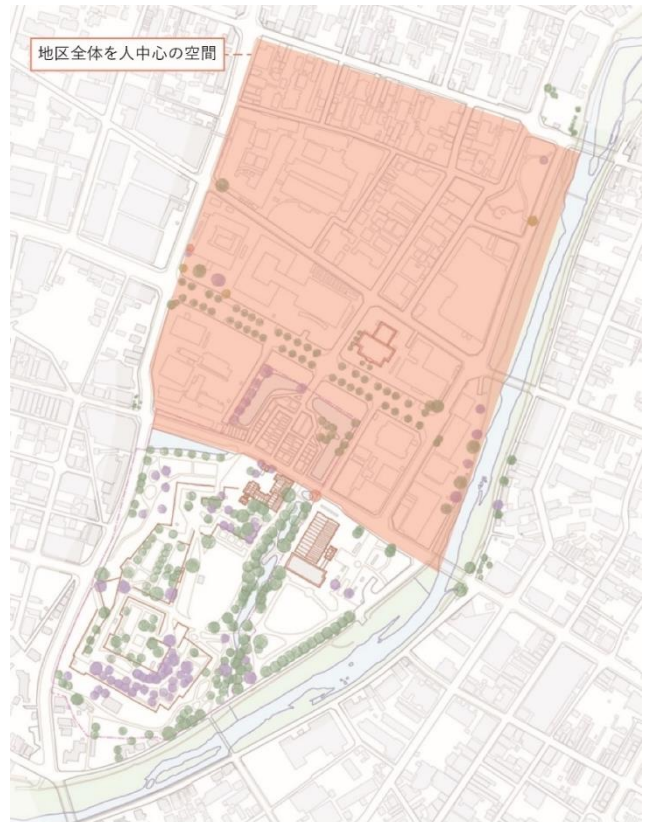
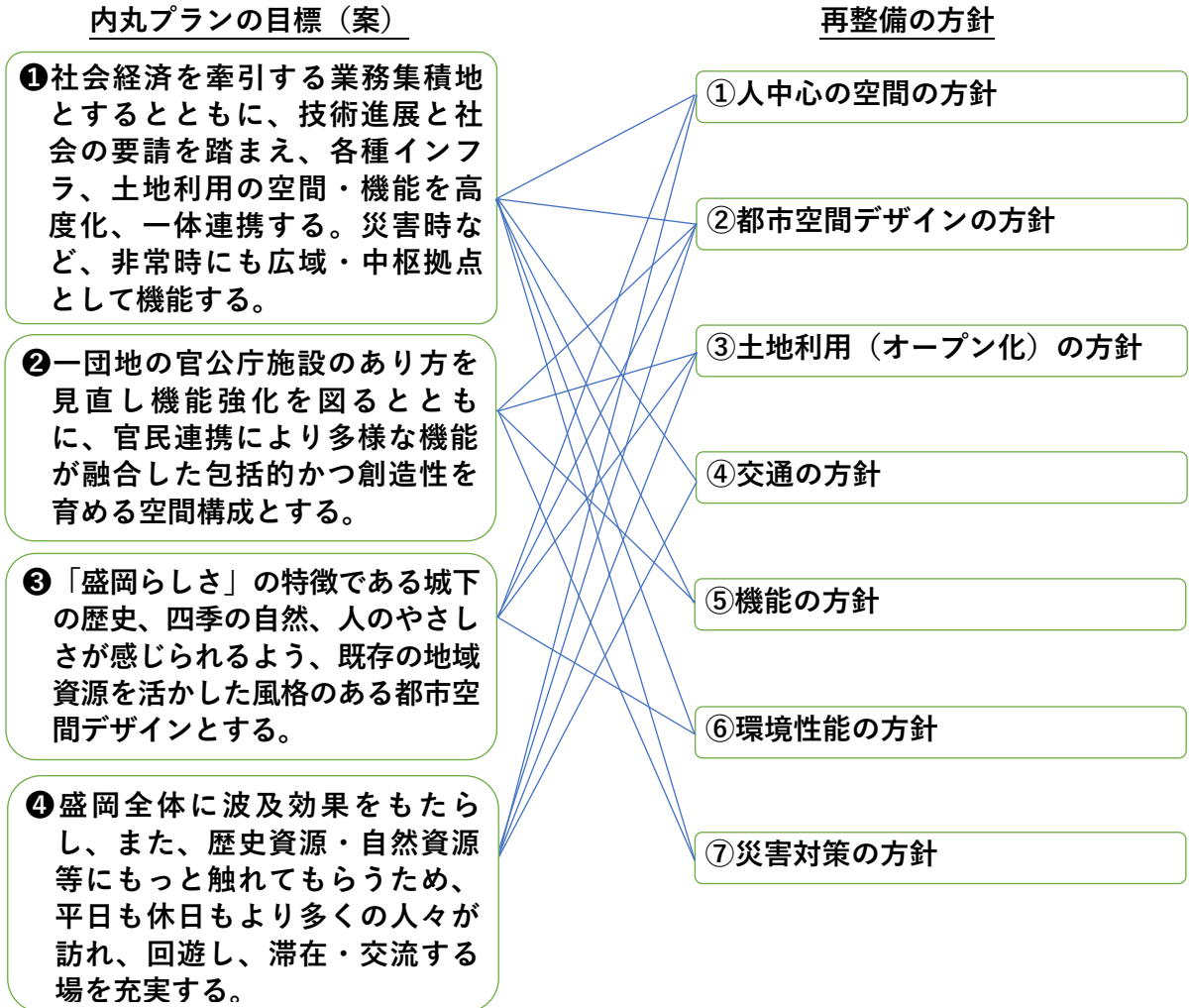


図 理想とする人中心のエリア

2. 再整備の方針

○内丸プランの目標（案）を目指すために、どのような方針に沿って取組を進める必要があるかを整理しました。



1) 人中心の空間

- 歩行環境の充実、自動車の速度抑制や段階的な進入抑制等により、誰もが安心して歩くことのできる地区を目指します。
- 地区内の地域資源と組み合わせた大小様々なオープンスペースを確保し、歩行者動線で結ぶことで回遊、滞留、交流を促す地区を目指します。



Walkable 歩きたく Eve level ウォーカブルの考え方 Diversity Open 開かれた空間が心地よい

2) 都市空間デザイン

- これまでの「盛岡らしさ」に自然と触れることのできるよう、都市空間デザインや土地利用は「盛岡らしさ」を代表する歴史資源や自然資源を手掛かりとします。
- 具体的には、基幹公共交通軸と成り得る街路や歴史的な街路を地区内交通体系の軸とし、地区内の資源と組み合わせるなど、歩きながら特に意識せずに「盛岡らしさ」を代表する歴史資源や自然資源に触れることのできる都市空間を目指します。
- 「盛岡らしさ」を代表する中津川及び盛岡城跡公園を活かし、周辺街区を景観上・動線上で連続させ、一体感を感じる都市空間を目指します。

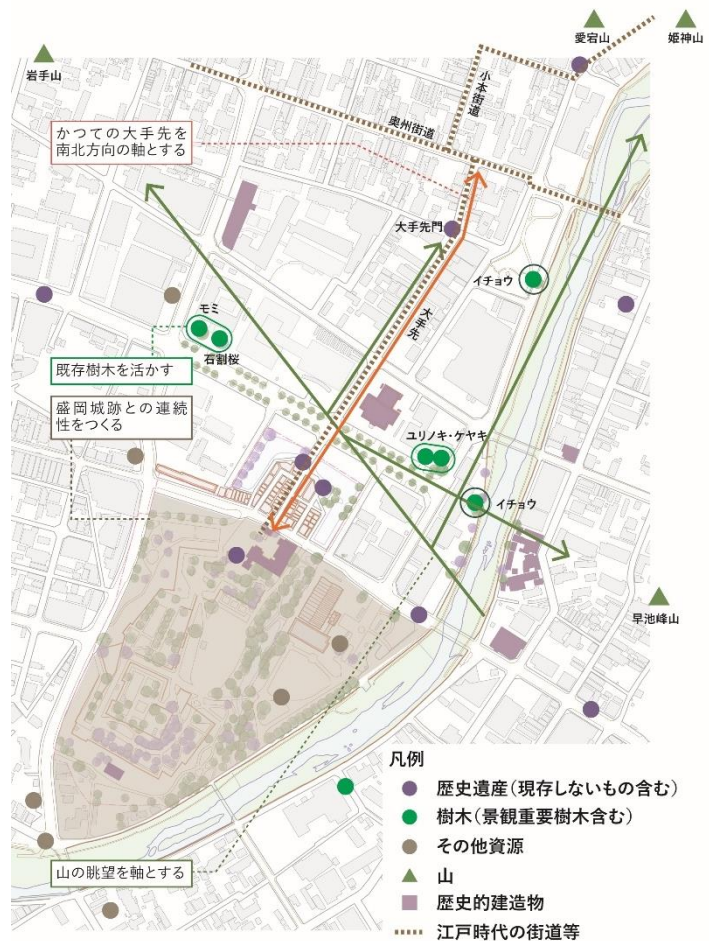


図 資源の参照

3) 土地利用 (オープン化)

- 業務効率の高い施設の配置と、地区内の回遊性向上を両立させるため、街区を広く取りながら、街区内部・施設内に誰でも通行できる通路を確保するとともに、地区内外に至る回遊動線の確保を目指します。
- 施設内にもオープンなエリアを設けることにより、様々な場所で居心地よく過ごすことのできる街区を目指します。

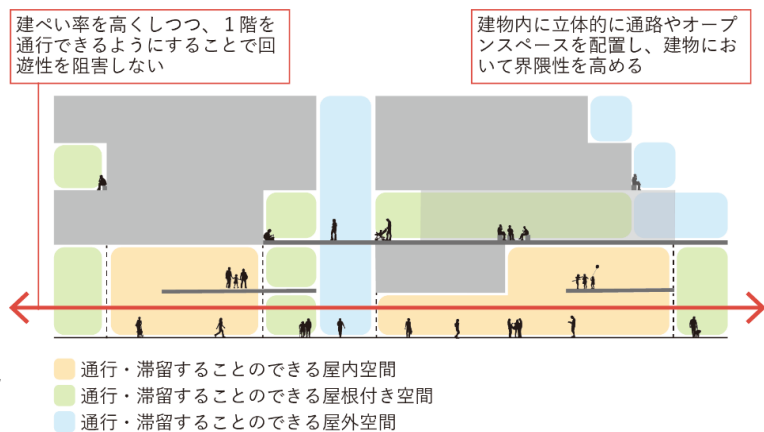


図 街区のオープン化 (建物断面イメージ)

冬季のオープンスペースの意義

○国土交通省の「新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会」の最終とりまとめにて、緑とオープンスペース機能として次の4つを挙げています。

- ・緑とオープンスペースの再構築により、緑豊かでゆとりある都市生活を実現
- ・都市のブランドとなる緑とオープンスペースが、美しく風格ある都市を実現
- ・地域の資源を活かした豊かな緑とオープンスペースが、個性と活力ある都市づくりを実現
- ・地域住民が主体的に運営する緑とオープンスペースが、やすらぎを実感できる暮らしを実現

○このうち、「ゆとりある都市生活」「風格ある都市」「個性と活力ある都市」などの観点を踏まえ、内丸地区ではオープンスペースをある程度大きく確保することが望ましいと考えられます。

○冬季間のオープンスペースの有効活用にあたっては、「利雪」という考え方を取り入れ、雪を魅力として利用する「冬ならではの場づくり」により、四季を通じて回遊性の向上が期待されます。

○盛岡市内では「もりおかイルミネーションブライト」（写真左）や「家族で雪っこ体験」（写真右）など、雪や寒さを利用した「冬ならではの場づくり」が取り組まれています。



4) 交通

- 現在の自家用車中心の移動から公共交通を利用して移動する社会への移行を段階的に促しながら、自家用車に頼らずに訪れることのできるアクセス性の高い公共交通ネットワークを全市的に構築することを目指します。
- 自動車での地区内へのアクセスを軽減させるため、地区外縁部、周辺部に共同の駐車場を設置するとともに、貨物車両の通行時間帯を設定する等により、地区内における自動車干渉を低減させ、安全で快適な歩行環境を目指します。

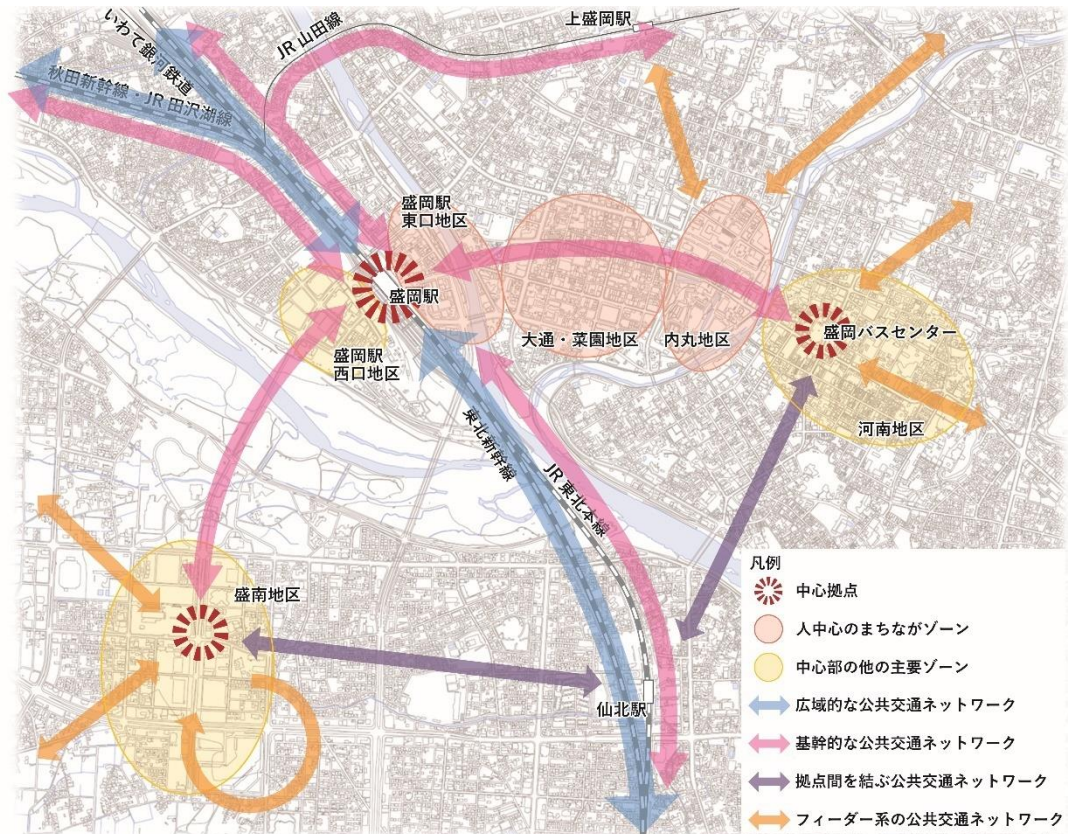


図 全市的な交通体系のあり方

5) 機能

- 現在の行政・文化・司法・メディア・金融・医療等の機能集積を維持するとともに、業務連携の更なる合理化・円滑化を図るため ICT・IoT を活用したスマートな機能連携を目指します。
- 既存機能に加え、これからの「盛岡らしさ」を創出する主体となる多様な職能を呼び込むため、起業・創業を含む大小様々な民間企業の入居を可能とする連携により、多様な専門知識やスキルを有する人々が集い、交流する場を目指します。
- オープンスペースや施設の低層階には商業施設を誘導することにより、アイレベルの魅力を創出するとともに、誰もが自由に過ごすことのできる場所も用意し、滞留しやすい場を目指します。

内丸地区への飲食店誘導による他地区への影響

○2021 年度には中心市街地の魅力を数値化（分析では「もりおかチャーミング指数」（MCI）と定義）し、再整備のあり方による数値の変化を分析することを試みています。

○このMCIを用いて、内丸地区に飲食店を誘導した場合の影響を分析したところ、誘導店舗数によりMCIは以下のように変化しました。

地区	MCI			
	現状値	内丸地区への誘導店舗数		
		30 店舗	50 店舗	80 店舗
内丸地区	0.72	0.90795	1.03010	1.21333
大通地区	0.98	0.99614	1.00826	1.02644
菜園地区	0.97	0.98735	0.99742	1.01253
中央通地区	0.53	0.54964	0.56176	0.57994
河南地区	0.46	0.49752	0.52066	0.55538

○内丸地区への誘導店舗数が増えると他地区の数値も増加しますが、80店舗となると現状最高値である大通地区・菜園地区を内丸地区が上回る事となります。

○このことから、内丸地区の飲食店の誘導は、他地区の魅力を相対的に低減し、内丸地区だけが賑わい、中心市街地全体の価値の向上に繋がらない可能性があります。

○このため、飲食店の誘導にあたっては過剰にならないよう留意する必要があると考えられます。

6) 環境性能

○地球規模の環境問題に対処していくため、個々の施設の環境性能の向上はもとより、地区全体での省エネ・創エネや低炭素化に取り組み、環境負荷を低減する地区を目指します。

7) 災害対策

○個々の建物のみならず、地区全体における防災・減災機能の向上により安全・安心な地区を目指します。

○既存の機能集積を活かし、機能連携した危機対応が可能な高度な防災拠点を目指します。

3. 再整備方針の考え方（全体像）

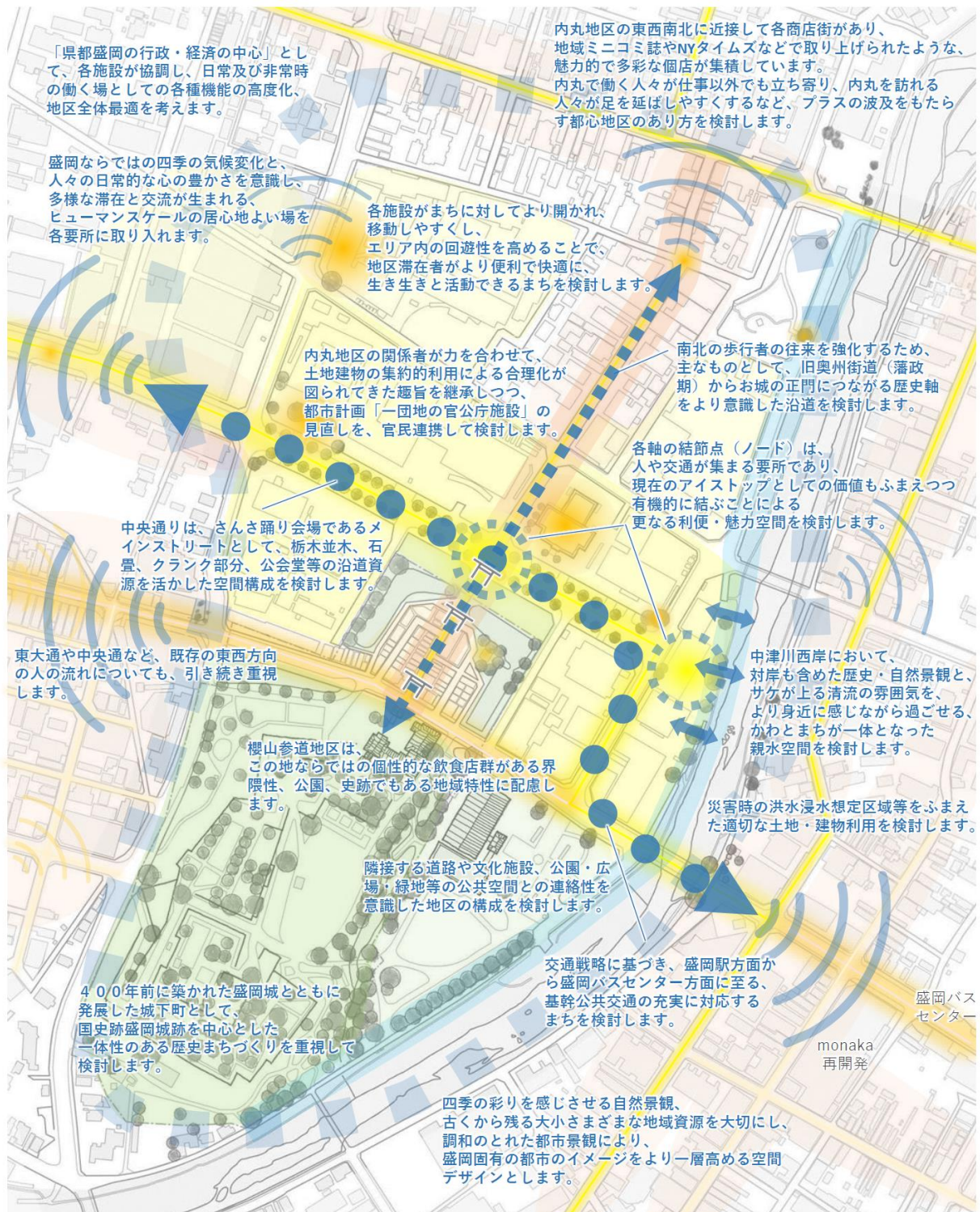


図 プランニングの方向性（骨子）

第5章 実現手段の検討

1. 地区一体での整備のメリット・デメリット

○内丸プランでは内丸地区を一体的に再整備することを前提としています。個々に施設を更新する場合と一体的に再整備する場合とを比較した地区一体での整備のメリット・デメリットは、次のように整理されます。

メリット

- 地区全体で一体感のある都市空間の整備
- 複合化等による土地・容積の有効活用
- 公共交通との関連付けや駐車場の集約
- 街路空間の再編や歩行環境の確保
- 地区一体での環境負荷軽減、スマート化
- 移転による通常業務への負担軽減

デメリット

- 関係者の十分な合意形成が必要（事業が長期化する場合がある）
- 事業完了の担保が確実ではなく、リスク回避の検討が必要

○上記のようなデメリットが考えられる一方、一体的な再整備によって地区全体の価値の向上が期待されるとともに、その効果が都市全体に波及するという可能性を秘めており、それぞれの土地や建物の価値が向上することにも繋がる点でメリットがあると考えられます。

2. 施設更新手法の比較

○各施設の更新は、「建てる場所・土地」に着目すると、「現在の場所（現地建て替え）」と、「別敷地」に分けられます。別敷地で建て替えた場合は、移転跡地を他者の建替用地とすることも考えられ、このように連鎖型整備を行った事例もあります。

○施設更新手法の特徴と留意事項について、次の表では主にこの「建てる場所・土地」に着目して比較しています。「現在の場所（現地建て替え）」の場合は、業務が滞りなく進められるよう必要な面積の仮移転用オフィスを現地近傍に確保して2回引越しすることになります。また、仮移転期間中のオフィス賃料が必要で、情報システムの中断ができない場合はその更新を2回行う必要もあります。「別敷地」に建て替える場合は引越しが1回で済む代わりに用地確保が必要となります。

施設更新手法の比較と留意事項

新しい建物の場所	用地確保の方法	移転跡地の活用	移転方法	手順	費用の項目
現在の場所 (現地建て替え)	—	—	2回移転 (= 中断移転) <u>仮移転用オフィス面積の確保が必須</u>	<u>仮移転先へ引越し</u> → <u>現建物の取壊し</u> → <u>新建物の建設</u> → <u>新建物へ引越し</u>	建設費+取壊し費用+引越し×2+情報システム更新×2+ <u>仮オフィス賃料</u>
別敷地	<u>用地買収</u> <u>不動産売買に伴う課税の対象</u>	売却し、他者の建替用地とすることも可能(連鎖型整備)。 まちづくり用地とすることも可能。	1回移転 (= 直接移転)	<u>用地関連の合意形成</u> → <u>新建物の建設</u> → <u>新建物へ引越し</u> → <u>現建物の取壊し</u>	建設費+取壊し費用+引越し×1+ <u>情報システム更新</u> ×1+ <u>用地費</u>

○「建物の所有形態」に着目すると、一つの建物を単独で所有する場合と、複数者の所有によって合築・複合化する場合があります。合築の場合は会議室、駐車場、設備などを共用することによって効率的な利用が容易になる可能性があります。その際、建物を共同で管理するための組合などを組成することになります。

なお、土地は建物所有者の共有となり建物の権利に合わせて共有持ち分の一部を取得します。

○事業手法としては、様々な条件が整い権利者等の合意が得られれば、合築の場合は市街地再開発事業、別敷地建て替えであれば土地区画整理事業など、法律に基づき手続きや権利整理の方法が明確にされている事業制度の活用も検討可能です。

○このような特徴を認識した上で、2023年度には、地区内関係者の更新の意向を十分に把握し、実現可能な更新手法を検討する必要があります。

第6章 今後の検討に向けて

1. 検討にあたっての基本姿勢

- 内丸プランは、2050年という未来を見据えた理想を掲げるとともに、再整備する上での実現可能性も担保する必要があります。
- そのため検討に当たっては、市民や地区内関係者が望む将来のあり方のほか、専門家や行政による将来展望も結集させることで理想を磨きながら、同時に実現可能性の観点から検証を重ねていく必要があります。
- このように理想の追求と実現可能性の観点からの検証を何度も繰り返すことで、「現実的かつ盛岡のまちの個性が光る」盛岡らしい内丸プランへと磨き上げていきます。

2. 検討すべき事項と検討プロセス

1) 交通体系の検討

- 公共交通を中心とした交通体系は、都市生活の利便性はもとより、中心市街地の価値の向上や居住地選択においても重要であり、内丸地区を人中心の空間にする上でも引き続き検討していく必要があります。
- 具体的には、中心市街地への交通体系のほか、JR盛岡駅と盛岡バスセンターを核とした中心市街地の交通体系を検討する必要があります。
- 自家用車中心から公共交通中心の交通体系へと段階的な転換を念頭に置き、将来の基幹公共交通のあり方や内丸地区内における人中心の交通環境等を2050年という未来を見据えて検討を行います。
- このような未来思考で理想を磨き上げるとともに、現実の盛岡市の交通ネットワークへの負荷を確認や、市民の交通行動の変容を促す具体的な働きかけを通じた理解の醸成を図ることで、無理のない段階的なプロセスを経て、理想の交通体系を検討していきます。

2) 都市空間デザイン・機能配置の検討

- 都市空間デザインや機能配置については、地区内関係者の意見等を十分に反映させるとともに、2023年度に開催した市民ミニサロン（うちまるサロン）による市民の意見等も踏まえ、これからの盛岡市のあるべき姿を体現することを目指し、理想と考えられる交通環境、都市空間、施設配置を具体的な平面図・断面図を用いて示します。
- 都市空間は多くの場合、施設や機能配置の観点から検討されますが、内丸プランにおいては、内丸地区を訪れる人が歴史資源や自然資源に触れること、内丸地区の従業者の「地区での過ごし方」の観点を取り入れて検討していきます。
- このような検討により、社会経済を牽引するとともに、これまでの「盛岡らしさ」を継承し、これからの「盛岡らしさ」を生み出すことのできる人々の集う内丸地区の将来像を示し、それに対する意見を聞き、将来像へと反映していくことで、多くの市民等が望む理想へと磨き上げていきます。

3) 再整備プロセスの検討

- 理想的な都市空間の実現に向け、現実に採用可能な整備手法や資金調達のあり方を検討し、具体的なプロセスを検討します。
- 一方、地区内施設の築年数や耐震化・長寿命化の対応状況を客観的に把握するとともに、地区内関係者との密な対話を通じて、施設更新の意向を具体的に把握していきます。
- そして、その実態に照らして理想の実現に向けた具体的プロセスの実現可能性を検証します。理想的な都市空間において重視する点についてはプロセスの再検討を行い、実現可能性を優先すべき事項については理想像の調整を図っていきます。
- このように理想的な都市空間の実現に向け、理想の実現プロセスと実態に照らしたプロセスを突き合わせ検討を進めていきます。

4) その他の主な検討事項

■新規誘導機能の検討

- 新たに誘導する機能については、内丸プランで掲げる再整備の目標に照らして検討し、同時に地区で働く上で求められる機能や内丸地区を訪れたいと思えるような機能について地区内関係者や市民との対話を踏まえ、市民が求める機能を誘導できるよう検討していきます。

■駐車場に関する検討

- 現在、内丸地区に立地する事業者の多くが業務用車両を必要とし、将来においても同様であると考えられます。そのため、自家用車による来街者のための駐車場は地区周縁に設置する集約駐車場の前提で検討し、業務用車両は地区内に確保する必要があります。
- さらに、内丸地区を人中心にする上では、地区北側の街区の居住者や事業者が所有する車両を対象とした検討のほか、貨物車両の進入についても検討していきます。
- 人中心の空間と駐車場の配置やアクセス路の確保の両立を基本とした検討となるため、現在における内丸地区やその周辺の駐車場のニーズのほか、必要とされる容量を把握した上で将来ニーズを推測し、将来必要容量に応える駐車場の確保について検討していきます。

■オープンスペース等の管理・運営手法の検討

- オープンスペースを確保する上では、プランニング以上に、継続的に魅力ある場所として管理・運営することが大切であり、また、集約駐車場の確保においても同様のことが言えます。
- 管理・運営する手法として、オープンスペースとなる土地や集約駐車場を所有する地区内関係者が各自で管理・運営する手法、指定管理者制度の活用、都市再生推進法人への委託、市民参画による管理・運営手法等を選択肢として多角的に検討する必要があります。
- 手法の検討に当たっては、内丸地区だけでなく盛岡市のブランディングやまちの活気へと繋げられる統一的な方向性を見出せるよう、地区内関係者等と協議していきます。

参考 うちまるサロンについて

1. うちまるサロンとは

- うちまるサロンは、内丸地区を中心としたまちなかにおいて、継続的に「盛岡の顔」であり続けるために、市民と「盛岡らしさ」を考える場として、「盛岡という星で BASE STATION」を会場に、令和4年度は4回開催しました。
- 各回テーマを設定し、冒頭に市内で活躍する市民等をゲストに迎えたミニ講演会を行い、そのテーマを踏まえて参加者同士が意見を交わしました。最後にアンケートを実施しています。

2. 各回の概要

■第1回うちまるサロン「盛岡市の魅力「盛岡らしさ」って何？」

- ・日 時：令和4年10月30日（日）14:00～16:00
- ・ゲスト：高橋 和氣氏（株式会社 Wakey 代表）



盛岡市出身。大学進学を機とし市を離れるが、大学・就職を経て U ターン。新規事業立ち上げサポートの仕事や、大学生向けの起業家育成事業（岩手県事業）のディレクターに従事。仕事の傍ら、移住促進や関係人口づくりの活動にも関わり、東京のさんさ団体「赤坂さんさ」、東京の若手盛岡コミュニティ「リトルもりおか」の立ち上げや、盛岡市の取組「盛岡という星で」にも参画。U ターン者の目線で感じる盛岡の魅力の発信を實踐中。

- ・参加者：29 人
- ・事後アンケート結果

楽しめた	22
どちらかという楽しめた	3
あまり楽しめなかった	0
楽しめなかった	0

※他の設問、回答は後段に記載。



「内わ地区再整備を考える市民サロン」

うちまるサロン

～盛岡市の鬼ま力、盛岡らしさを何？～

東日本大震災後復興支援活動

遠野まごころネット

- ★支援しに来た人が地元の人に支援される
- ★対等な支援関係が構築するつながり

サマタが100人
サマタがPJ

つながりづくりの仕事、活動の歴史約10年!

つながりづくりの事例、活動の歴史約10年!

- つなぐの学校: 対話の場
- 東北食の通信: 農業
- 協創力育成プログラム: 新社会人学生の場
- 1147: 11A-3907-11: 大学生同い事業創出プログラム
- MULTI MONO MORIOKA: 赤坂さん
- 岩手移住計画: 趣味のつながり居る会 @ 釜石
- ★盛岡の文化: 東京でも続けられる
- 1147: 11A-3907-11: 大学生同い事業創出プログラム
- ★盛岡の文化: 東京でも続けられる
- 1147: 11A-3907-11: 大学生同い事業創出プログラム
- ★盛岡の文化: 東京でも続けられる

★つながりがつながりを生む

高橋和氣さん



- ① 地域自体の在り方変化
 - ② ライフスタイル多様化
 - ③ インターネットによるつながり拡大
- ⇒ つながりづくり・コミュニティづくり
世の中が伸びている

つながりづくりポイント

- ★ 生もんの仲間になり、新しい「掛け合い」が生まれる
- ★ 新しいつながりが、生きる場になる
- ★ 主体目付は Give & Give
- ★ 色々な「居場所」が生まれる

★ つながりづくりではなく、つながりづくり

中央集権型モデル ⇒ 自律分散型モデル

盛岡らしさを次世代に継承

次世代に「押しつけられた」まじり合い

- ★ 私たちも、次世代も「地味」
- ★ 「盛岡らしさ」を採ることに大事

★ 時代の変わり変わり、社会環境や暮らしの変化を「覚悟」すること大事

盛岡市が考える盛岡らしさ = 多様な要素が小さい単位で生活軸線のそばで共存できること

- 新旧の混交
- 多様な用途の混交
- 自然との距離の近さ
- 中核市街地の移動しやすさ
- 多様な産業の集積

各班発表

★ 自分の好きな岩手山を見るスポットあるのでは?

都会、田舎、自然、岩手山

★ 根拠に人の優しさ

★ 都会でも田舎でもない!

★ 中小規模でいいところたくさん

プレイション

景色、風景、美しさ、建築物も含め!

人のつながり、優しさ

横断歩道、おじいちゃんから来る

ぐらこ @shiorin-g.jp

意見交換概要

グループ1		
no	意見	意見概要
1	まちの規模が小さく、安心感を感じることができる。	まちの小ささ
2	小さなエリアにいろいろな魅力が詰まっている。盛岡という小さな宇宙に暮らしているイメージを持っている。	魅力の密度
3	いい意味で都会でもなく、田舎でもない。暮らしていく上でのまちのサイズがよい。	まちの小ささ
4	街並みを楽しみながら、都市的な楽しみもある。個々にいろいろな楽しみ方ができる。	魅力の多様さ
5	商店や自然、歴史など、魅力が凝縮されている。	魅力の多様さ 魅力の密度
6	現代的なものもあり、歴史的なものもある。よい意味で「混沌」としたまちだと思う。	魅力の多様さ
7	特定の大企業の城下町ではなく、中小企業がたくさんある。産業に多様性のあるまちだと思う。	産業の多様性
8	まち全体が落ち着いた空気感があり、そのなかで人が自然に流れ、つながっている印象がある。	人のつながり
9	盛岡ならではの規模感のコミュニティがいくつもある。	人のつながり
10	まちがコンパクトであり、何をすることも便利である。夏なら自転車で市内を回ることができる。	利便性
11	不便することがない。生活に支障をきたすことがない生活のしやすいまち。	利便性
12	道々に興味を惹かれる店が見つかる。まちを訪れるたびに発見があり、歩くのが楽しい。	魅力の密度
13	岩手山はシンボルである。それぞれにベストビューを持っていて、そこから見る岩手山が一番きれいだと自負していると思う。	山の眺望
14	盛岡市は偉人を多く輩出している。	偉人
15	赤レンガ館が素晴らしい。横浜の赤レンガ倉庫よりもずっとよい。まちなかにあることもよいと思う。	スポット
16	ライトアップされた開運橋はとても美しい。	スポット
17	開運橋は通勤族のあいだで二度泣き橋と呼ばれている。一度目は赴任した際に遠くに来たことを泣き、二度目は盛岡を離れるときの離れがたさで泣くことに由来する。それだけ盛岡市はよいまちということ。	スポット
18	一ノ倉邸は素晴らしい。時間がゆっくり流れていて、異空間のように感じる。昔ながらの建物をまちなかに感じられることがよい。	スポット
19	盛岡という星でBase Stationはまちの拠点だともう。市外から友人が来ると、まずここに連れてくる。	スポット

グループ2		
no	意見	意見概要
1	まちを歩いていて、川の近さを感じる	地域資源
2	岩手山がどこからでも見える眺望が魅力的である	山の眺望
3	内丸を再整備するのであれば、アイストップをつくるような全体計画を検討してほしい	再整備の要望
4	盛岡の人は悪くいえば反応が薄い、よくいえば押しつけがましくなく、人の意見をきいて柔軟に物事を受け止められる	人のつながり
5	川と橋が多くあり、心地よい空間がある	魅力の多様さ
6	冬になると白鳥がとんでいる	地域資源
7	ヨーロッパのような広場があると内丸地区がより魅力的になると考えている	再整備の要望
8	横断歩道をわたるときに車がきちんと止まってくれるだけではなく、挨拶（会釈）をしてくれて、人のあたたかさを感じる	人のつながり
9	中央通りの並木	地域資源
10	川が魅力的なので、なるべく1階をオープンスペースにして、通りから川が見えるような建築的工夫ができるといいと考えている。	再整備の要望
11	川が東京と比べてとてもきれいである。単純に眺めとしてもいいし、川で遊べる魅力もある	地域資源 魅力の多様さ

グループ3		
no	意見	意見概要
1	紺屋町や茸出町の雰囲気居心地がよい	魅力の多様さ
2	喫茶店や衣料品店など、個人が経営する小さなお店によって構成されているところが特徴	魅力の多様さ 特徴
3	駅付近の市街地と、郊外の田園風景は、都会らしさと田舎らしさが共存しており、過度に都会過ぎず、過度に田舎すぎないのがよい	まちの小ささ
4	人口規模がほどほどであり、にぎわいが適度である。寂しくもないが、混みごみしていることもない。	まちの小ささ
5	都市機能が集約されていて、コンパクトである	まちの小ささ
6	市街地から一歩外に出ると、田園風景が広がっており、都市部と農村部のコントラストがあるのがよい。	まちの小ささ
7	盛岡は人のやさしさを感じる	人のつながり
8	さんさ踊りの文化が好きである	スポット
9	豊富な自然と、盛岡城をはじめとする歴史資源が豊富なのが特徴である	魅力の多様さ
10	中津川や城跡公園など、自然を感じるスポットが市街地から近くにあることがよい。	魅力の多様さ
11	建物が低層なものが多く、眺望が確保されていることがよい。	魅力の多様さ
12	岩手山の眺望がよい。	山の眺望
13	”みちのくの小京都”と呼ばれているような古くからの街並みが残っている点がよい。	魅力の多様さ

うちまるサロン vol.1 アンケート

No.	Q1-1. 楽しめた	Q1-2. どちらかという楽しめた	Q1-3. あまり楽しめなかった	Q1-4. 楽しめなかった	Q2. 盛岡の魅力【盛岡らしさ】とは？	Q3. 再整備にあたって、大事にしてほしいこと、期待していること	Q4. イベントの感想
1	○				田舎すぎず、都会すぎない規模で住み易いまちだと思います。他、中小企業や小規模のイベントが多々あり、良い意味で混沌としたまちだと思います。伝統や文化、職人のイメージが強くあります。	人々、住民が集まれる場所、機会が多いと嬉しいです！	面白かったです！住民がまちづくりについて考えられる場は非常に重要で、特に高校生世代も参加できると尚良いかと思います。次回以降も参加させていただきます！
2	○				内丸地区の「広場」、広い道路、市役所がアイストップに。 →ヨーロッパの「広場」でこれぞ盛岡！ →だから、さんさもできる！	「広場」を残してほしい。市役所でないとシンボルを残し、1Fはシースルーにして中津川も楽しめるように。	若い方が多くて素晴らしい！一方で内丸居住のみなさんにも入っていただければ…
3					自然、人、川、広さ。 押しつけがましくない感じがよい。	自然や地型をいかして再整備してほしい。今までのあたりまえを全て変えるぐらいの再整備。	新しい人々に盛岡に感じている事を聞けた事が新しく感じた。何か変わる前ぶれか？
4	○				歴史的な文化、建造物が残されている。美味しいものが多い。名物・名産品が多い。他県、他都市より美人・美男・美女が多い気がする…(笑)	市役所の移転、思い切った内丸にこだわらず、駐車場確保や交通優先で駅西等に移転とか？ 内丸の古いものを新しく、且つ、変えない保存・共存を大事にほしい。バランス感覚。	参加者に若い方が多く良かった。女性が少なかった…(残念?) 講演?盛岡出身の方で親しみやすく楽しかった。転職前・転職後の年収、家族構成等、聞きたかったが恥ずかしくてできなかった。
5		○			自然、歴史、やさしさ、暮らしやすさ、都会でもなく田舎でもない、ゆったりとした空間の世界。	若手山の見える空間、高齢化社会に対応した移動空間、自然と歴史が感じられる空間、(盛岡城再建とするなら、どこからも見れる空間とすべき)高層ビルは不用です。	とても良い取り組みだと思う。大学生の参加が多く(授業の一つ?)若い方の思っている盛岡らしさを聞いて良かった。但し、もっと一般の市民が参加する催しにすべきだと思う。倍以上でも少し長い話し合いの時間とすべき。
6	○				・コンパクトに全てのpoint(行政・金融・経済・情報)がまとまっている。 ・自然が豊かで手の届くところが多い。 ・出張から戻った際に感じる「ほっ」とする感じ。(開運橋/若手山)	上記の様に今後も「行政・金融・経済・情報」の中心であってほしい。文化についても同様に拠点であってほしい。 (城跡公園の利用)→「北のクラフト展」は全国から来盛され好評だった。	今後、内丸地区の再開発プランについての意見交換の場を企画してほしい。
7	○				寒さの厳しさ、中津川の川遊び(官庁街の徒歩圏内で子供が水遊びできるのは貴重)	古くからの中心地としての歴史を大事にしてほしい。県の中心、北東地の中心としての風格を持ってほしい。	いろいろな方の意見を聞くことができ刺激になった。イスが硬くて座っているのがつらかった。
8		○			まちなかを川が流れている。山の景色が良い。人のやさしさ。	市役所の位置、アイストップ、交通(主にバス)整備。	盛岡以外の出身の方から見た盛岡の良さなど、自分には無かった視点などを見ることができて良かった
9	○				川と近さ、景観。	人のつながりが大切だということが分かりました。	様々な意見を聞いて、とても楽しかったです。
10	○				イメージしやすいものがたくさん、思い浮かべられるということが盛岡らしさの1つだと思います。	古き良きを大切にしてほしい。新たなものをつくることも大切であるが、古きものに盛岡のアイデンティティが詰まっているということを大事にしてほしい。	ゲストスピーカーの方のお話が非常に参考になった。また、実際に参加された方と一緒に意見を出せる機会を設けていただけて良かったです。
11	○				城下町の風情を残す歴史と新しい顔のどちらも持つ、いわば昔と今が混沌としたまちという印象。また一方で、人情に厚い人が多い印象。(保守的で封建的な考えを持つ人が多いかも)	やはり現在の官庁街の機能を維持したまま、再整備するのが望ましいと考える。昼間人口の維持により地元商店街や飲食店の売り上げの貢献にもつながると思う。	高橋さんの講話は大変興味深く面白かったです。今後のうちまるサロンですが、市民にもっと参加してもらうために周知や宣伝方法を工夫していければ良いと思います。
12	○				新しさと古さ、観光と地元の方とか、お話のあったように混沌としているところ。いつも新しい発見があります。		毎回来ます。
13	○				都市の規模として適正。これより人口が多過ぎてても少な過ぎててもダメ。	自家用車ありきでない、バス利用者や歩行者を主とした整備が望まれる。自家用車進入禁止等の強力な施策を検討してほしいなと思います。	「都市」は今日のように、まちづくりに興味がある人だけでなく、興味がない人のものであるので、その視点を忘れないようにしたい。
14	○				三方を山で囲まれ、まちなかに川が流れる。見どころがあちこちにある。ほどよく都市的な要素と田舎がまじり合う。	広場やゆとりを大きくとって、市民が集えるようにしてほしい。平日のサラリーマンのまちから休日でも人が歩くまちへ。	高橋和氣さんのお話、ものすごく共感しました。Uターン者が増えるようなまちづくりがもっと進むと良いですね。
15	○				「人の良さ」が根底にあるように思える。また、良い意味で都会らしく、田舎らしいというのが良かった。	古き良きまち(城下町とか)を活かしたまちになることを期待します。	本日はありがとうございました。皆さんの盛岡愛を知るきっかけになったように思えます。また、レクチャーの内容も非常に興味深いもので、「つながり」について再検討する良い機会になった。
16	○				「盛岡らしさ」とは1人1人によって変化する多様性にあふれた所。また、いくつものグループ化によってコミュニティをつくることのできる可能性にあふれた所。コミュニティの在り方自体も「盛岡らしさ」。	再整備の事例をただ模倣するのではなく、「盛岡だから」一度足を運んでみたいと思えるような「内丸地区の再整備」を期待します。	「人のつながり」をつくり、どう発展させていくのかという中長期的なコミュニティを築く視点も大事なのだと学ばせていただきました。貴重なお話ありがとうございました。
17	○				①北国の田舎の中にある都市…自然と近くそれとの対比で都市感がある。 ②コンパクトな都市であるからつながりやすい…盆地という限られた空間のため、人とも近い。 ③人柄が良い…移住しても人間関係を良いものにできる。	人とのつながりを確保できるようにしてほしいです。	盛岡(内丸)の再整備と聞くとハード面がメインになってしまいうますが、より重要なことは人間なのだなぁと思いました。
18	○				自然や歴史、市民の活動が根付いているまちだと最近感じました。当たり前すぎて気付かない。文化が多いことが大きな魅力と感じます。	大きく見た目を変化させてほしくないなと思います。	高橋さんのお話や市の方のお話、盛岡市民のお話を同時に聞ける場所はとても貴重だと思うので、たくさんメモして、今後のヒントを得れるととても良い場でした。
19	○				小さな素敵な店が数々あること。	中津川と若手公園と内丸のつながりを強めること。まちの角々に緑のスペースを作ること。	参加者が多く、多世代にわたっていることがすばらしかった。
20	○				・誇れる場所、イベント。 ・川沿いを通勤、通学、散歩できる。 ・継承を受ける義務から→選択へ【良いと思う日常(場所)中津川】、特別な日(イベント)さんさ ・リフレッシュ、遊べる、趣味が行える場所や自然が近い。 ・盛岡人の「やさしさ」。	つながりをつくる、広げる事ができる場所…室内・広場・自然の場で。(居住者、市民、県民、Uターン、Iターン)	1時間以上連続して座るので、平イス(板張り)はやめてクッションをおくか、パイプイスにした方がよい。
21	○				・安心できるまち ・都市の機能+自然 ・やさしい、律儀…人のよさ	新しい場所、建物等と既存のものの調和。	・既に盛岡でまちづくりに取り組んでいる方、学生の方、仕事で盛岡にいらした方等、様々な立場の参加者の皆さんからお話を聞いて視点が広がった。 ・高橋さんの講演で盛岡らしさとは何かを改めて考える契機になった。
22	○				若手山の美しさ、空気のきれいさ。	盛岡市民の方たちが住みやすくなってほしい。	今日はとても楽しかったです。多くのことが学びになりました。
23	○				橋や川が多い。そして、それが住民の生活や散歩、観光に活かされていること。大通りや夜市など歩いて楽しめるイベントが多く、親しまれていること。さんさ踊りを踊れる人、楽しむ人が多いこと。	自然や遺産を継承しながら人々が暮らしやすいまちになること。市民の生活に盛岡らしさや良さが活かされること。根付くこと。人とのつながりで盛り上がるまちになること。	これからのまちづくりには人とのつながりが大事だと実感しました。人とのつながりで様々なイベントやコミュニティができた、生活しやすくなり、盛岡を知るきっかけになったりと、とても大切だと感じます。また、高橋さんのトークで「川沿いの道が通勤に使われる」というのが、とても驚き印象
24	○				コンパクトで生活に支障がない。偉人も多く市民として誇れる。	自然環境を保持しつつ、商業エリアも厚みを出していただきたい。	各年齢層の方々が集まって意見を伺えることが楽しい。
25	○				小さな地域にまちの魅力がぎゅっと密集していること。人間の認知力に余裕で収まる程度の面積であるが故に、安心感を得られる。城、川、木々、飲食店、橋など、小さな惑星の中に住んでいるような感覚がある。まちの魅力になり得るアイテムがある。風景が美しい。風景の美しさをプラットフォームにして、物思いをしたり、精神的な活動ができること。啄木を輩出。	盛岡というまちが手段ではなく、目的であり続けること。強いアイデンティティを持ち、わざわざ盛岡に遊びに行く、あるいは居続ける理由を維持すること。散歩していて感動できること。	講演者の話の内容はもっと客観的に考えた方がいい。盛岡についての話が聞きたいのに、彼の活動内容の話しかしていない。今回のイベントの主題は「盛岡のまちをどうするか」というテーマなのに、「僕はこんなつながりをつくってきました」という話になってました。岩手に引越してきて数ヶ月ですが、私の方が盛岡について語る気がします。都市についてのプロの話が聞きたかったです。盛岡らしさについて話すなら、地理・気候・歴史・県民性など構造的に分析しないと単なる私的な感想でしかないと思う。たぶん参加者の方がレベルの高い話ができたと感じる。まちづくりはあらゆる要素を複合する必要がある。社会や自然科学など教養がないとレベルの高い話ができないと思う。人とのつながりエピソードはもちろん大事なのですが、それは「盛岡らしさ」という要素とは別のはず。別のまちでも全く同じ話ができるはず。仙台でも秋田でも青森でも同じはず。なぜ盛岡なのか、盛岡だからこそその魅力、そういうところを科学的に分析しないと今後の課題に直接作用する行動がとれないと思う。イベントそのものはすごく楽しかったですし、高橋さんのお人柄はとても素敵でした！
26		○			風景ですかね。シンボルマークのとおり、若手山、三川。(流域的には上流側という地域)	品格あるエリアとしてほしい。重圧感のある雰囲気にしてほしい。	私もUターン組なので、講師の感覚がよくわかりました。

■第2回うちまるサロン「まちなかのそこの場所を使う」

- ・日 時：令和4年12月17日（土）14:00～16:00
- ・ゲスト：中村正樹（盛岡大通商店街協同組合事務局長）



岩泉町出身。盛岡市内の高校を卒業後、大学進学のため盛岡市を離れるが、盛岡大通商店街協同組合事務局への就職を機に U ターン。コミュニケーションギャラリーLiRiO（リリオ）の運営担当として、施設運営のほか、展示会、講演会等の自主事業にも携わる。現在は盛岡大通商店街協同組合の事務局長として、大型店等と連携した販促事業や、「お弁当パラダイス」等のイベント運営にも携わっている。

- ・参加者：24 人
- ・事後アンケート結果

楽しめた	18
どちらかという楽しめた	3
あまり楽しめなかった	1
楽しめなかった	0

※他の設問、回答は後段に記載。



「内町地区再整備」を考える市民サロン /
うらまるサロン #02

街路を使う
～街路空間を人中心に使いたい～

盛岡大通商店街
協同組合
中村正樹さん

盛岡大通商店街について

昔、大通は
北上川下り下
昔の賑わいが残る街並

今後の展望

全国千→店、商店街に参画
地元飲食店、ほかの参画して活用
出店のイベント
隣接店舗競争を促す協力!

★複数のイベント活動
組合わせる工夫大事!

課題

財源の確保
道路使用許可
手帳等

★応急重要
イベント振興金創出



行政参事参画
「笑の」まちづくり進めたい D 歩い楽しいまちに

公共交通機関の整備
バス、タクシー、自転車

ストリートファニチャー
ベンチ、ゴミ箱、照明

盛岡市における「街路空間の活用」の取組事例

盛岡市都市計画
マスタープラン

中心市街地、歩行者中心のまちづくり



人を中心とした
空間を再構築
多様な活動の
場の創出



歩い楽しい街

アンケート集まった
住民からの声

車道の
整備は!
公共交通機関の
利便性向上は!

商店街や地域の格となる
商業施設必要!

最近の活用事例

新型コト事例による道路占用

ティファタ、テラス営業で
道路占用許可

櫻山橋下(サクコ)

森町こまち取組

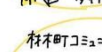
歩行者利便増進道路(ほこまち)

道路活用の
規制緩和

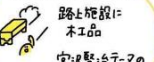
街路整備と賑わい創出の取組

村町上町

4月~11月
毎週土曜日
歩行者天国



村町コミュニティ道路
路上施設に
木製品



宮沢賢治テーマの
ストリートファニチャー
モニュメント

ホトライン斎町

アワードリニューアブル
バリアフリー



ババ通し

無電柱化
イベント開催



社会実験

大通り1.5キロメートル帯

貨物集積車両

車両駐留場

駐留場へ
転換



プレイスメイキングから考える
まちづくりの取組事例紹介

UR都市機構
山上 卓南さん

プレイスメイキングとは

★ 人々の暮らしを豊かにする
使いながらつくる

プレイスメイキングの進め方

準備

目的共有

仮設

実行

効果測定

場の事業組合せ

全国事例紹介

山形市柳原通り

水辺を再生して
居心地よい
空間づくり



プレイスメイキング「8つの重要要素」

1 座り場



2 囲い場



3 話し場 商談し場



4 陰り場



5 眺め場



6 火気場



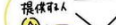
7 食場



8 遊び場



場を
提供する
場を
楽しむ



各班発表

夜も楽しいまちに!

10分まち歩き
まち歩き



色んな人が集まるまちに!

イベントの開催

人を見せたいから
多様なイベント開催



人々から
リアルに交流できる場

共有できる場



勉強や読書
できるスペース



ショップ-街開放

7月-2025

ショップ-イベント-2025

「色んな人が集まるまち」



通りには
特色
明確化



7/20@shiorin-gpp

意見交換記録

グループ1		
no	意見	意見概要
1	(盛岡の「通り」といえば)賑やかな大通りのイメージ。	感想
2	(盛岡の「通り」といえば)材木町あたりは雰囲気良く気に入っている。	感想
3	(盛岡の「通り」といえば)路地裏のある紺屋町。	感想
4	(盛岡の「通り」といえば)木伏商店街や緑地をイメージする。	感想
5	人と会って話して、交流できる場があると良い。	アクティビティ
6	映画鑑賞やスポーツ観戦等、みんなで盛り上がるイベントはどうか。	アクティビティ
7	みんなで盛り上がるイベントだけでなく、一人一人がじっくり話して交流できる場も必要ではないか。	アクティビティ
8	イベントだけでなく日常使いも大切である。	感想
9	それぞれが好きのように通りを使えると良い。	感想
10	休みながら歩ける工夫が必要。シャッターが閉まっているところを休憩スペースにするなど。	滞留空間
11	ちょっと一休みできる椅子やテーブル、こたつなどもあると良いのではないか。	滞留空間
12	学生の勉強スペースや読書ができる場所など、店舗のジャンルにあった沿道の使い道ができると良い。	滞留空間
13	親子がおもちゃをもってきて遊べるスペースがあると良い。	アクティビティ
14	夜もシャッターを閉めずに、灯りを付けて店内を見せることで、何の店舗かわかり興味を持ってもらえる、また、雰囲気も良いのではないか。	アクティビティ

グループ2		
no	意見	意見概要
1	平日と休日、さらにイベントをやっている日でまったく人出が違う印象がある。	情報発信
2	イベントをやっているという情報を知る機会がない。	情報発信
3	情報発信をしないと、まちなかに住んでいる人しか訪れなくなる。	情報発信
4	大通りでのイベントが多いことはよくわかった。市の広報などで紹介しているのかもしれないが、SNSでの発信を増やすとよいのではないか。	情報発信
5	SNSの発信もよいが、盛岡駅のフェザンで何らかの発信を行ってはどうか。フェザンを訪れている人は多いし、中心市街地への誘導にもなるのではないか。	情報発信
6	自動車生活しているので中心市街地にはあまり来ないのだが、中村さんの身にレクチャーでいろいろなイベントをやっていることを知れたのは発見だった。	感想
7	イベント時の写真が紹介されていたが、あんなに人が訪れているという事実が驚いた。	感想
8	イベントに参加しようとすると自動車アクセスすることになるが、パーキングが少ない。公共交通がもっと便利になれば公共交通で来れる。いずれかの充実が必要である。	交通アクセス
9	イベントに参加するためにも大通商店街の周辺にパーキングがあるとよい。	交通アクセス
10	大通商店街に自動車で来たときに感じるのは歩行者が近く怖いということだ。安全が十分に確保された歩道にすることで、自動車も安全だし、歩行者も歩きやすくなるのではないか。	歩行空間
11	大通商店街に座ってたたくことのできるベンチが置かれた広場があるといい。材木町も街路上にはないが、川沿いの空き地でベンチなどを置いてあるところがあり、滞留することができる。	滞留空間
12	大通商店街にひと休みできるイスやベンチがあるといい。	滞留空間
13	郊外のショッピングセンターにない魅力は昼にお酒が飲めることではないか。自動車で行かないといけない場所では飲めない。材木町はペアレンビールのタップがあるから人が来ているという側面もある。	アクティビティ
14	まちなみの変化と生活の変化のなかで、新しい切り口のイベントがあってもいいのではないか。食べ物以外にもいろいろとあると思う。	アクティビティ
15	何かをしたいと思っている人が参加しやすいイベントであるとよいと思う。	アクティビティ
16	大通商店街の周辺は古くからある店がなくなり、裏通りにはいかかわしい店が増えてきている。書店が少なくなり、文化的な香りも少なくなっている。まちとして、行政としてブランディングが必要なのではないか。	ブランド
17	郊外ではなく、大通商店街をはじめとする中心市街地に来てもらう戦略が必要だと思う。	ブランド
18	クラフト市は活況だが、せっかくの盛り上がりは城跡公園だけに限定されている。もっと広げてもよいのではないか。また、河南地区にはユニークなコーヒー店が多くあるが、クラフト市の客層ともつながるのでPRしたらよかった。そういう戦略を考えるべき。	ブランド

グループ3		
no	意見	意見概要
1	今日の講演を聞くまで、大通りでこれだけイベントがあったことを知らなかった。せっかくなので参加してみたい。	感想
2	歩いてお店を回れるような空間づくりが好ましいと感じた	感想
3	商店街に1本だけ残っている街路樹の話聞いて、もっと街路樹があるような通りがよいと思った	感想
4	大学に入学してからの盛岡の姿を見ていないので、コロナ禍前にぎわいを知りたいと感じた	感想
5	イルミネーションが少なく、夜のぎわいを生むような取組をするべき	アクティビティ
6	イルミネーションは写真に撮って終わりにならず、イルミネーションのなかを歩きたくするような仕掛けになってほしい	アクティビティ
7	盛岡城の石垣が見えるのが大通りのポイントだと思う	ブランド
8	食べ物があると寄りたくなる。食べ物を中心にして人が集まるような街になってくれればよいと思う	アクティビティ
9	イベント時以外にも、歩いている途中に一休みできるようなベンチがあってほしい。	滞留空間
10	自分の地元は中心部がシャッター通りになってしまっているが、盛岡は思ったよりも中心部の商店が元気なところがあると思う	感想

うちまるサロン vol.2 アンケート

No.	Q1-1. 楽しめ た	Q1-2. どちら かとい うと楽 しめた	Q1-3. あまり 楽しめ なかつ た	Q1-4. 楽しめ なかつ た	Q2. 大通りを使ってやってもらいたいこと	Q3. 歩きたいと思うような道	Q4. イベントの感想
1	1				こたつで人と食べながらおしゃべり。冷麺大会。県内各市アンテナショップを出店でゆるキャラ大名行列。学生が勉強できるスペースがほしい。	歩道が広く緑がいっぱい。	昔の大通りの様子が知れて面白かった。
2	1				日常遣いには商店街の活性化が必須。夜の飲食が増加した中でいかに地元民による“商”につなげていくかがポイントか。今回のテーマとなる？イベントは家族向け、子ども向け、大人（夜）向けと別けて考えることが必要か。しかし、イベントは集人には有効と思うが、継続して人が集まるものではなく、一時的なものになってしまう。つまるところ、日常遣いの地元民の“商”の活性化対策が優先か。	ゆったりとした空間、樹木草が所々にあり、休むスペースがある。“歴史を感じられる昔を思わせる街並”がある場所。建物は新旧問わないが、盛岡の歴史を見ただけで感じられる（市外の方々にも）建物に囲まれたい。	前回は感じたが、若い世代の参加が多く、これからの盛岡を考える力を感じた。但、大学生（ゼミ生）の様子であれば、より多くの大学生を参加させられるスペースで次回以降開催してはどうだろうか。若い人の考えと感性をもっと知り、取り入れたいが…。イベントは制約が付きもの。恒常的に人が集まる（大勢のみならず小人数も）形が良い。シャッターが閉まっている店舗の活用がポイントでは。平日も集人となるシステム。
3		1			飲食も良いが、マルシェ、産直なども開催して欲しい。	“肴町”それぞれの街が独立するのではなく、連携して見ては…。	大通商店街の苦勞が理解できるその街に「お金」が落ちないと運営できないので、如何にお金を落とさせる「消費」する仕組みが考えられたら
4	1				パレード&カーニバル→リオ風（前にやってたんですね）小規模なさんさとか。阿波踊りとか他県のまつりパレード。旧大東町裸まつりの女性版？	人が集まっている通り（美男美女が踊っている、コスプレとか）。舗装じゃない道（タイル、石等）木々、花がありアロマを感じる通り。夜は明るいイルミネーションがある通り。水路があってホテルが舞っているとか？	
5	1				広場的なものをつくって休憩、飲食したい。	緑が多いみち。	フリートークの時間をもっとたくさん。
6		1			人が歩いて楽しめるようなイベント。	道が広くて、車と自転車がゆったり行き来できるような	今までの大通りの歴史を初めて始まりから知ることができました。あり
7	1				サッカーW杯か、ラグビーW杯などのパブリックビューイングができる場所を作ってほしい。	木伏のイルミネーションのような通りや、城下町の名残の道のような複雑な道を歩くと、先に何があるかわくわ	イベントを通じての多世代交流がとても面白かった。
8			1		居酒屋とシャッターが閉まっているところが多いので、シャッターのところを開放して若者向けのスペースにしてほしい。休憩スポットなど。	冬だったらイルミネーションがあると行きたくなる。その他は紅葉や花見ができれば嬉しい。木伏緑地の雰囲気が良い。	大通り周辺にみんなが求めているものを共有できたし、盛岡の取組について知れて良かったです。
9	1				クラシックカーのイベント。イベントを開催する際にターゲットとする観客層を明確にして行うと良いと思います。（映画関係自動運行・運転バスの実験など。駐車場のステーション化。	楽しくゆっくり探索できるようなまち。（ベンチがあったり植物がある。車と歩行者の距離が近すぎない。）	イベントに参加してみて、内丸でのイベントを実際に知ることができ、今後参加してみたいと感じました。
10		1			イベントの運営側を体験してみたいと思いました。	安心・安全な空間。座れてしゃべれる、飲食ができる。	お話を聞くのが多かった。みなさんともう少し話す時間を。アイデア
11	1					おしゃべり。にぎやか。	盛岡の大通りの歴史とともに、課題やより良い空間をつくるためのアイデアを考えることがとても楽しかったです。町づくりに興味があるのでとても勉強になりました。ありがとうございました。
12	1				大谷翔平選手や菊池雄星投手などの若手にゆかりのあるスポーツなどのライブビューイング。	車両等からの安全が保証されている道。様々な景色が見られる道。	様々な意見が出て勉強になりました。内丸がより良い地区になるよう応援しています。
13	1				ショーウィンドウなどを飾り、歩いて楽しい通りには？	その先に何があるか？わくわくするような道通り。	古くから大通りのにぎわい、活性化にご尽力されていることを知ること
14	1				盛岡城跡との歴史的なイベント。小岩井農場とのコラボ（動物のふれあい、牛乳早飲み、おかし作りなど）	明るい雰囲気がある道。例えば、イルミネーションであふれていて、夜でも道がキラキラしている。	大通りの歴史を知り、いろんなイベントを行って、いろんな人が楽しく歩ける取組が多くされていることを学んだ。代表発表はとても緊張したが、こういう機会があまりなかったので良い経験になった。
15	1				地域交流ができるイベントをしてみたいです。	買ったものを食べるイスがあって、自然が多いところ。	盛岡のことを知れて良かったです。
16	1				大通りでの車の違法駐車が意外と多いため、駐車スペースを増やすか、もしくは規制の強化をしてもらいたいと思った。	明るく座って楽しめる通り。	たくさんの方のお話を聞けて良かった。
17	1				音楽やファッションに関することで、若者にとって魅力的なイベントをもっと開催していただきたいと感じます。	材木町や八幡町のように美しい景観（街並み）を感じられる道。	盛岡の魅力の1つとして、観光地や市街地がコンパクトにまとまっていることだと思いますので、「ウォークブル」なまちづくりは今後重要な
18	1				土日は歩行者天国に。老若男女の方たちが楽しめるイベント。	食べ歩き、おしゃべりする場所をたくさん作っていただ	楽しく参加できました。意見をたくさん聞けて良かったです。
19	1				中村事務局から最後にお話がありましたが、お弁当パラダイスの実施形態ともまた異なる、その場で調理され、飲むことのできるイベントが大通りで開催されるととても素敵だと思いました。	道の各所に休憩ができる、また他の人と交流ができるスペースがあると過ごしやすく感じます。	前回から参加させていただき、今回も貴重なお話を聞くことができ、他の参加者の人のお話もとても興味深かったです。ありがとうございました。
20	1						
21	1				日常的→閑散した現状があるので、空いているブースをつかえると良い。	木伏→ライトがきれい。外で飲食できる。中と外のつながりがある空間。	対面でみなさんと話ができて良かったです。思い浮かばない案もたくさん聞けて楽しかったです。
22	1				様々な人とお話ができる場。	ゆったりと休むことができる場所があれば良いなと思います。	他の方々と交流できる時間をもっとあれば良いと思いました。様々な方のお話を聞くことができ勉強になりました。ありがとうございます。

■第3回うちまるサロン「盛岡らしい場所はどこ？」

- ・日 時：令和5年1月28日（土）14:00～16:00
- ・ゲスト：赤坂環（デザイナー）、木村敦子（ライター・エディター）
有限責任事業組合まちの編集室（てくり編集・発行）



盛岡の地域ミニコミ誌「てくり」を2005年に創刊。以来、年2回のペースで「伝えたい・残したいふだんの盛岡」をテーマに発行を続ける。ライターの赤坂環さんは、情報誌の編集や「食」をテーマとした取材を多数手掛けている。デザイナーの木村敦子さんは、企業パンフレット、ロゴマーク、パッケージデザインなど、印刷物を中心に手掛けるデザイン事務所を運営。もうひとりのライターである水野ひろ子さんと共に2020年、(株)クラシカウンスルを設立し、伝統工芸の普及振興やイベント運営などを行っている。

- ・参加者：30人
- ・事後アンケート結果

楽しめた	22
どちらかというと楽しめた	5
あまり楽しめなかった	0
楽しめなかった	0

※他の設問、回答は後段に記載。



内わ地区再整備を考える市民サロン /
うちまるサロン#03
 ~盛岡らしい場所はどこ?~

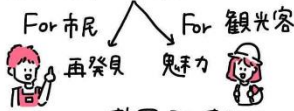
2くり編集室
赤坂環さん
木村敦子さん



「2くり」が育てきた「盛岡らしさ」

2くり、2こんはもの

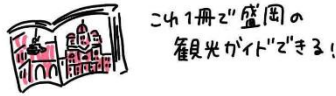
- ☐ 2005年創刊、年2回発行
- ☐ 「伝えたい、残したい、ふだんの盛岡」という想い
- ☐ 広告とら可「自費出版」
- ☐ 生活者の視点



盛岡らしさとは

- ① 中津川は大事
 \ まちの中心部 /
 魚が
 - ② 個人店が多い
 滋賀からの近江商人
 老舗と移住者の新店
 混在してる!
 \ ゆるやかにつなげたい /
-

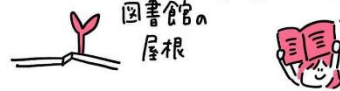
盛岡らしさを詰めた1冊 /
 vol.14 「盛岡カルチャー」



2こんはものを発行してきた!



盛岡の「モノ」の連載も ★ なくなっていくものを
 新媒体として記録



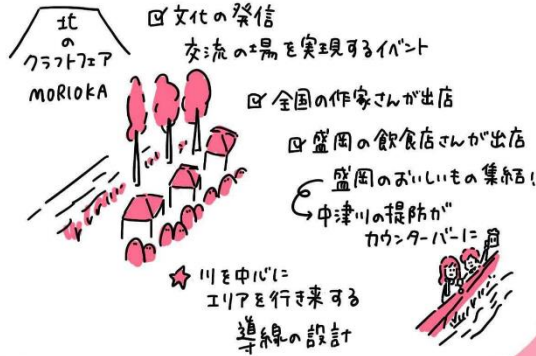
立原道造の盛岡1-10
 \ 今の私たちが手に取って見える盛岡 /

- ★ 外から見た目録で 盛岡を知る
- ★ 変化した 盛岡らしい景色

北のクラフトフェア紹介

このエリアでできること

- 個人店だからこのつばかりがマッ ▶▶▶ 新しいものをつくる?
 - 「三方よし」を背景にした個人店同士のつばかり ▶▶▶ 何かを仕かせる
-



各班発表

城跡公園 四季を通じた奥魅力!

夜桜 紅葉 雪K7Y...

桜山の密度 若者のカフェ 雑貨店

見える景色の豊かさ

「ルト」で奥魅力

ランニングウォークコース

自然が美しい 古建物が 大事にされてる

◎ 旧町名を知りたい

1 2こんはのやり方!!

① 岩手公園でピクニック

② 3週変りりのコーヒーショップ

美しい径遊み 歩くのが楽しい

個人店が多い 川と街が

盛岡の鬼手発見 密着に開き

舟で径遊み 盛り上げる取組み

7313 @ shiorin-grp

意見交換概要

グループ1		
no	意見	意見概要
私の推し		
1	明治橋から見た北上川越しの岩手山。写真に撮っている人が多いように思う。	岩手山
2	光源社可否館の中庭	飲食店
3	開運橋の花壇	その他
4	開運橋から見た岩手山。その他いろいろなところから岩手山が見える。ビルの間や石垣と山の組み合わせなど。山が自分に着いてきて、語りかけてくれるように感じる。	岩手山
5	旭橋から見る岩手山が好き。ほとんど毎日写真を撮っている。	岩手山
6	中津川と岩手公園の組み合わせが好き。市街地のなかで川で遊べることがよい。	中津川
7	北上川で舟を運行している。川の上からまちをみると、自然・歴史がよく見える。川と関係しているまちだと実感する。	北上川
8	木伏緑地前はかつての舟運の拠点。現在舟を運行している。	北上川
9	川や緑など身近に自然を感じることができる。南昌荘の庭園は四季の移ろいを感じることができる。	四季
10	高松公園。四季を感じることができる。	四季
11	岩手大正門すぐ近くの雑木林。まるでヨーロッパの森のように感じる。	その他
12	赤レンガ館などの建築物。	歴史
13	八幡宮の表参道がきれいに整備されている。八幡宮からまちを見ると活気を感じることができる。	歴史
14	県庁前の中央通りはすばらしい。市役所に向けたアイストップビスタは日本一だと思う。さんさなどではお祭り広場にもなる。	中央通り
15	メインの街路をお祭りに使うまちは、県庁所在地では珍しいのではないか。	中央通り
16	復興支援をしていたとき沿岸部から帰ってきたとき、国道146号線でホッとした。それまでは雪道を走ってきて、都会に着いたという実感が持てる。	その他
好きな場所		
1	城跡公園を散歩することが好き。歌碑の前で実際に寝そべってみたことがある。	内丸
2	喫茶店めぐりが好き。櫻山周辺には新旧色々あって面白い。新しいものと古いものが融合されているエリアだと感じる。	内丸
3	落ち着きたいときなどに中津川を散歩する。	内丸
4	喫茶ふかくさのある中津川沿いの街路。夜に散歩すると中津川の音が聞こえて気持ちがよい。	内丸
5	じゃじゃ麺は本店に限る。	内丸
6	ござ九の近くのワインバー。	河南
7	熊ヶ井旅館の食堂スペースはアットホームな感じがする。	菜園
8	赤レンガ館など、古い建物が残っている。	—
9	舟の運行は興味深い。	北上川
10	大学生の飲み会は一軒目は大通りのチェーン店に行くが、二軒目は少し離れた店に行く。一人一人が推しのお店を持っている。開拓しがいのあるまちだと思う。	—

グループ2		
no	意見	意見概要
私の推し		
1	開運橋から見る岩手山	岩手山
2	開運橋と木伏緑地	北上川
3	県営体育館の辺りを散歩をしながら毎日写真を撮っている。季節の移り変わりが感じられる。	岩手山
4	盛岡市全体として歩いて廻れるスケールであるのがよい	—
5	朝市など地元の人が街を支えているということを実感する	—
6	岩手公園と中津川の一体感がよい。コーヒースタンドなどがあるとさらに良い。	内丸
7	肴町の七夕	河南
8	中津川から見える岩手山が好きである。	岩手山
9	北上川の水量が豊富で見ていて興味深い	北上川
10	古い建物が残る街並みが好き	—
11	芸術・文化に対してまち全体として理解がある。特に手芸用品店や画材用品店は、都市部で撤退が相次いでいるにも関わらず、盛岡では店舗や品ぞろえが豊富などところが特に良い。	—
好きな場所		
1	ござ九の街並み	河南
2	八幡町の「アンカー」	河南
3	アートショップ「彩画堂」	駅東
4	中津川はもっと水辺に近づけるようにならないか	中津川
5	古くから残る町名が無くなっていくことがさみしい	—

グループ3		
no	意見	意見概要
四季を感じられる		
1	城跡公園の桜、特に夜桜が綺麗	四季・城跡公園
2	春の木伏を歩くと気持ちがいい	四季・木
3	川・橋・夕景が綺麗、中心部から少しのところにある高松の池もぼーっと過ごせるいい場所	四季・高松の池
4	盛南大橋からの景色、まちに行くワクワク感を感じられる	盛南大橋
水を感じる（井戸水・川の水・橋からの風景）		
1	鉦屋町の大慈清水	大慈清水
2	釣りができる中津川やそこから見える山々の風景	中津川
3	菜園通りから開運橋の眺め	開運橋
4	川で昔は遊んでいた、これからも遊べるような空間になってほしい	川
5	川があり、風を感じる。そういう自然をいつでも感じれる場所が素敵	川
6	川が多く道が分かりにくいと最初は思ったが、逆にそれが歩き回る楽しさや移動する魅力に繋がっていると感じている。	界索性
その他（五感等）		
1	さんさの練習が聞こえてくる場所	さんさ・音
2	櫻山付近は、昔は飲み屋街のイメージが強く、サラリーマンの集う場所といった雰囲気だったが、最近は若い人が雑貨系の店舗を開業しており、櫻山付近を訪れる人が多様になってより魅力的に感じている	櫻山・雰囲気
3	櫻山付近のごちゃごちゃした建物の密度感が好き。建物からの色んな匂いがあふれていて、そういう雰囲気が魅力的	櫻山・匂い
4	整備されていないからこそあり続ける多様な風景	界索性
5	広すぎない開運橋	開運橋

うちまるサロン vol.3 アンケート

No.	Q1-1. 楽しめた	Q1-2. どちらかという楽しめた	Q1-3. あまり楽しめなかった	Q1-4. 楽しなかった	Q2. 盛岡で、身近な人（友だち、恋人、家族、職場の仲間等）と、過ごしたいと思う場所はどんなところか。【①だれと②どこで（何があって、どのような雰囲気かなど。）③どんなふうに。】できればグリーンシーズン（春・夏・秋）とウインターシーズン（冬）、それぞれ書いてください。	Q3. 盛岡で、身近な人（友だち、恋人、家族、職場の仲間等）と、過ごしたいと思う道（通り）はどんなところか。【①だれと②どこで（何があって、どのような雰囲気かなど。）③どんなふうに。】できればグリーンシーズン（春・夏・秋）とウインターシーズン（冬）、それぞれ書いてください。	Q4. イベントの感想
1		1			友人と花見の季節や、自然をより感じられるタイミングで、たまには外でコーヒーやお茶をゆっくり飲んで過ごしたい。緑の多い公園など。 (グリーンシーズン) 家族と緑と水がある場所で、ゆっくり過ごす(中津川、御所湖...) (ウインターシーズン) 子供と雪遊びをする(中央公園、まほろ岩手...)	仲の良い人と桜並木のある道や、歴史的な建物を眺められる道を歩きたい。	普段車での移動が多いので、みなさんのおすすめの場所を聞いて、街中をゆっくり歩いてみたいと思いました。
2	1				冬も外で楽しめるような、場所があるといい。	肴町と中ノ橋通とビクトリアロード。家族でゆっくり安全に買い物や歩くことができる。	多様な世代の方の意見を聞くことができ、とても有意義でした。
3	1				自然を感じられる屋外で、友達とゆっくりしながら飲食したい(木伏のような)。春が気分的にちょうどよい。	旧奥州街道がもっと歩きやすくなってほしい。	とても楽しい会でした。
4	1				岩手公園(オールシーズン)、岩山(フルシーズン)。 ①だれとでも ②四季を感じ、いい広さ ③散歩	友達とカフェやハンドメイド店、雑貨店があって落ち着いた道！フリマとかでも◎。秋に紅葉を見ながら歩きたい。	楽しく盛岡についてお話ができて良かった。
5	1				友人と中津川で夏に鮎釣りをしたいが、駐車場が川原になく、放流も少ないのが釣れていない感じで、やったことがありません。 盛岡城跡公園での花見&散歩。	上の橋～中ノ橋の間、中津川の道(オールシーズン) 岩手公園～開運橋 菜園の通り(早朝) 八幡通り(オールシーズン)	楽しい会でした。盛岡愛をすごく感じる事ができる会でした。
6	1				グリーンシーズン：子どもと朝のバス停で待つ時に、一緒に暖かく過ごしたい。旧競馬場でクロスカントリースキー。	大通でショッピング&飲んだくれる。中津川沿いの道を、釣り人や川魚を見ながら歩く。	
7	1				春、家族と盛岡城跡公園の桜並木の道で散歩したい。 夏、一人で中津川のほとりを歩きながら水遊び、イスに座って読書したい。 秋、八幡平の紅葉を見ながらドライブを楽しむ。 冬、友人と雪見温泉を楽しみたい。スキー場で厳冬を楽しむかな。	グリーンシーズン：家族と裏材木町をぶらぶらと。お茶を飲んだりして。ウインターシーズン：サクココの雪景色は多分世界でこしかな。客を案内する等はここですね。	トークセッションがたっぷり時間があって良かったです。
8		1			①家族、友人、知人 ②夕顔瀬橋の橋上より岩手山をのぞむ。 ①家族、友人、知人 ②盛岡城跡含む岩手公園 ③散歩 ①家族、友人、知人 ②岩山展望台 ③市街地全体	肴町近辺、ふきで町の通り、お盆の季節の鉦屋町、菜園付近の小路、中津川べり、紺屋町裏通り、盛岡駅西口マリオス、開運橋、木伏通り、秋の寺町通り、桜山神社参道周り。	盛岡に対する様々な立場の人の意見を聞くことができました。再認識が出来たことが良かったです。ただ、これからの盛岡という視点も欲しかったと感じました。
9	1				家族で春は公園で桜を楽しみ、夏は山でキャンプ、秋は公園でまた紅葉を楽しみ、冬は桜山界わいで、お酒を楽しみながら、夜の寒さを楽しめるまちだと感じています。	鉦屋町 ①家族、友人、知人 ②旧商家巡り 紺屋町 ①家族、友人、知人 ②造り酒屋周辺と中津川岸辺 本町周辺 ①家族、友人、知人 ②油町含めた旧商家巡り 家族、友人と目も耳も口も楽しめる道であってほしい。ただ、何かを新しくするというよりは、今をもっと磨いた道にしてほしい。	大学生と思われる若者が多数参加していて喜ばしい事。会場を広げ、もっと多くの若者の参加を望む。このサロンで出た意見は、市政「うちまる再編」にどう反映されているのか疑問。広く市民に具体的に示すべき(有識者のみの取組となっている)。
10		1			今日のグループディスカッションで話題の出た「音の風景」。さんさや秋まつりの練習の音など、ぜひ聴いてみたいです。	ここを曲がると、何があるんだろう？どこへ行くのだろう？とわくわく感を抱かせる路地空間。	要所要所で、ニューヨークタイムズの話があり、皆さん自分自身のまちへの愛があるものの、控えめな方々だと感じた。まちの未来について会話することは、非常に良いと思う。時間も最適だった。
11	1				グリーンシーズン、ウインターシーズンともに、盛岡城跡公園で過ごしたい。話しながら、時にはぼーっとしたり。	家族で話しながら、八幡通りを歩きたいと思う。グリーンシーズン、ウインターシーズンともに。	次回も楽しみにしています。準備は大変だと思いますが…。
12	1				グリーンシーズン： ・ピアガーデン ・公園お散歩 ウインターシーズン： ・はしごできるレストラン、居酒屋 ・スケート場	桜山 ・誰とでも！ ・とにかく楽しいし、すすめられる。	沢山の意見を聞けた。とても楽しかったです。
13	1				友人との飲み場として、大通から1本裏に入ったディープな飲み屋さんが集まるまち。店主と客の個々の人のつながりの強さがとても推せる。		楽しかったです！
14	1				グリーンシーズンに恋人と川のほとりでポーっとしたい。	北上川沿いの道。1人であっても、友達と何の取り留めもなく歩くだけで、山も見え、自然も見え、歴史もみえる。そして、それが時季によって見え方が変わるの面白い。	皆の推しの店を聞けたのが一番面白かった。皆が盛岡好きなのがすごく感じられた回だった。
15	1				①グリーンシーズン：盛岡の魅力的な景観を楽しみつつ、イベントを楽しみたいです(北クラフェア、お弁当パラダイス等 様々なイベント)。 ②ウインターシーズン：現在開催している中心市街地エリアのイルミネーション等。	友人とグリーンシーズンに、城跡公園と中津川の間で過ごせる(歩ける)環境がほしい。	「ナワバリではなくツナガリ」が印象に残った。
16	1				春：高松の池の桜 夏：さんさ 秋：岩大の中の木々 冬：岩洞湖	①グリーンシーズン：家族や親しい人と、落ち着いた雰囲気の中でゆっくり景観を楽しめる道。 ②ウインターシーズン：寒くても暖かさを感じられる雰囲気のある道(八幡通り等)。 夏：さんさが行われる中央通	今回の内容も、盛岡の魅力を再認識できる面白いものでした。
17	1				グリーンシーズン：中津川「ふかくさ」付近でのんびり散歩 ウインターシーズン：岩山の展望台	ウインターシーズン：旧生妻町界わいの街灯が好きなので、歩きながらお茶やランチを楽しみたいです。	このイベントが内丸ビジョンに反映されることを期待します。
18	1				①気のおけない友人と。 ②「愛宕下」 ③コーヒーを飲みながら、盛岡の街を見て、その先にある(見える)紫波の山並を見て過ごす(話をせずに)。	①家族、友人 ②中津川(上の橋～中の橋)沿い ③街の景色を見ながら(岩手山を見つつ)歩く。冬のシーズンが特に。	盛岡愛をこれでもか！と感じられる会でした。皆さんアツくて最高です。
19	1				岩手公園 グリーンシーズンでやっている事： ①編みもの会(部活) ②夫とピクニック ③自転車ぶらぶら ④水彩スケッチ ウインターシーズン： 公園にライトアップは凄くよいと思う。こういう透明ブースを仮設して、雪見しながら少し休めるとか。	川沿いにベンチを増やしてほしい！ 大通の空き店舗前にイスを置くとか。	大変有意義な機会で、多様な意見が聞けて良かった。
20	1				①仲の良い人(家族、友人...) ②中津川沿いの5月～9月ごろ、夕暮れ時に。 ③近所のテイクアウトとペアルビールでゆっくり語りながら食べて過ごす。 (グリーンシーズン) 中津川周辺～肴町付近、ピクニックをしたり、喫茶店で過ごしたり、(ウインターシーズン) その周辺の飲食店・バーなどであったかい食事を楽しむ。	川沿いにベンチを増やしてほしい！ 大通の空き店舗前にイスを置くとか。	私はTwitterで「#盛岡レトロ」というキーワードで色々書いているのですが、盛岡はレトロっぽさを売りにしたら良いと思う。 盛岡に暮らして風景画になるスポットが沢山あるので、絵になるまち、場所をどんどん紹介してほしいと思いました(私はイラストの仕事をしているのですが、街の水彩画を描いています)。 あと、外国でスケッチして思っていたのは、外国の人に向けての言語表記とかの案内は全然足りないと思います。せめて英語版(中国版)で、手に入りやすいパンフレットがもっとないとアカンと思いました。
21	1				①仲の良い人(家族、友人...) ②中津川沿いの5月～9月ごろ、夕暮れ時に。 ③近所のテイクアウトとペアルビールでゆっくり語りながら食べて過ごす。 (グリーンシーズン) 中津川周辺～肴町付近、ピクニックをしたり、喫茶店で過ごしたり、(ウインターシーズン) その周辺の飲食店・バーなどであったかい食事を楽しむ。	①仲の良い人や、盛岡に滞在しに来る人 ②菜園の通り(盛岡駅から城跡公園までつぎつぎいける) ③この通り沿いに色々なカフェとか、滞在できる場がほしい。 夏・冬ともに、八幡宮、肴町、中の橋、桜山～盛岡城跡公園～菜園付近を散歩したい。夏はコーヒーやビール(グラウラーなどで)を片手に、冬は屋内でコーヒーや食事を楽しみながら。	個店のつながり、てくりの大切さがわかった。
22		1			グリーンシーズン：友達と中津川沿いのベンチで、コーヒーやケーキを楽しみながらおしゃべりしたい。 岩手公園と、周辺の飲食店。誰ともいつでも。	グリーンシーズン：菜園通り：友達と服屋さん、雑貨屋さんを見ながら歩きたい。	色々な話を聞けて面白かった。場所柄かもしれないが、他の地域から移住された方が多かったのが印象に残った。
23	1				高松の池のベンチ、中津川を眺められる喫茶店、岩手山が美しく見えるところ。	県庁、市役所前通り 春：石割桜 夏：さんさ踊り 春～秋：街路樹 散策、内丸緑地で一休み。	色々な年代層の方が来ていて、それぞれの知っている盛岡の姿を知れたのが面白かった。
24	1				中津川：家族、友人と水辺空間でBBQ、水遊びなど。	川岸の通り：一人でも景色を楽しみながら散歩	初めて参加しました。色んな人の意見が聞けてよかったです。
25	1				グリーンシーズン：①職場の同期 ②桜山のあたりの喫茶店 ③歩きながら新しいお店を見つける。古くからある店の雰囲気やゆくりと楽しむ。 ウインターシーズン：①友達 ②高松公園 ③白鳥を見に行く	グリーンシーズン：①友達 ②大通 ③飲んだり食べたりして楽しむ ウインターシーズン：①友達 ②イルミネーションがある場所 ③写真を撮ったりして楽しむ	参加者の中に、街への想いや、アイデアを強く持っている方がいたので、もっと掘り下げてみる面白いのでは？ 小さい頃から身近な場所だと思っていたところの魅力に改めて気づきました。
26	1				グリーンシーズン：①職場の同期 ②桜山のあたりの喫茶店 ③歩きながら新しいお店を見つける。古くからある店の雰囲気やゆくりと楽しむ。 ウインターシーズン：①友達 ②高松公園 ③白鳥を見に行く	川岸の通り：一人でも景色を楽しみながら散歩	
27	1				グリーンシーズン：①職場の同期 ②桜山のあたりの喫茶店 ③歩きながら新しいお店を見つける。古くからある店の雰囲気やゆくりと楽しむ。 ウインターシーズン：①友達 ②高松公園 ③白鳥を見に行く	グリーンシーズン：①友達 ②大通 ③飲んだり食べたりして楽しむ ウインターシーズン：①友達 ②イルミネーションがある場所 ③写真を撮ったりして楽しむ	

■第4回うちまるサロン「未来の盛岡ってどんなまち？」

- ・日 時：令和5年2月18日（土）14:00～16:00
- ・ゲスト：南正昭（岩手大学理工学部 教授）



専門は、都市・交通計画学、土木計画学。岩手の復興支援、地域づくりにつながる実践的研究活動を継続しているほか、盛岡市都市計画審議会会長、盛岡市立地適正化計画検討協議会会長など、盛岡市のまちづくりに関わっている。

日本都市計画学会理事・東北支部長、一般財団法人3.11伝承ロード推進機構理事、岩手県東日本大震災津波伝承館運営協議会会長ほかの公職も務める。

- ・参加者：24人
- ・事後アンケート結果

楽しめた	13
どちらかという楽しめた	4
あまり楽しめなかった	1
楽しめなかった	0

※他の設問、回答は後段に記載。





未来の盛岡ってどんなまち?

都市「盛岡」の形成「クリスタライゼーション」盛岡シティ*



色んな条件の重なりで盛岡は... 街

★長い歴史の中で1137年条件が
奇跡的なぶらに重なった。今、盛岡の今の都市のカタチはここから

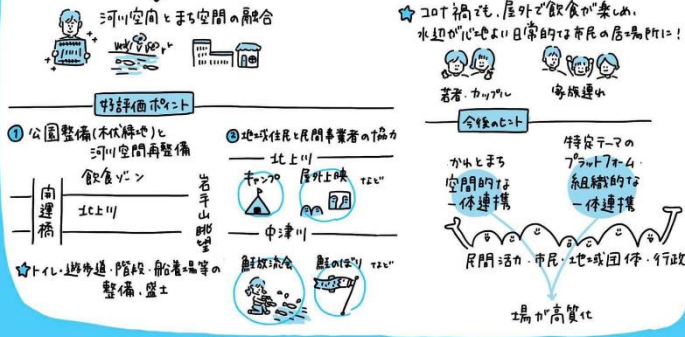
Q 盛岡は本当に1バリエーション?
A 学生の研究結果から明らか

合衆開発促進の
議論が盛岡に
送られた時
立ち戻る軸が大事

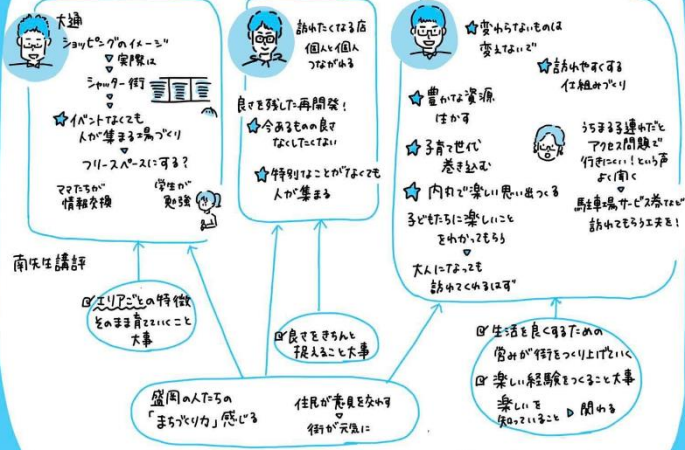
7つの方向性



市からの報告: 盛岡地区の令和4年度全国かまち大賞受賞と今後のこと



各班発表



★これから99%の市民の皆さんが、内住づくりに参画し、盛り上げたいことを実現!

意見交換概要

グループ1		
n0	意見	意見概要
1	岩手大学が設立された当時の指名は寒冷地における農業振興にあったと聞いている。これこそ大学の役割だと思った。 内丸地区も、当時の岩手大学のように、これからの盛岡、ひいては岩手の暮らしやすさを高めていく場所になってもらいたい。	その他
2	昔の面影や街並みを大事にして都市が更新されることが大事だと思う。	歴史
3	内丸地区は自然の美しさが特徴だと思う。街路樹を減らさないでほしい。	自然
4	中央通りは市役所によるアイストップビスタが美しい。市役所はこれからもシンボルとして位置づけたい。浸水リスクはあるがピロティのようにすれば災害リスクが回避でき、中津川も眺めることができる。	中津川
5	川辺で休んだり、暖をとったりするステキなスペースがあるとよい。盛岡市は観光客によさを十分に伝えられていないと思うので、そのようなスペースで観光情報を発信することもよいと思う。	中津川
6	内丸緑地の西側は未完成なので、ぜひ完成させてほしい。せっかくの財産だと思うので、滞在してもらえる場所になるといい。	内丸緑地
7	盛岡駅、内丸、肴町は絶妙な距離だと思う。歩いて暮らせるというか、歩きで済むまちだとも思う。	歩いて暮らせる
8	南先生の話聞き、内丸地区に行く機会はないが、歩いて行けるんだと気づいた。そういった距離間は盛岡ならではかもしれない。	歩いて暮らせる
9	内丸を歩きやすくするだけでなく、内丸に訪れやすいように公共交通も充実させる必要があるとも思う。郊外に住む人たちもアクセスしやすいようにして、“パッと”来ることができるまちにするとよいと思う。	公共交通
10	内丸地区は歩いていて楽しいが、自家用車で子どもを連れてくるにはハードルが高い。駐車場代が高い。子どもにとってもやさしくないのが、子ども連れはイオンに行く。駐車場も安く、子どものための設備も充実している。内丸地区に子ども連れで訪れやすくするべき。一度訪れればよさが分かるはず。子どもの頃によく訪れるうちに記憶に残り、大人になっても内丸や中心市街地により印象を持ってもらえるようになるのではないかな。	子ども

グループ2		
n0	意見	意見概要
1	今の内丸を活かす” 宝石のような” まちのなかの市役所	その他
2	川を活用することが大事	自然
3	新しい所と歴史的な所の折り合いが重要であり、東京のようにまち全体を再開発する必要性は低い	その他
4	すべてを新しくする必要はない。城跡公園や中津川等は貴重な資源と感じている。	歴史・自然
5	いままでに築いてきたものは変えない方がいい。城跡公園や中津川など	歴史・自然
6	訪れると面白い。隠れていることもよい。核から広がるイメージや宝石を見つける楽しさを感じながら歩ける空間になると楽しい。	歩いて暮らせる
7	誰のためのまちか、忘れずに検討が必要	その他
8	お祭りでない日も人が集まる空間に、平日休日いつでも人があふれるまちなかになってほしい	その他
9	結晶という言葉がよかった、内丸の核となるものを大事にしていきたい	その他
10	目に見えるものや人とのつながりは、結晶が繋がることで目に見えるようになること、同じイメージを感じた	その他

グループ3		
n0	意見	意見概要
1	内丸はコミュニティの起点として、交流の場になってほしい	その他
2	イベントやお祭りがなくても、自然と人が集まるような場所になるとよい	その他
3	大学生などの若い世代が、自然と集まれる空間になってほしい	その他
4	官公庁街でも、休日のにぎわいが途切れない空間になってほしいし、そのための仕掛けを考えていくべき	その他
5	特に子供がいると思うのが、クルマを気にせず歩きやすい空間になってほしいこと	歩いて暮らせる
6	建物の高さを考えて、岩手山や中津川を望める空間にしてほしい	その他
7	積み上げてきた歴史が盛岡の良さだと思う	歴史
8	医大や赤レンガなど、古い建物を守りながら、残して行ってほしい	歴史
9	変えることが目的となつてはいけない。無理に変えないことも選択肢として残されるべき	歴史
10	内丸でなんでも完結するのではなく、周囲のエリアと連携して、役割分担することも大切	その他

うちまるサロン vol.4 アンケート

No.	Q1-1. 楽しめた	Q1-2. どちらかという楽しめた	Q1-3. あまり楽しめなかった	Q1-4. 楽しめなかった	Q2. 盛岡で、身近な人（友だち、恋人、家族、職場の仲間等）と、過ごしたいと思う道（通り）はどんなところか。【①だれと②どこで（何があって、どのような雰囲気かなど。）③どんなふうにする場所でも空想でもOKです。】できればグリーンシーズン（春・夏・秋）とウインターシーズン（冬）、それぞれ書いてください。	Q3. イベントの感想
1	1				・川べりと緑がつながる景観 ・いつも人が集まるエリア	街のことを考え、熱く語れる方々がたくさんいることが嬉しいです。
2	1				市役所の跡地（移転を前提とすると）を、人が集まる場にしてほしい。高校生がぶらっと立ち寄り、子連れの方の遊び場になるようなエリアになると良いと思う。子育て世代の声を入れることが大切だと思う。	今日のイベントはとても勉強になりました。将来の盛岡中心市街地の中心となる子連れでも中心市街地を利用しやすくなるように、バスなど公共交通機関、駐車場料金割引、ベビーカーでの利用しやすさなどを配慮していただきたいし、そのためにも子育て世代の声も内丸の再開に入れてほしい。
3	1				城跡公園を公園としてもっと活用する。施設を作るのは公園利用者のためになるものを。物販用の空地ではない。	
4	1				（裏面記載のとおり）	南先生のお話が素晴らしかった！広く市民にも聞いていただきたい。
5	1				個人的には市役所は別のところに移転してもらって、「いい・集いスペース機能」のある建物を作ってほしい！内丸緑地にどんだん子供が集まるしくみを作った方が良いと思う。例えば、経済的に塾に行けない子ども対策の放課後学習スペースとか、子育ての悩み相談所とか。	南先生のお話、面白かったです！内丸のエリアだけでなく、他エリアが内丸にアクセスしやすい交通のしくみを作ってほしい。（バスとか路面電車とか？）内丸だけ良くなっても仕様がなくて、町全体の暮らしやすさと平行して考えるのが良いと思った。
6			1		肴町も含めて老化した建築物の移設は必須と感ずます。一方で駅前や大通りのような居住空間が内丸にもほしいです。	内丸や大通りの電柱地中化は都市景観をそこねないよう優先してほしい。発達障害、聴覚過敏もあるので、静かな場所が行きやすくなるとありがたい。
7	1				今ある人情味あふれる店、人々、にぎわいを大切にしてほしい。	内丸の楽しいところ、面白さをどのようにしたらいいかを賛否関係なく話せて良かった。
8		1			市役所がどうなるかが気になり。	いろいろ思いついた事もあり、良い経験でした。
9		1			市役所も新しく作られるので、人が集まる所になってほしい。	町づくりに対して勉強になりました。今後とも盛岡を盛り上げていきたいので、このようなイベントはぜひ参加したいです。
10	1				・県、市の中枢機関が集まる文字通りの中心市街地を形成すると共に城跡公園を軸として“河南”と“菜園”がそれぞれの特色を持ったエリアになることを期待します。 ・空気を駐車場にするのではなく、小さな公園にする事でコーヒーの店や小さなイベント（フリーショップ）などの開催などを行い、人が集まる場を提供しては…。	夢を話し合うのは良いが、“内丸”の核である市役所（県庁…）が移転した際に、本当に今の内丸のブランドが維持できるのかも考えていく必要があるのではないかと思います。この様な会の継続を希望します。
11	1				（裏面に青色文字で記入） 現市庁舎の縦形状を空地と連続した一体化の低層新市庁舎の横展開とし、1Fは駐車場（水害時考慮）、2～3F or 4Fは市庁舎、屋上は開放し、緑地、公園、ファストフード（コーヒー主体）店舗、乳幼児向け遊具…とする。さんさ踊り時は観覧席に。高層であるべきではないと思っています。	うちまるサロン開催内容は市HPで公開されているとの事ですが、市政に対してはどのような形、内容で反響されているのでしょうか？HP公開止まりですか？ <u>反響の仕方</u> （具体的な事項）が重要だと思っています。具体的に参加者へ伝達願えればと思います。
12		1			・盛岡城の復元とそこを中心とした観光エリア整備 ・以前のようにサケの遡上が戻ること ・企業誘致⇒人口増（減少に歯止め） ・バス利用、時間など分かりやすく（今、分かりづらい） ・無料の駐車場（大きな）	“盛岡クリスタル”との表現が非常に面白かったです。魅力がまだまだいっぱいあることを改めて気づかされました。
13	1				・イベント業がなくても万人が足を運べる場所になること。（老若男女、市民、visitors [日本人、外国人]） ・少しずつ進化しながらも不変の価値を維持していくこと。 ・歩いて周ることが出来る街は、実はそれほど多くはない⇒構造を維持すべき。（文化、食等が共存するところ） ・忙しい人も暇な人も便利で行きたくなる場所、居たくなる場所になることを期待しております。	※ 盛岡のクロニクル、ご説明いただいて良かった。関係者の皆様が真摯に盛岡の活性化、価値の維持についてお考えであることがわかり良かったです。私自身は東京と盛岡を往復する生活をしており、内側と外側双方の視点で盛岡を拝見しています。盛岡の人が優しいかは？ですが(笑)、高い目標、目的のために努力できる、一致できる市民であると思っています。 (52 place to go in 2023) この機会を逃さず、市民の目を世界の目をずっと向けさせたままとなるようにしていただきたいと思っています。
14	1				・官公庁、オフィス街となり、若い人材を他に流出させず発展していく ・若くて活力のある街へ ・若い女性が集まる街へ（楽しいことが好き）	参加者、意外に少なく感じた。NYタイムズ効果はないものか、空席あり。南教授のスノークリスタル・ナカヤ・ダイヤグラムからの話の展開が楽しかった。
15	1				交通の利便性、風景を守る。	貴重な話が聞けて、とても勉強になりました。
16	1				内丸付近に住んでいる人だけではなく、松園や青山に住んでいる人がアクセスしやすくなるような環境作りを行ってほしい。	・多くの人の視点からみた内丸を知ることができた。 ・新しく作った物や樹木を今後どう維持していくかを考える必要がある。
17	1				今の雰囲気、魅力を維持しつつ、人が集まりやすいスペースの拡充等。	今回も講演会やフリートーク等を通じて、新たな気づきを得ることができました。大変ありがとうございました。
18		1			・団地と中津川との一体感のある整備 ・城跡公園をよりシンボリックに（盛岡の家長として） ・なるべく移転せず、今の機能を維持しつつ市民がより集まれる機能があると良い。	参加者の熱量を感じました。

3. 第4回アンケートまとめ

○第4回うちまるサロンでは終了後のアンケートで、将来の内丸地区での過ごし方・楽しみ方を考えてもらいました。結果は以下のとおりです。

Q2. 本日将来の内丸地区のイメージを聞かれた上で、「ここで、こういう風に過ごしたい」「ここで、こういうことをしたい」と思うことは何ですか。アンケート用紙裏面のマップに過ごし方・やりたいことを書いてください。

場所を特定しない意見

- ・交通機関…主なバス停には必ず屋根付きベンチを置く等、できないだろうか？(冬は高齢者が大変そう)
- ・電柱の地中化、ビルを平たく、低層に入りやすく
- ・ポータブル椅子を持って、ポーっとするチェアリングが楽しい

地点①～⑥とその周辺に関する意見 ※①～③は複数有

- ①個人商店を増やす(餅菓子、洋菓子店)、魚屋等は維持、美味しいレストラン、喫茶店
- ②健全で美味しい居酒屋、喫茶店、バー、レストラン
- ③城下町であることを表現する為に、城の門があった所(の近く)の交差点に名前(大手先門、中ノ橋門、日影門等)を付けて、信号機に看板を掲げる。
- ④「まちなか」を撮った写真コンテスト(例 岩手山、中津川、岩手公園、歴史建造物、野草花を必ず入れる)
- ⑤音楽、本屋、絵本、おもちゃ屋(文化的ショップ)、インノベーション施設(デモをやる場所)
- ⑥ここからスケッチ、お弁当

区域①に関する意見

- ・歴史探索エリア
- ・旧町名探し、旧町名板探しと歴史学習
- ・存在する歴史建造物探し
- ・喫茶店探しとコーヒータイム

区域②に関する意見

- ・コミュニティや飲み屋等を入りやすくする。
- ・老朽化した建造物の郊外移転

区域③に関する意見

- ・隣接する場所をどうするか？

区域④に関する意見

- ・散歩
- ・川沿いをぶらぶらと歩きたい。コーヒーやアルコールも楽しみたい。

区域⑤に関する意見

- ・水路跡が楽しい

区域⑥に関する意見

- ・市役所は移転するとしても、それに代わる「アイストップ」が必要。ミズベリング等、「市民共同まちづくり」の拠点施設としてはどうか。
- ・市役所は内丸以外考えられない。移ったら市全体が必ず衰退する。
- ・低階層(3F程度、1Fパーキング)庁舎、屋上は緑地、公園、幼児遊具
- ・内丸緑地の西側部分は暫定共用であるため、完成させて、市民、来訪者の憩いの場としてほしい。

区域⑦に関する意見

- ・街歩きをしたい、一杯ひっかけたり、街歩きを楽しみたい。

街路①に関する意見

- ・町を巻き込んでイベントをしたい。
- ・さんさ踊りを世界の祭にしたい。
- ・おそらく唯一の「アイストップ・ビスタ景観+お祭り広場」の景観を残したい。
- ・シティマラソンは中央通を走りたい。
- ・イベント(毎週JAZZ、Classic等)、座れる場所

街路②に関する意見

- ・シャッター店舗を借り上げ、開放し、子育て中の親の情報交換場、若者が気軽に集まる場、勉強の場に各々場所を設置して無料開放する。
- ・購買目的でなく、人が集まる場の提供から近隣店舗の購買につなげる。
- ・イベントによる集客は、一過性で終わるので、恒常的な仕組みが必要だと思う。

街路③に関する意見

- ・遊歩道をもう少し広く(3m位)にしてほしい。

盛岡城跡公園に関する意見

- ・光と音をシャットアウトできる仮眠室がほしい
- ・城跡周回ジョギングコースを作る。柔らかい舗装と距離表示。

エリアA

- ・場跡公園の花見が美しい
- ・イベント
- ・お散歩コース(高齢者、子供達にも歩きやすい)
- ・花見、ランチ、コーヒータイム、ポーっとする場、蛍観察会
- ・城跡公園(四季の景色を楽しみたい、芝の上で寝転んで過ごす)
- ・子供と走りたい
- ・築城

エリアB

- ・自然+歴史的空間でゆっくりしたい

エリアC

- ・フリスビーやパークゴルフ、雪だるま作りをする
- ・弁当が食べたい、お酒も呑みたい
- ・ピクニック、編み物、スケッチ、読書

エリア①に関する意見

- ・広場を囲む緑

エリア②に関する意見

- ・川沿いで散歩
- ・中津川で鮎釣りをしたい
- ・ヤナ漁を見てみたい
- ・塩焼きが食べたい
- ・中津川沿いを岩手山を見ながら散歩する
- ・マルシェ等

エリア③に関する意見

- ・うちまる訪問後、必需品、生活用品、食品等を買って買える商店街・マルシェ等(現在は盛岡市西側に大型店が集中していて、車が無い、運転できない人にはとても不便)(大通り=全国チェーンの居酒屋の為の場所では…)
- ・川や古い建物を眺めたい【中津川沿いのみ該当】

エリア④に関する意見

- ・旧消防庁署をイベント会場に活用

エリア⑤に関する意見

- ・堀と桜を眺めていたい

エリア⑥に関する意見

- ・広くてきれいな店内でじゃじゃ麺を食べたい
- ・飲食店スタンプラリー
- ・人情味あふれる多様な店を全制覇したい
- ・酒、カフェ
- ・店の入れ替えがあり、ますます魅力的になってきた
- ・美味しいものを食べたい

エリア⑦に関する意見

- ・サケと同様に人による川のそ上大会開催
- ・夏休み、子供水遊びで体験会(水泳、潜り、水生昆虫・魚・鳥観察、釣り)
- ・河川敷でバーベキュー

